Pioneer sound.vision.soul

DVD 5.1ch サラウンドシステム

HTZ-535DV






DVD ビデオのリージョン番号

DVDプレーヤーとDVDビデオディスクには発売地域ごとにリージョンNo.(地域番号)が設けられています。海外で購入したDVDビデオディスクは、リージョンNo.の違いにより再生できない場合があります。本機のリージョン No. は「2」です。

再生できるDVDビデオディスクのリージョン表示の例)  など

DVDレコーダーをお持ちのお客様へ



※DVDレコーダーのビデオモードで記録したDVD-R/-RWディスクを本機で再生するときは、ファイナライズ(録画終了処理)してください。

インターネットによるお客様登録のお願い

http://www.pioneer.co.jp/support/

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。弊社では、お買い上げいただいたお客様に「お客様登録」をお願いしています。上記アドレスからご登録いただくと、ご使用の製品についての重要なお知らせなどをお届けいたします。なお上記アドレスは、困ったときのよくある質問や各種お問い合わせ先の案内、カタログや取扱説明書の閲覧など、お客様のお役に立てるサービスの提供を目的としたページです。

RW COMPATIBLE

取扱説明書

安全上のご注意

●安全にお使いいただくために、必ずお守りください。
●ご使用の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△ 記号は注意(警告を含む)しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。



⃠ 記号は禁止(やってはいけないこと)を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。



● 記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)が描かれています。

⚠ 警告

異常時の処置



- 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。



- 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



- 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

設置



- 電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



- 電源コードの上に重い物をのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。また、電源コードが引っ張られないようにしてください。コードが傷ついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。



- 放熱をよくするため他の機器、壁等から間隔をとり、またラックに入れる時はすき間をあけてください。また、次のような使い方で通風孔をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
  →あおむけや横倒し、逆さまにする。
  →押し入れなど、風通しの悪い狭いところに押し込む。
  →じゅうたんやふとんの上に置く。
  →テーブルクロスなどをかける。



- **着脱式の電源コード(インレットタイプ)が付属している場合のご注意:**
  付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用部品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。また電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱から火災・感電の原因となることがあります。

使用環境



- この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。



- 風呂場、シャワー室等では使用しないでください。火災・感電の原因となります。



- 表示された電源電圧(交流100ボルト50/60 Hz)以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。



- この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災の原因となります。

使用方法



- 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物をおかないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。



- ぬれた手で(電源)プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。



- 本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。



- 本機のカバーを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。



- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、販売店に交換をご依頼ください。



- 雷が鳴り出したらアンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。



- 製品に付属の電源コンセントには、そのパネルおよび取扱説明書に表示された容量を超える消費電力を持つ電気機器を接続しないでください。火災の原因となります。
  電熱器具、ヘアードライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また表示してある電力以内であっても、電源を入れた時に大電流の流れる機器などは接続しないでください。

⚠ 注意

設置



- 電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。



- 電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。



- ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。



- 本機を調理台や加湿器のそばなど油煙、湿気あるいはほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。



- キャスター付きの場合にはキャスター止めをしてください。動いたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。



- テレビ、オーディオ機器、スピーカー等に機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。



- 電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。

異常時の処置



- 本機の上にテレビを置かないでください。放熱や通風が妨げられて、火災や故障の原因となることがあります。(取扱説明書でテレビの設置を認めている機器は除きます。)



- 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。



- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。



- 移動させる場合は、電源スイッチを切り必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから、行ってください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。



- 本機の上にテレビやオーディオ機器を載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。重い場合は、持ち運びは2人以上で行ってください。



- 窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。

使用方法



- ディスクを使用する機器の場合、ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しないでください。ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散ってけがの原因となることがあります。



- レーザーを使用している機器では、レーザー光源をのぞきこまないでください。レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。



- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。



- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、こわれたりしてけがの原因になることがあります。



- お子様がカセットテープ、ディスク挿入口に、手を入れないようにご注意ください。けがの原因になることがあります。



- ヘッドホンをご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。



- 旅行などで長期間ご使用にならない時は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

電池



- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



- 電池を機器内に挿入する場合、極性表示(プラス(+)マイナス(−)の向き)に注意し、表示どおりに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



- 長時間使用しない時は、電池を取り出しておいてください。電池から液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また万一、もれた液が身体についた時は、水でよく洗い流してください。



- 電池は加熱したり分解したり、火や水の中にいれないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

保守・点検

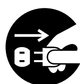


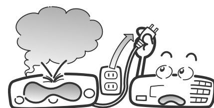
- 5年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。なお掃除費用については販売店などにご相談ください。



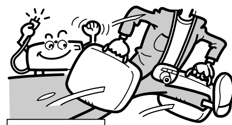
- お手入れの際は安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

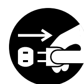
● 電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ(遮断装置)を抜く必要があります。万一の事故に備え、本機を電源コンセントの近くに設置し、電源プラグ（遮断装置）に容易に手が届くように設置してください。


プラグを抜け



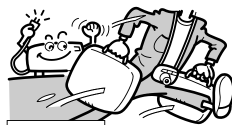
● 機器本体のSTANDBY/ONボタンで電源を切っても、電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ（遮断装置）を抜く必要があります。旅行などで長期間、この製品をご使用にならないときには安全のため必ず電源プラグ（遮断装置）をコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

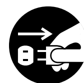



プラグを抜け

⚠ 注意

● 表示部が消えていても電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ（遮断装置）を抜く必要があります。旅行などで長期間、この製品をご使用にならないときには安全のため必ず電源プラグ（遮断装置）をコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。




プラグを抜け

🛇 禁止

● 付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用部品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。また電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱から火災・感電の原因となることがあります。

! 本機の放熱について

● 本機を設置する場合には、壁から１０ｃｍ以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して設置してください。ラックなどに入れるときには、本機の天面から１０ｃｍ以上、背面から１０ｃｍ以上、側面から１０ｃｍ以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

もくじ

1 はじめに

2 ディスクの再生

3 ラジオを聞く

4 いろいろな機能を使う

5 サラウンド再生

6 タイマーを使う

7 DVD の初期設定

8 サラウンドの設定

9 システムの設定

10 他機器の接続と設定

11 その他

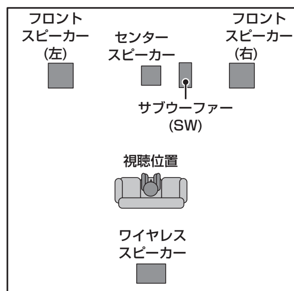
サラウンドシステムを楽しむ前に

ドルビーデジタル、DTSやMPEG-2 AACなどのソースを迫力あるマルチチャンネルでお楽しみいただくために、別添のシステムセットアップガイドをご覧になり下記の順序で接続やスピーカーの配置を行ってください。

STEP 1 箱を開けて付属品を確認する

STEP 2 接続する
スピーカー、トランスミッター、テレビ、アンテナ、などを本機と接続します。

STEP 3 スピーカーの設置
下の図のようにスピーカーを設置してください。ワイヤレススピーカーを設置するスペースが視聴位置の後方に確保できないときは、ワイヤレススピーカーを視聴位置の左側か右側に設置することができます。詳しくは「ワイヤレススピーカーのいろいろな設置」(42ページ)をご覧ください。



STEP 4 電源を入れる

STEP 5 再生してみる

サラウンドの自動設定（MCACC）へお進みください。

サラウンドの自動設定（MCACC）

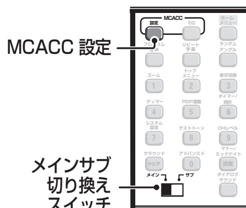
本機のMCACC設定では、従来のマニュアル調整では難しかったさまざまな設定を、自動で高精度に測定、設定することができます。
スピーカーから出力されるテストトーンを付属のセットアップ用マイクで測定し、解析します。すべての測定／解析にかかる時間は、2～4分程度です。

注 意

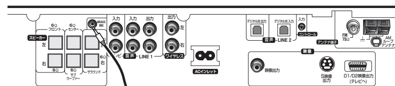
- ◆ 測定中は大きな音でテストトーンが出力されます。近隣住宅や小さなお子様などへのご配慮をお願いします。
- ◆ 測定の途中で音量を下げることもできますが、正しく設定されない場合があります。
- ◆ 付属のマイクをTVモニター近くにおいてセットアップを行わないでください。
- ◆ ワイヤレスモードがオフまたはステレオに設定されているときはサラウンドの自動設定を行うことはできません（44ページ）。

メ モ

- ▼ 測定中は静かにしてください。
- ▼ スピーカーとリスニングポジション（マイク）の間に障害物があると、正確に測定できないことがあります。
- ▼ 測定中はリスニングポジションから離れて、各スピーカーの外側からリモコンで操作を行ってください。
- ▼ 測定を中断した場合は、それまでの測定内容は確定されません。
- ▼ サラウンドの自動設定(MCACC)を行うと、マニュアルで微調整した以下の内容もすべてリセットされます。
  - ・各スピーカーまでの距離（64ページ）
  - ・スピーカー出力レベル（67～68ページ）



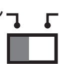
1. セットアップ用マイクを接続する



セットアップ用マイク

マイクはリスニングポジション（耳の位置）に三脚や台などを使って水平になるように設置します。

2. メインサブ切り換えスイッチをメイン側に切り換えます



3. MCACC 設定ボタンを押します



Setup

自動的に音量が上がり、自動設定が始まります。
「Please wait」と表示されテストトーンが出力されます。
「Analyze」⇔「Noise」
：部屋の騒音をチェック中
「Analyze」⇔「MIC」
：マイクの接続をチェック中
「Analyze」⇔「Speaker」
：すべてのスピーカーの接続をチェック中
「Analyze」⇔「Distance」
：スピーカーまでの適正距離を解析中
「Analyze」⇔「CH. Level」
：各 ch の出力バランスを補正中
「Analyze」⇔「EQ」
：出力音声の音色を統一

4. ディスプレイに「Complete」と表示されたら自動設定は終了です

アコースティックキャリブレーションEQが自動的にオンになり、MCACCインジケーターが点灯します。（14、51ページ）

メ モ

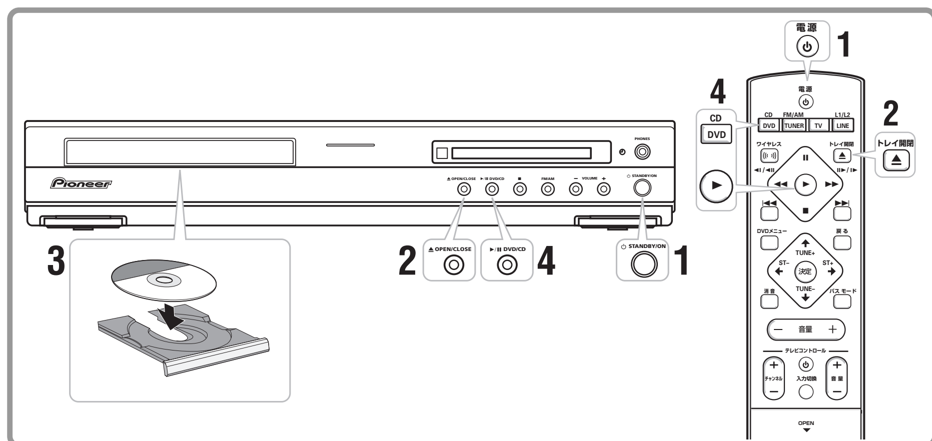
▼「Complete」と表示されないまま自動設定が中断されたときは、スピーカー、マイクの接続を確認し、もう1度はじめから自動設定をやり直してください。

自動設定中に以下のエラーメッセージが表示されることがあります。
そのときは「原因／対策」をご覧ください。

エラー表示	原因／対策
Noisy! ⬇ Retry?	部屋の騒音レベルが大きい。 静かにしてから決定ボタンを押します。
Err MIC! ⬇ Retry?	セットアップ用マイクが接続されていません。 セットアップ用マイクを接続してから決定ボタンを押します。
Err SP! ⬇ Retry?	接続されていないスピーカーがあります。 すべてのスピーカーを接続、配置してから決定ボタンを押します。

再生する

あらかじめテレビとワイヤレススピーカーの電源を入れて、テレビの入力を切り換えておいてください。ワイヤレススピーカーの電源の入れ方はシステムセットアップガイドをご覧ください。



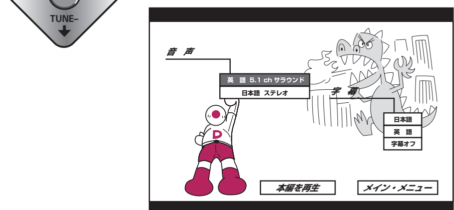
メ モ

▼ ディスクテーブルを閉めると自動的に再生を始めるDVDもあります。

メニュー画面が表示されたら

再生を始めると最初にメニュー画面を表示するDVDがあります。メニュー画面の内容や操作方法はDVDによって異なりますが、基本的な操作は以下のとおりです。

1. **リモコンの ⬆⬇⬅➡ で選択して決定ボタンで決定します。**



メ モ

▼ 画面の上下に帯がつくDVDがあります。本機の故障ではありません。
▼ DVDのメニューによっては、リモコンの数字ボタンで番号を選んで再生できるものもあります。

止めたところから再生する（リジューム機能）

DVD-Video Video CD CD(R/RW) DivX では、本体の表示窓に[Resume]と表示され、停止したところを記憶します。

■ボタンを押してディスクを停止するとその場所を記憶するので、次回は続きから再生を開始します(リジューム機能)。また、ディスクを取り出してもDVD5枚、ビデオCD1枚分の停止した場所を記憶しています(ラストメモリー機能)。次回、そのディスクを入れると、取り出す前に停止した場所から再生を始めます。停止中に■ボタンをもう一回押すと、リジューム機能またはラストメモリー機能が解除され、次に再生するときはディスクの最初から開始します。

メ モ

▼ DVD-R/RW CD(R/RW) では、ラストメモリー機能が働きません。
▼ ラストメモリー機能では、別のディスクを記憶すると前のディスクのメモリーが消去されます。
▼ ラストメモリーを記憶させたくない場合は、**■ボタン**を押さずに**▲ボタン**でディスクを停止して、取り出してください。
▼ リジューム機能は、ディスクを取り出すと解除されます。また、電源を切ったり、入力をDVD/CD以外に切り換えたときも解除されます。

電源を切る

電源を切る前にディスクを取り出しましょう。

1. 電源 **⏻本体のSTANDBY/ONボタンまたはリモコンの電源ボタンを押す**

メ モ

▼ 電源コードをコンセントから抜くときは、本体表示窓の[Good Bye]表示が消えていることを確認してください。[Good Bye]表示中に抜くと本機の設定がお買い上げ時の設定に戻ることがあります。

Q1: 電源が入らない!

→ 電源コードが正しくコンセントに接続されていますか？（システムセットアップガイド）

Q2: 映像が映らない!

→ ビデオコード(黄)が正しく接続されていますか？（システムセットアップガイド）

→ テレビの入力切換を合わせましたか？接続したビデオ入力に合わせてください。

→ プログレッシブ対応していないテレビに接続しているときに**[プログレッシブ]**を選択していませんか？（表示窓の[PRGSVE] が点灯していませんか？）。58ページを参照して、**[インターレース]**に切り換えてください。

Q3: リモコンで操作できない!

→ 本体との距離が離れすぎていませんか？約7mの範囲でのみ操作することができます。

→ リモコンをテレビに向けて操作していませんか？本体のリモコン受光部に向けて操作してください（13ページ）。

Q4: ディスクテーブルを閉めても出てきてしまう。または、再生ができない!

→ ディスクがディスクテーブルに正しくセットされていますか？

→ ディスクが汚れていませんか？ディスクをクリーニングしてください。

→ ディスクの表裏が正しくセットされていますか？

→ リージョンNo.が一致していますか？本機で再生できるリージョンNo.は**「2」**と**「ALL」**のみです。（84、87ページ）

→ 本機の内部に結露が付いている可能性があります。結露を除去してください。（96ページ）

Q5：音が出ない!

→ ボリュームが0になっていませんか？ボリュームを上げてみてください。

Q6：フロントスピーカーとサブウーファーからしか音が出ない!

→ 接続が正しくされているか、別紙の「システムセットアップガイド」を参照してください。

→ **サラウンドボタン**を押して、マルチチャンネル再生に切り換えてください。（45ページ）

Q7: マルチチャンネル再生にならない

→ **サラウンドボタン**を押して、お好みのモードを選んでください。（45ページ）

→ ワイヤレスモードが「**Stereo**」または「**Off**」になっていませんか？「**Normal**」または「**Wide**」、「**Left**」、「**Right**」のいずれかに切り換えてください。（44ページ）

→ サラウンド効果が不十分なときは「スピーカー出力レベルの調整」（67ページ）をご覧になり、RS（サラウンド右）、LS（サラウンド左）チャンネルのレベルを調整してください。

→ ワイヤレススピーカーの**TUNEDインジケーター**は点灯していますか？トランスミッターの**チャンネル選択ボタン**を押してチャンネルを切り換えるかトランスミッターの位置を動かしてみてください。（18ページ）

再生できるディスクの種類

・本機はNTSC（日本のテレビ方式）に適合していますので、ディスクやパッケージに「NTSC」と表示されているディスクをご使用ください。
・下記のマークはディスクレーベル、パッケージ、またはジャケットに付いています。

DVD	DVDビデオ		DVD-R	DVD-RW
ファイル／フォーマット	DVD-Video		DVD-Video	DVD-Video VR DVD-RW
CD	ビデオCD	CD	CD-R	CD-RW
ファイル／フォーマット	Video CD	CD(R/RW)	CD(R/RW) WMA/MP3 JPEG DivX	CD(R/RW) WMA/MP3 JPEG DivX
F-Disc（エフディスク）	(株)フジカラーサービスのフジテレシネサービスで作成されたディスクです。			
フジカラーCD	FUJICOLOR CD COMPATIBLE	FUJICOLOR CD COMPATIBLE	：このマークは、富士写真フイルム(株)の商標です。	
コダックピクチャーCD				

コピーコントロールCDについて
当製品は音楽CD規格に準拠して設計されています。CD規格外ディスクの動作保証および性能保証は致しかねます。

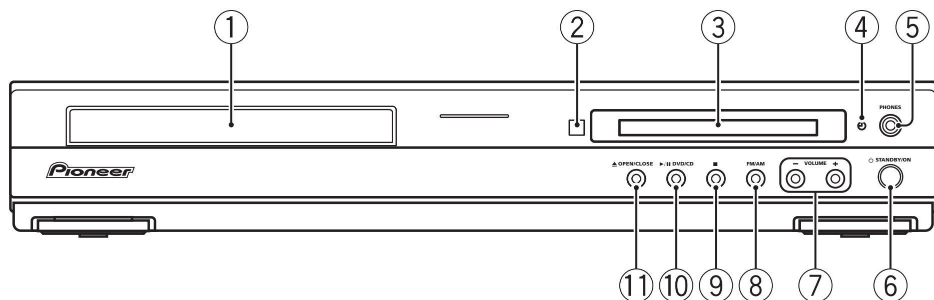
本機で再生できないディスクの種類
DVDオーディオ、DVD-ROM、DVD-RAM、SACD、CD-G、リージョンNo.が「2」「ALL」以外のDVDビデオなど

本文中の表記について

この取扱説明書では、本文中に記号が記載されています。記号には次のような意味があります。

- DVD-Video 市販のDVDビデオ、またはビデオモードで記録されたDVD-R/RW
- VR DVD-RW VRモードで記録されたDVD-RW
- Video CD ビデオCD
- CD(R/RW) 市販の音楽用CD、またはCDDAフォーマットで音楽が記録されたCD-R/RW
- WMA/MP3 WMAまたはMP3ファイルが記録されたCD-R/RW
- JPEG JPEGファイルが記録されたCD-R/RW
- DivX DivXフォーマットで記録されたディスク

本体



① **ディスクテーブル**

② **リモコン受光部**
約7m左右30°以内の距離から、ここにリモコンを向けて操作します。

③ **表示窓**

④ **タイマーインジケーター**
タイマーが設定されていると点灯します。

⑤ **ヘッドホン端子**
市販のヘッドホンを接続します。インピーダンス16Ω〜50Ω（推奨32Ω）、直径3.5Φステレオミニプラグ付のヘッドホンをお使いください。
ヘッドホンをつなぐと、スピーカーから音は出ません。

⑥ **⏻ STANDBY/ONボタン**
電源を入れます / 切ります。

⑦ **VOLUMEボタン**
音量を調節します。

⑧ **FM/AMボタン**
ラジオを聞いたり、AMとFMを切り換えます。

⑨ **■ ボタン**
ディスクを停止します。

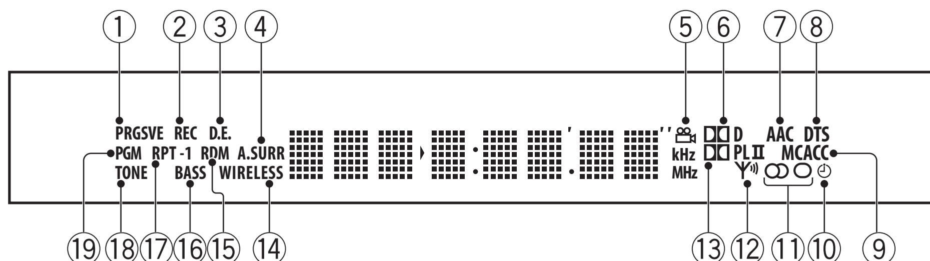
⑩ **▶/II DVD/CDボタン**
ディスクを再生 / 一時停止します。

⑪ **⏏ OPEN/CLOSEボタン**
ディスクテーブルを開閉します。

注 意

◆ 直射日光や蛍光灯の強い光が直接リモコン受光部に当たると、リモコン操作できないことがあります。そのようなときは、設置場所を変えるか、蛍光灯から離してください。
◆ 表示部が消えていても電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ（遮断装置）を抜く必要があります。旅行などで長期間、この製品をご使用にならないときには安全のため必ず電源プラグ（遮断装置）をコンセントから抜いてください。火災の原因になることがあります。

表示



① 映像出力方式でプログレッシブが選択されているときに点灯します。（57ページ）

② 録音モードがオンのときに点灯します。（73ページ）

③ ダイアログエンハンスメントモードをオンにすると点灯します。（51ページ）

④ アドバンスドサラウンドモードを選択しているときに点灯します。（47ページ）

⑤ DVDソフトを再生中、アングルを変更できる場面で点灯します。(38ページ)

⑥ ドルビーデジタル信号を再生しているときに点灯します。

⑦ MPEG-2 AAC信号を再生しているときに点灯します。

⑧ DTS信号を再生しているときに点灯します。

⑨ アコースティックキャリブレーションEQをオンにすると点灯します。(51ページ)

また、サラウンドの自動設定(MCACC)の終了後も点灯します。

⑩ 目覚ましタイマーまたはスリープタイマー設定時に点灯します。（53、55ページ）

⑪ FM放送の受信設定をモノラルに設定すると○が点灯します。（25ページ）

FM放送でステレオ受信していると、ⓄⓄが点灯します。

⑫ FM/AM放送受信時に点灯します。

⑬ ドルビープロロジック II 処理が行われているときに点灯します。（45ページ）

⑭ ワイヤレスモードが「Normal」「Wide」「Left」「Right」のいずれかに設定されているときに点灯します。「Stereo」に設定されているときは点滅します。（44ページ）

⑮ ランダム再生時に点灯します。(30ページ)

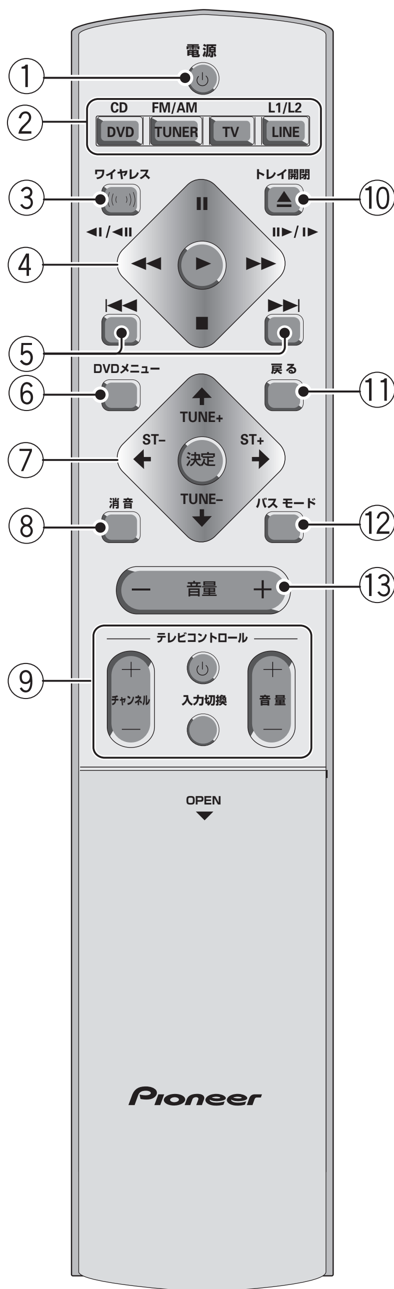
⑯ バスモードをオンにすると点灯します。（52ページ）

⑰ 全曲リピート再生時にはRPTと点灯し、1曲リピート再生時は、RPT-1と点灯します。(29ページ)

⑱ サウンドモードの設定で低音/高音の調整をしたとき（49ページ）またはマナー/ミッドナイトのいずれかを選択しているときに点灯します。（52ページ）

⑲ プログラム再生時に点灯します。(31ページ)

リモコン



① ⏻ 電源ボタン

② CD DVDボタン
DVDやCDを再生したり、一時停止するときに使用します。

FM/AM TUNERボタン
ラジオを聞いたり、FM局とAM局を切り換えるときに使用します。

TVボタン
接続したテレビの音を聞くときに使用します。

L1/L2 LINEボタン
本機に接続した外部機器の音を聞くときに使用します。押すたびに、LINE1とLINE2が切り換わります。

③ ワイヤレスボタン（44ページ）

④ ►ボタン
ディスクを再生するときに使用します。

■ ボタン
ディスクを停止するときに使用します。

ıı ボタン
ディスクを一時停止するときに使用します。

◄◄/◄ı/◄ıı ボタン（22ページ）

►►/ıı►/ı► ボタン（22ページ）
再生中は映像や音声の早送り/早戻しをします。一時停止中に押すとコマ送り / コマ戻し再生を行い、押し続けるとスロー再生をします。

⑤ ı◄◄ ボタン
現在再生中のチャプター / トラックの始めに戻ります。

►►ı ボタン
現在再生中のチャプター / トラックの次に進みます。

⑥ DVDメニューボタン
DVDのメニュー画面を表示するときに使用します。また、WMA/MP3 JPEG VR DVD-RW Video CD DivX では、ディスクナビゲーター画面を表示するときに使用します。

⑦ ⇧ ⇩⇦ ⇨ /決定ボタン

項目の選択や変更、またはDVDなどのメニューや設定画面で、カーソルを上下左右に移動し、決定ボタンで決定するときに使用します。

TUNE＋/－ボタン（24ページ）
ST＋/－ボタン（27ページ）

⑧ 消音ボタン

音を一時的に消す（ミュートする）ときに押します。もう一度押すとミュートは解除され、消音する前の音量に戻ります。

⑨ テレビコントロールボタン

以下のボタンでパイオニアのプラズマディスプレイを操作することができます。（操作できないプラズマディスプレイも一部あります）

テレビ ⏻

テレビの電源を入れます。

テレビ入力切換ボタン

テレビのライン入力を切り換えます。

テレビチャンネルボタン

テレビのチャンネルを変更します。

テレビ音量ボタン

テレビの音量を調整します。

⑩ ⏏トレイ開閉ボタン

⑪ 戻るボタン

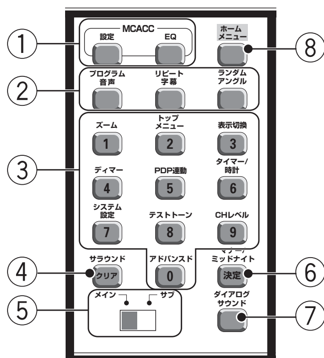
DVDの初期設定画面やメニュー画面が表示されているときに押すと、1つ前の項目に戻ります。

⑫ バスモードボタン(52ページ)

低音を強調したいときに使用します。

⑬ 音量ボタン

リモコンドアパネル内（メインのとき）



① MCACC設定ボタン（8ページ）

サラウンドの自動設定を行うときに使用します。

MCACC EQボタン（51ページ）

② 音声ボタン（38ページ）

言語、または音声を切り換えるときに使用します。

字幕ボタン（37ページ）

DVDの字幕言語を切り換えるときに使用します。

アングルボタン（38ページ）

DVDのアングルを切り換えるときに使用します。また、JPEGの画像を回転させるときにも使用します。

③ 数字ボタン

④ クリアボタン

プログラム再生で設定した内容を取り消します。

⑤ メイン/サブリモコン切り換えスイッチ

リモコンをメインモードで使用するか、サブモードで使用するかを切り換えます。

⑥ 決定ボタン

設定または選択した項目を決定します。

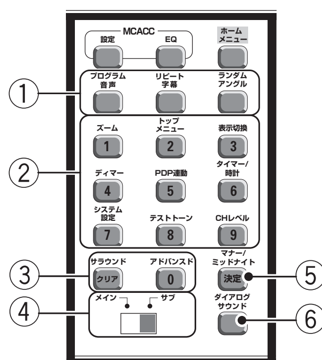
⑦ サウンドボタン（49ページ）

サウンドモードの設定や調整を行うときに使用します。

⑧ ホームメニューボタン

ホームメニュー画面を表示したり、操作/設定の途中で画面をオフにします。

リモコンドアパネル内（サブのとき）



①プログラムボタン（32ページ）

リピートボタン（29ページ）

ランダムボタン（30ページ）

② ズームボタン（37ページ）

トップメニューボタン
DVDソフトの最上層のメニュー画面を表示します。

表示切換ボタン（39ページ）

ディマーボタン（70ページ）

PDP連動ボタン（76、77ページ）
接続したプラズマディスプレイと連動させて各種システムの設定を行います。

タイマー/時計ボタン（20、53、55ページ）
タイマーや時間を設定するときまたは時計を見るときなどに押します。

システム設定ボタン
各種システム設定を行います。

テストトーンボタン（67ページ）

CHレベルボタン（68ページ）

③ サラウンドボタン（45ページ）

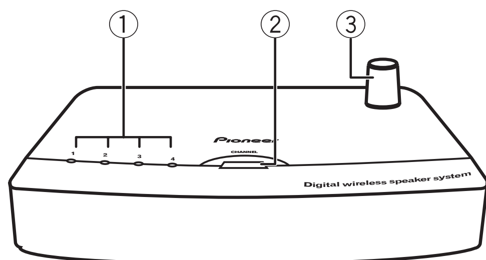
アドバンスドボタン（47ページ）

④ メイン/サブリモコン切り換えスイッチ
リモコンをメインモードで使用するか、サブモードで使用するかを切り換えます。

⑤ マナー/ミッドナイトボタン（52ページ）

⑥ ダイアログボタン（51ページ）

トランスミッター



① **チャンネルインジケーター**
②のチャンネル選択ボタンによって選択された周波数チャンネルが点灯します。

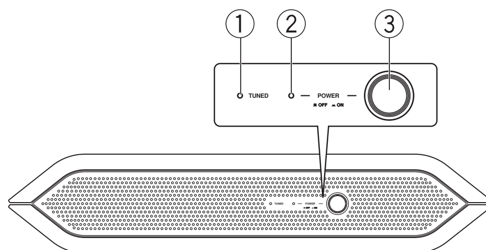
② **チャンネル選択ボタン**
ワイヤレススピーカーへ送信する信号を4つの周波数チャンネルから選択します。ワイヤレススピーカーの受信状態が良くないときは、周波数チャンネルを変えることで受信状態が良くなることがあります。押すたびに以下のように切り換わります。

→ CH 1 → CH 2 → CH 3 → CH 4 →（CH 1に戻る）

③ **アンテナ**
ワイヤレススピーカーへ音声信号を送信します。

ワイヤレススピーカー

上面部



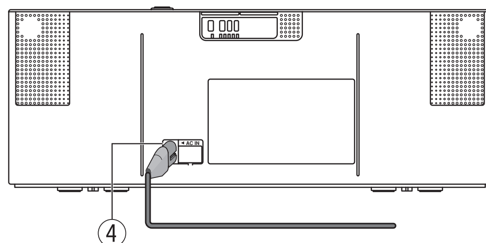
① **TUNEDインジケーター**
トランスミッターからの信号を受信しているときに点灯します。

② **POWERインジケーター**
ワイヤレススピーカーの電源をオンにしているときに点灯します。

③ **電源ボタン**
ワイヤレススピーカーの電源をオン/オフします。

④ **ACインレット**
付属の電源コードを差し込みます。

背面部

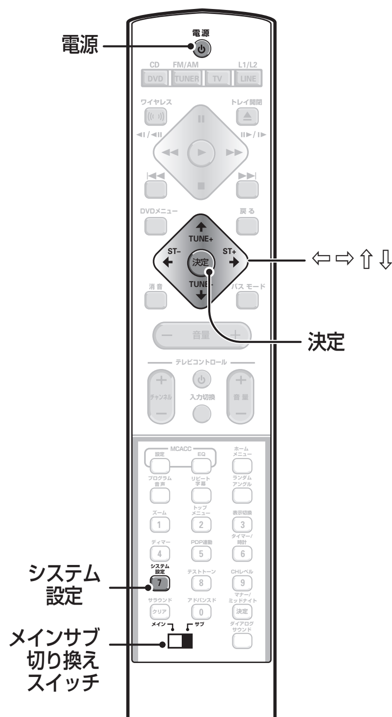


メ モ

▼ ワイヤレススピーカーのアンテナは内蔵されています。

デモ表示を解除する

電源コードをコンセントに差し込んだときなど、表示部にいろいろな表示を自動的に行うことを、デモ表示といいます。



注 意

◆ デモ表示を解除した場合でも、電源コードを抜いたり停電した状態が長時間続くと、再度電源コードをコンセントに差したり通電が再開したときに、デモ表示をする場合があります。

Q&A

Q: デモ表示をしない！

→ 20ページで時刻が設定されていると、デモ表示は強制的に解除されます。

一時的にデモ表示を解除するには

本体かリモコンのいずれかのボタンを押します

デモ表示を一時的に解除します。
ただしこの場合、以下のときに再びデモ表示を開始します。

- 電源コードをコンセントに差し込んだとき
- DVDやCDなどの再生が終了して、５分以上何も操作がなかったとき
- 停電したあと

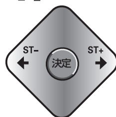
デモ表示をしないように設定するには

1. 電源 ⏻電源ボタンを押して電源をオフにします

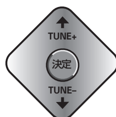
2. メイン サブ メインサブ切り換えスイッチをサブ側に切り換えます

3. システム設定 7 システム設定ボタンを押します

4. ⇦ ⇨ で "Demo" にしてから決定ボタンを押します



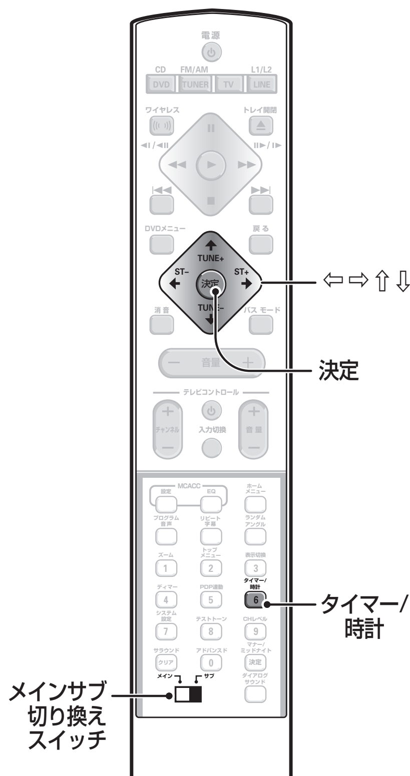
5. ⇧ ⇩ で "Demo Off" にしてから決定ボタンを押します



電源がオフになりデモ表示が解除されます。再びデモ表示を設定する場合は、"Demo On" にします。その場合はDVDファンクションに切り換わります。

時計を合わせる

お買い上げ時の時計表示は、12時間表示です。時計を合わせていないと、タイマー動作（53～55ページ）を行うことはできません。また、時計表示を24時間表示に切り換えることもできます。（69ページ）



注 意

◆ 停電したり電源コードを抜くと時計表示が点滅します。この場合はもう一度時計を合わせ直してください。

例）午後6時40分に合わせる場合

1. メインサブ切り換えスイッチをサブ側に切り換えます

2. タイマー/時計ボタンを押します

3. ⇦ ⇨ で "Clk ADJ" にしてから、決定ボタンを押します

Clk ADJ?

4. ⇧ ⇩ で「時」を合わせてから、決定ボタンを押します

例の場合は、"6 pm" にします。

6 : 00 pm

5. ⇧ ⇩ で「分」を合わせてから、決定ボタンを押します

例の場合は、"40" にします。

6 : 40 pm

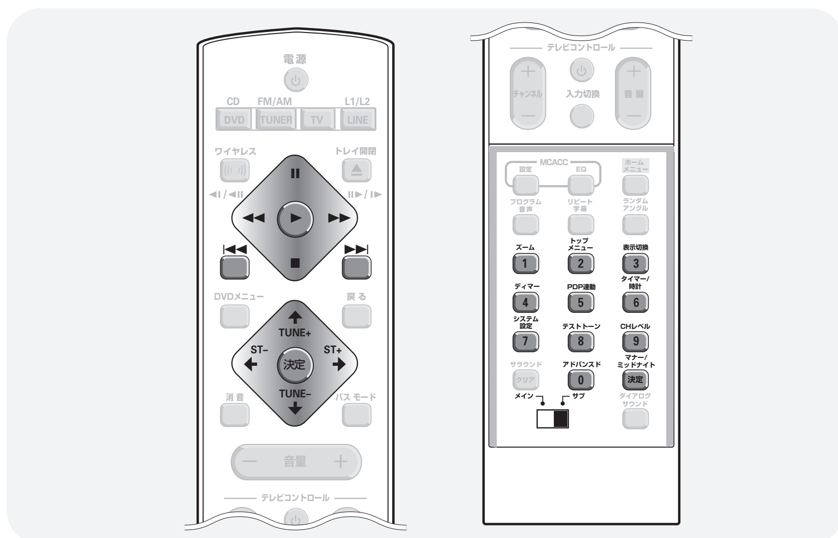
「分」が入力され、時計の設定が終了しました。

時計表示にするには

1. メインサブ切り換えスイッチをサブ側に切り換えます

2. タイマー/時計ボタンを押します

時計を数秒間表示し、通常表示に戻ります。



再生

DVD-Video　DVD-RW VR　Video CD　CD(R/RW)　WMA/MP3　DivX

再生します

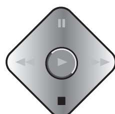


- Video CD では、再生を開始するとメニュー画面を表示するディスクがあります。メニュー画面の操作については 10 ページをご覧ください。
- WMA/MP3 では、ディスク情報を読み込み中に、画面に**[読込中]**と表示されます。表示が消えてから再生してください。
- DivX と WMA/MP3 または JPEG が同じディスクに記録されているときは、まずはじめに、どのフォーマットを再生するかテレビ画面で選択します。

停止

DVD-Video　DVD-RW VR　Video CD　CD(R/RW)　WMA/MP3　DivX

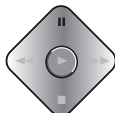
停止します



一時停止

DVD-Video　DVD-RW VR　Video CD　CD(R/RW)　WMA/MP3　DivX

一時停止します



- 通常の再生に戻すには、一時停止中に ►、または ❚❚ **ボタン**を押します。

頭出し（スキップ）

DVD-Video　DVD-RW VR　Video CD　CD(R/RW)　WMA/MP3　JPEG　DivX

再生中に ▶▶| （または |◀◀）ボタンを押します

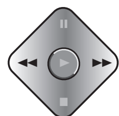


• 押した回数だけチャプター / トラックをスキップします。

早送り / 早戻し再生

DVD-Video　DVD-RW VR　Video CD　CD(R/RW)　WMA/MP3　DivX

再生中にリモコンの ▶▶ （または ◀◀）ボタンを押します

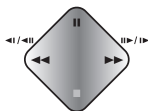


• ボタンを押すごとに速さを切り換えることができます（DivX では速さを切り換えることはできません）。
• 通常の再生に戻すには ▶ **ボタン**を押します。

コマ送り / コマ戻し再生

DVD-Video　DVD-RW VR　Video CD　DivX

再生中に II ボタンを押して一時停止させ、II▶/I▶（または ◀I/◀II）ボタンを押します

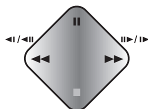


• コマ送り / コマ戻し再生は音声が出力されません。
• コマ送り / コマ戻し再生ができないディスクもあります。
• 再生方向を変更したとき、一瞬映像が動くことがあります。
• コマ戻し再生中、映像が揺れることがあります。
• 通常の再生に戻すには ▶ **ボタン**を押します。
• Video CD　DivX では、コマ戻し再生をすることができません。

スロー再生

DVD-Video　DVD-RW VR　Video CD　DivX

再生中に II ボタンを押して一時停止させ、II▶/I▶（または ◀I/◀II）ボタンを押し続けます



• 画面にスローの表示がでたら、手を離してもスロー再生を続けます。
• スロー再生中、ボタンを押すごとに速さを切り換えることができます。
• スロー再生は音声が出力されません。
• スロー再生ができないディスクがあります。
• 通常の再生に戻すには ▶ ボタンを押します。
• Video CD　DivX では、逆方向のスロー再生ができません。

ダイレクトサーチ

DVD-Video　DVD-RW VR　Video CD　CD(R/RW)

タイトル / チャプター / トラックを指定して再生することができます。

1. メインサブ切り換えスイッチをメイン側に切り換えます

メイン　サブ

2. 数字 (0～9) ボタンでタイトル / チャプター / トラック番号を入力して、決定ボタンを押します



再生中にできるダイレクトサーチの種類

DVD-Video	VR DVD-RW	Video CD　CD(R/RW)
チャプターサーチ	タイトルサーチ	トラックサーチ

- ダイレクトサーチができないディスクもあります。
- DVD-Video のチャプターサーチでは、再生中のタイトル内のチャプターのみを指定することができます。
- ディスク停止中にダイレクトサーチを行うと、DVD-Video は**タイトルサーチ**になります。

Q&A

Q1: Video CD　CD(R/RW) が再生できない。

→ パソコンで作成された Video CD　CD(R/RW) は再生できないことがあります。

Q2: WMA/MP3 が再生できない。

→ 記録したディスクが ISO9660 フォーマットに準拠していない。

→ サンプリング周波数が 32kHz、44.1kHz、または 48kHz で記録されていない WMA/MP3 ファイルを再生している。

→ 可変ビットレート (VRB) またはロスレスエンコーディングの WMA ファイルを再生している。

→ DRM コピープロテクト（保護）のかかった WMA ファイルを再生している。

Q3: JPEG が再生できない。

→ 記録したディスクが ISO9660 フォーマットに準拠していない。

→ 総ピクセル数が 3072 ×2048 ピクセル以下のベースライン JPEG ファイルではない。

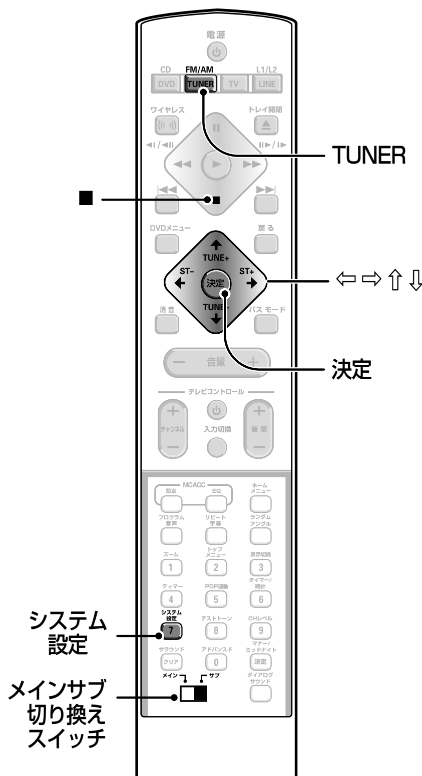
→ プログレッシブ JPEG ファイルは再生できません。

Q4: DivX が再生できない。

→ DivX®5、DivX®4、DivX®3、DivX®VOD フォーマット以外のファイルは再生できません。

放送局を受信する

アンテナが接続されていないと、FM/AM放送を聞くことはできません。別紙の**「システムセットアップガイド」**を参照して、アンテナを接続してください。



1. TUNERボタンを押します

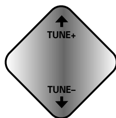


ラジオが聞ける状態になります。

FM	76.00
AM	522

押すごとに、FMとAMが切り換わります。
FM放送を聞くときはFMを、AM放送を聞くときはAMを選択してください。

2. ⇧⇩を押して、聞きたい放送局に周波数を合わせます



周波数の合わせ方（チューニング）には、以下の3種類があります。

オートチューニング

⇧⇩を押し続けて、周波数が動き始めたら指を離します。
周波数が自動的に変化して、放送局を受信すると自動的に止まります。
途中で止めるときは、もう一度⇧⇩を押すか、■ボタンを押します。

マニュアルチューニング

⇧⇩を1回ずつ押します。
周波数が1ステップずつ変化します。

ハイスピードマニュアルチューニング

⇧⇩を押し続けます。
ボタンを押している間、周波数が連続して変化し、指を離すと止まります。

FM放送の雑音を減らす

遠い放送局や電波の弱い地域などで、FMのステレオ放送に雑音が多いときは、強制的にモノラルにして放送を聞きやすくします。
お買い上げ時は、放送局側に合わせて自動的にステレオとモノラルを切り換える"Auto"に設定されています。

1. 

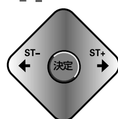
TUNERボタンを押してFM放送を受信します

2. 

メインサブ切り換えスイッチをサブ側に切り換えます

3. 

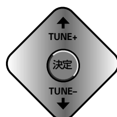
システム設定ボタンを押します

4. 

⇦ ⇨ で"FM Mode"にしてから、決定ボタンを押します

FM Mode?

現在の設定が表示されます。

5. 

⇧ ⇩ で"FM Mono"にしてから、決定ボタンを押します

FM Mono?

表示部に、○ が点灯します。
FMステレオ放送をステレオで受信するように設定する場合は、"FM Auto"にします。

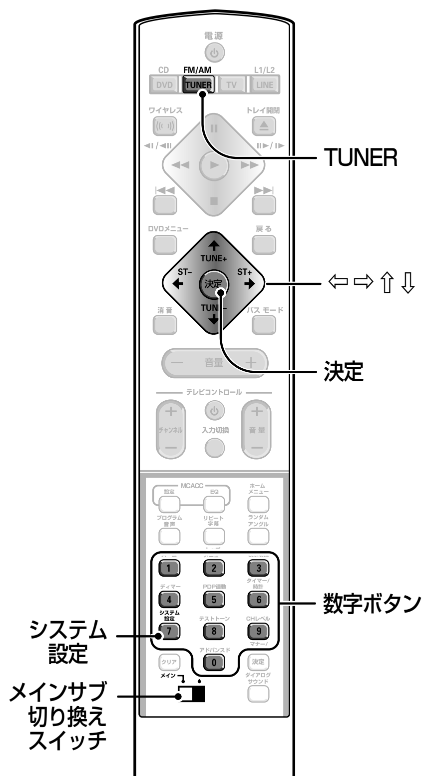
Q&A

Q: FMステレオ放送なのに、ステレオにならない

→ 放送されているFMがモノラル放送か、電波の弱い場合は、ステレオ放送になりません。

受信した放送局を記憶する

FM/AM放送合わせて30局まで、ステーション（記憶番号）に記憶することができます。



1. FM/AM TUNER

TUNERボタンを押し、記憶したい放送局を受信します

放送局の受信のしかたは、24ページを参照してください。

2. メイン サブ

メインサブ切り換えスイッチをサブ側に切り換えます

3. システム設定 7

システム設定ボタンを押します

4. ST− 決定 ST+

⇦ ⇨ で "St. Mem" にしてから、決定ボタンを押します

St . Mem ?

5. TUNE+ TUNE−

⇧ ⇩ で、記憶するステーションを選びます

記憶するためのステーションは 1 ～ 30 まであります。

01 76.10 MHz

6. 決定

決定ボタンを押して記憶させます

記憶した放送局を呼び出す

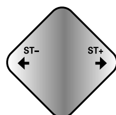
各ステーション（記憶番号）に記憶させた放送局を聞くことができます。

1. TUNER ボタンを押します



ラジオが聞ける状態にします。

2. ⇦ ⇨ で、記憶したステーションを選びます



01 76.10MHz

注 意

- ◆ すでに記憶されているステーションに違う放送局を記憶させると、前の放送局は消去され、新しい放送局がステーションに記憶されます。
- ◆ 停電や電源プラグを抜いた状態が長時間続くと、ステーションに記憶した内容が消えてしまう場合があります。

リモコンの数字ボタンで呼び出す

1. メインサブ切り換えスイッチをメイン側に切り換えます



2. ステーション番号と同じ数字ボタンを押します



（例）ステーション２　：2

ステーション 18 ：1　8

3. 決定ボタンを押します

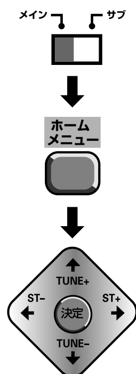


ダイレクトにステーションを選ぶことができます。
数字ボタンを押して2秒以上待つと、**決定ボタン**を押さなくても選ぶことができます。

プレイモード画面を表示する

以下のいろいろな機能を使うにはプレイモード画面を表示しなければならないことがあります。プレイモード画面は以下の手順で表示します。プレイモード画面は本機の入力がDVD(CD)入力のときのみ表示することができます。





1. メインサブ切り換えスイッチをメイン側に切り換えます

2. ホームメニューボタンを押してホームメニュー画面を表示させます

3. [プレイモード]を選択して、決定ボタンを押します

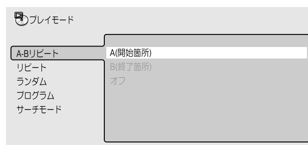
4. ⇧ ⇩⇦ ⇨ ボタンと決定ボタンでそれぞれの項目を選択、決定します

メ モ

▼ Video CD のPBC再生中は、プレイモード画面を表示することができません。PBC再生を解除してから表示してください。（39 ページ）

指定した部分を繰り返し再生する（A-B リピート）

DVD-Video　DVD-RW VR　Video CD　CD(R/RW)



1. 再生中にプレイモード画面を表示させ（上記）、[A-B リピート]を選択します

2. [A(開始箇所)]を選択して、開始したい箇所で決定ボタンを押します

3. [B(終了箇所)]を選択して、終了したい箇所で決定ボタンを押します

A-B リピート再生を開始します。
解除するときは、[**オフ**]を選択します。

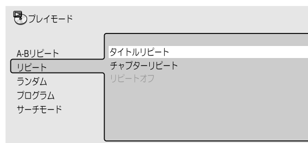
注 意

◆ 異なるタイトルをまたいで A-B リピート再生をすることはできません。
◆ A-B リピート再生ができないディスクがあります。

繰り返し再生する（リピート）

DVD-Video　DVD-RW VR　Video CD　CD(R/RW)　DivX

プレイモード画面で操作するには



1. **再生中にプレイモード画面を表示させ（28ページ）、[リピート]を選択します**

2. **リピート再生の種類を選び、決定ボタンを押します**

リピート再生を開始します。

- **タイトルリピート**
- **ディスクリピート**
- **トラックリピート**
- **チャプターリピート**
- **プログラムリピート**

リピート再生の種類は、再生しているディスクによって異なります。
解除するときは**[リピートオフ]**を選択します。

ボタンで操作するには



1. **メインサブ切り換えスイッチをサブ側に切り換えます**



2. **再生中に、リピートボタンを押します**

リピート再生を開始します。
リピートボタンを押すと、以下のように切り換わります。

- **タイトルリピート**
- **チャプターリピート**
- **ディスクリピート**
- **トラックリピート**
- **プログラムリピート**

リピート再生の種類は、再生しているディスクによって異なります。

メ モ

▼ ディスクを停止するとリピート再生は解除されます。
▼ プログラム再生中（31 ページ）に**リピートボタン**を押すと、プログラム再生を繰り返します。

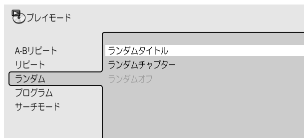
注 意

◆ リピート再生ができないディスクもあります。

順不同に再生する（ランダム）

DVD-Video　Video CD　CD(R/RW)

プレイモード画面で操作するには



1. **再生中にプレイモード画面を表示させ(28ページ)、[ランダム]を選択します**

2. **ランダム再生の種類を選び、決定ボタンを押します**

次のタイトルなどからランダム再生を開始します。

- **ランダムタイトル**
- **ランダムチャプター**
  再生中のタイトル内のチャプターを順不同に再生します。
- **ランダムオール（ランダムオン）**
  ディスク内のトラックを順不同に再生します。

ランダム再生の種類は、再生しているディスクによって異なります。
解除するときは、**[ランダムオフ]**を選択します。

ボタンで操作するには



1. **メインサブ切り換えスイッチをサブ側に切り換えます**





2. **ランダム再生の種類を選び、決定ボタンを押します**

ランダム再生を開始します。
ランダムボタンを押すと、以下のように切り換わります。

- **ランダムタイトル**
- **ランダムチャプター**
- **ランダムオール**

ランダム再生の種類は、再生しているディスクによって異なります。

メ モ

▼ ディスクを停止するか、**ランダムオフ**を選択するとランダム再生は解除されます。
▼ ランダム再生中に ▶▶| **ボタン**を押すと、本機が順不同に次のタイトルなどを選んで再生します。また |◀◀ **ボタン**を押すと、現在再生中のタイトルなどの始めから再生します。

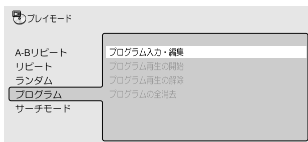
注 意

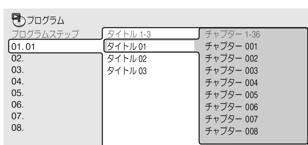
◆ ランダム再生できないディスクがあります。
◆ ランダム再生とプログラム再生を同時に行うことはできません。

好みの順に再生する（プログラム）

DVD-Video　Video CD　CD(R/RW)

プレイモード画面で操作するには





＊ディスクによってプログラム入力、編集画面が異なります。

1. **再生中にプレイモード画面を表示させ(28ページ)、[プログラム]を選択します**

2. **[プログラム入力・編集]を選択して、決定ボタンを押します**

3. **プログラムしたいタイトル/チャプター/トラックを選択して、決定ボタンを押します**

プログラム入力中に**戻るボタン**を押すと、プログラムした内容が無効になります。

4. **手順３を繰り返して、他のタイトルなどを入力します**

ステップの間にプログラムを追加したいときは

①**プログラムステップの追加したい箇所にカーソルを合わせます。**

②**追加するタイトルなどを選択して決定ボタンを押します。**

追加した箇所にあったタイトルなどは、新しいプログラムの後ろに移動します。

入力中にプログラムを削除したいときは

①**削除したいプログラムステップにカーソルを合わせます。**

②**クリアボタンを押します**

プログラムが削除され、その後ろにあったタイトルなどが１つ前に繰り上がります。

5. **►ボタンを押します**

プログラムした順に再生を開始します。

ボタンで操作するには

CD(R/RW)

聞きたい曲を最大24ステップまで、好きな順番に登録することができます。



1. **メインサブ切り換えスイッチをサブ側に切り換えます**



2. **停止中にプログラムボタンを押します**

P00▸00′ 00″

上記のように表示されます。すでにプログラムされているときはプログラム総再生時間を表示します。



3. **メインサブ切り換えスイッチをメイン側に切り換えます**





4. **聞きたい曲の番号の数字ボタンを押してから、決定ボタンを押します**

15曲目を選んだときは、数字ボタンの**1**と**5**を押してから、**決定ボタン**を押します。

例）CDの15曲目を入力したとき

P01　　15

5. **手順4を繰り返して、聞きたい曲番号を登録します**



6. **► ボタンを押します**

プログラムした順に再生を開始します。

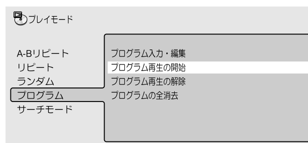
メ モ

- ▼ DVD-Video Video CD などのディスクのときはプレイモード画面の設定になります（31 ページ）。この場合、**プログラムボタン**を押すと、ディスクの再生中でもプレイモード画面になります。
- ▼ プログラム再生中に、**⏮ ⏭ ボタン**を押すと、プログラムされた前後の曲に移ります。
- ▼ プログラム再生中にプレイモード画面の**[リピート]**から**[プログラムリピート]**を選択、または**リピートボタン**を押すと、プログラムした内容を繰り返し再生します。**(プログラムリピート再生)**
- ▼ 一度停止してから、もう一度プログラム再生するときは、**プログラムボタン**を押してから**► ボタン**を押します。
- ▼ プログラム再生をランダム(順不同に)再生することはできません。

注 意

- ◆ リピート再生中にはプログラム再生を行うことはできません。
- ◆ タイトル/チャプターが変わるときに、プログラムしていないタイトル/チャプターの映像が見えることがあります。これは故障ではありません。

プログラム再生を開始 / 解除 / 全消去するには



- **プログラム再生の開始**
  すでにプログラムされている内容を始めから再生します。
- **プログラム再生の解除**
  通常の再生に戻ります。プログラムされている内容はそのまま残ります。
- **プログラムの全消去**
  プログラムされている内容をすべて消去します（CD(R/RW)のみ停止中にクリアボタンを押して消去することもできます）。

4

いろいろな機能を使う

見たい場面を探す（サーチモード）

DVD-Video　DVD-RW VR　Video CD　CD(R/RW)　DivX

プレイモード

A-Bリピート	タイトルサーチ	タイトル入力
リピート	チャプターサーチ	0 1
ランダム	タイムサーチ	
プログラム		
サーチモード		

1. 再生中にプレイモード画面を表示させ（28 ページ）、[サーチモード]を選択します

2. サーチモードの種類を選び、決定ボタンを押します

- **タイトルサーチ**
- **タイムサーチ**
  （Video CD CD(R/RW) では、再生中のトラック内の時間を、DVD-Video DivX では再生中のタイトル内の時間を指定して再生します。）
- **チャプターサーチ**
- **トラックサーチ**

サーチモードの種類は、再生しているディスクによって異なります。

3. 数字（0～9）ボタンで再生したいタイトル / チャプター / トラックまたは時間を入力して、決定ボタンを押します

指定したタイトル / チャプター / トラックまたは時間から再生を開始します。

タイムサーチを選択したとき

21 分 43 秒を再生するには、**2,1,4,3** を押して、**決定ボタン**を押します。
1 時間 4 分（64 分 00 秒）を再生するには、**6,4,0,0** を押して、**決定ボタン**を押します。

メ モ

▼ DVD-Video では、ディスクメニューで見たい場面を探す（サーチする）ことができるディスクがあります。このときは、リモコンの**DVD メニューボタン**でディスクメニューを表示させてサーチしてください。

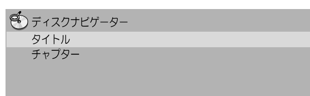
▼ DivX では、タイムサーチのみ選択することができます。

ディスクナビゲーターを使って再生する

DVD-Video　DVD-RW VR　Video CD

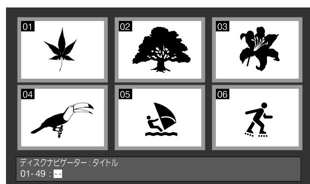






＊ ディスクによって表示内容が異なります。





1. メインサブ切り換えスイッチをメイン側に切り換えます

2. 再生中にホームメニューボタンを押してホームメニュー画面を表示させます

3. [ディスクナビゲーター]を選んでから、決定ボタンを押します

4. ⇧⇩ ボタンで種類を選択します

DVD-Video	VR DVD-RW	Video CD
タイトル チャプター	オリジナル：タイトル オリジナル：時間 プレイリスト：タイトル プレイリスト：時間	トラック 時間

- **[時間]**を選択すると、10分おきの画像を表示します。

5. 先頭の画面が6枚ずつ表示されるので、再生したいタイトルなどを探します

- ▶▶I **ボタン**を押すと、次の6枚に切り換わります(I◀◀ **ボタン**で戻ります)。
- **ホームメニューボタン**を押すと、ディスクナビゲーター画面が終了します。
- **戻るボタン**を押すと、ディスクナビゲーターの種類を選択する画面に戻ります。

6. 数字ボタンで番号を入力して決定ボタンを押す

- 番号にカーソルを合わせて**決定ボタン**を押しても再生することができます。

メモ

▼ Video CD のPBC再生中はホームメニュー画面を表示することができません。PBC再生を解除してください（39ページ）。

▼ DVDレコーダーで録画して作られたタイトルを**[オリジナル]**、オリジナルをもとに編集用に作成したタイトルを**[プレイリスト]**といいます。

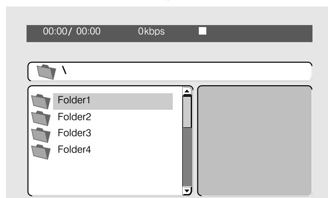
▼ プレイリストが作成されていないときは、メニュー画面に**[プレイリスト]**は表示されません。

▼ 一部の DVD-Video では、ディスクナビゲーターが使用できない場合があります。

WMA/MP3 JPEG DivX

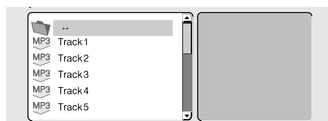




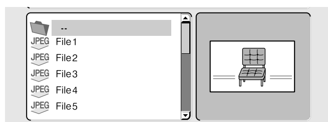




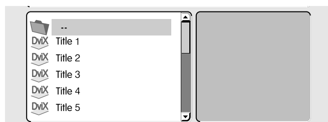
＊ WMA/MP3 の場合



＊ JPEG の場合



＊ DivX の場合



1. メインサブ切り換えスイッチをメイン側に切り換えます

2. ホームメニューボタンを押してホームメニュー画面を表示させます

3. [ディスクナビゲーター]を選択して、決定ボタンを押します

4. ⇧⇩ ボタンでフォルダーを選択して、決定ボタンを押します

- 半角英数字以外の文字には対応していません。半角英数字以外で入力されたフォルダー / トラック / ファイル名は文字化けしたり、[F_001]/[T_001]/[FL_001]のように表示されることがあります。

5. ⇧⇩ボタンで再生したいトラック/ファイル/タイトルを選択します

- JPEG でファイルにカーソルを合わせると、選択されているファイルの画像が表示されます。
- ⬅ ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

6. 決定ボタンを押します

- 選択したトラック/ファイルから再生を開始します。
- JPEG では、画像が次々に表示されます(スライドショー)。
- スライドショーで表示される画像のアスペクト比が異なるときは、画像の縦、または横に黒帯が出ることがあります。
- **ホームメニューボタン**を押すと、ディスクナビゲーター画面が終了します。

メ モ

▼ WMA/MP3 JPEG DivX では、ディスク情報の読み込み中に、画面に**[読込中]**と表示されます。表示が消えてから再生してください。

▼ 📁 -- を選択して**決定ボタン**を押しても、上の階層に戻すことができます。

▼ ディスクナビゲーターを使うと、フォルダーごとの再生となります。フォルダーをまたいで再生したいときは、ディスクをセットしたあとに ▶ **ボタン**を押して再生を開始してください。

画像を拡大する(ズーム)

DVD-Video DVD-RW VR Video CD JPEG DivX




1. **メインサブ切り換えスイッチをサブ側に切り換えます**

2. **ズームボタンを押します**

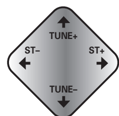
•ズームエリア(拡大する場所)が表示されます（JPEGを除く)。⇧ ⇩ ⇦ ⇨ **ボタン**でズームエリアを移動することができます。
•押すたびに、２倍 →4 倍 → 通常と切り換わります。

メ モ

▼ JPEGでは ► **ボタン**を押してスライドショーに戻すこともできます。

画像を回転 / 反転させる

JPEG



1. ⇧/⇩/⇦/⇨ **ボタンを押します**

⇨ － 押すたびに画像が時計回りに 90゜回転します。
⇦ － 押すたびに画像が反時計回りに 90゜回転します。
⇧ － 画像の上下が反転します。
⇩ － 画像の左右が反転します。

メ モ

▼ 通常のスライドショーに戻すには ► **ボタン**を押します。

字幕を切り換える

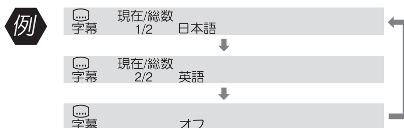
DVD-Video




1. **メインサブ切り換えスイッチをメイン側に切り換えます**

2. **再生中に字幕ボタンを押します**

•押すたびに字幕が切り換わります。



字幕が収録されていないときは［－ / －］が表示されます。

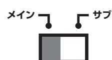
メ モ

▼ ここで切り換えた字幕の設定は、リジューム機能（10 ページ）を解除したとき、またはディスクを取り出したときに初期設定（59 ページ）の設定に戻ります。

▼ DVD-Videoによっては字幕ボタンで字幕を切り換えられない場合があります。DVDのメニュー画面で切り換えてください。

音声を切り換える

DVD-Video　Video CD　DVD-RW VR　CD(R/RW)　DivX



1. **メインサブ切り換えスイッチをメイン側に切り換えます**



2. **再生中に音声ボタンを押します**

押すたびに音声が切り換わります。

例

音声	現在/総数 1/3	英語	Dolby Digital 3/2.1CH
音声	現在/総数 2/3	日本語	Dolby Digital 3/2.1CH
音声	現在/総数 3/3	英語	Dolby Digital 2/0CH

- Video CD　CD(R/RW) では、ステレオ、1/L（左）、2/R（右）が切り換わります。
- 二カ国語で記録された VR DVD-RW では、主、副、主／副音声が切り換わります。

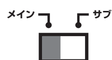
メ モ

▼ DVD-Video によっては**音声ボタン**で音声を切り換えられない場合があります。DVDのメニュー画面で切り換えてください。
▼ ディスクによっては音声を切り換えたときに一瞬静止画になることがあります。
▼ ここで切り換えた音声の設定は、リジューム機能（10ページ）を解除したとき、またはディスクを取り出したときに初期設定（59ページ）の設定に戻ります。
▼ カラオケソフトなどで音声を伴奏だけにするには、ディスクのジャケットなどに書かれている音声の種類に合わせて上記の操作をしてください。

アングルを切り換える

DVD-Video

複数のアングルが収録されている DVD-Video では、再生中にアングルを切り換えることができます(マルチアングル)。詳しくは84、87ページをご覧ください。



1. **メインサブ切り換えスイッチをメイン側に切り換えます**



2. **アングルボタンを押します**

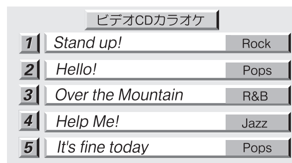
•現在のアングルと、収録されているアングルの総数が表示されます。
押すたびにアングルが切り換わります。

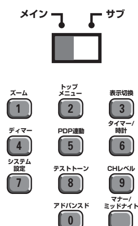
メ モ

▼ 複数のアングルが収録されている場所にくると、マークが画面に表示されます。マークを表示させたくないときは、初期設定の**[アングルマーク表示]**を**[オフ]**にします。(60ページ)
▼ マークが表示されてもアングルを切り換えることができないディスクもあります。
▼ メニュー画面でアングルを切り換えることができるディスクもあります。

メニュー画面から再生する(PBC 再生) Video CD

Video CD では、メニュー画面に従って再生することをPBC(プレイバックコントロール)再生といいます。ディスクによって操作方法が異なります。ディスクに添付されている操作ガイドもあわせてご覧ください。





1. PBC再生対応ディスクを入れ、►ボタンを押して再生します

メニュー画面が表示されます。

2. メインサブ切り換えスイッチをメイン側に切り換えます

3. 数字(0～9)ボタンで再生したいトラックを選択して、決定ボタンを押します

再生を開始します。再生中に**戻るボタン**を押すとメニュー画面に戻ります。

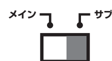
メニュー画面のページを進める、または戻すには

メニュー画面を表示中に ►►| または |◄◄ ボタンを押します。

メニュー画面のページを出さずに再生するには(PBC再生を解除して再生する)

停止中に►►|または|◄◄ボタンで選択します。また停止中に数字(0～9)ボタンで選択して、決定ボタンを押すことでも解除して再生することができます。

ディスクの情報を見る DVD-Video DVD-RW VR Video CD CD(R/RW) WMA/MP3 JPEG DivX



1. メインサブ切り換えスイッチをサブ側に切り換えます



2. 再生中に表示切換ボタンを押します

ディスクの経過時間や残量などを表示します。

例)

再生	► DVD			チャプターリピート
	現在/総数	経過時間	残り時間	総時間
タイトル	1/3	0.12	138.47	138.59
音声 1. 英語 Dolby Digital 3/2.1CH		字幕 2. 日本語		アングル 1

ディスクによっては、**表示切換ボタン**を押すたびに表示内容が切り換わります。**表示切換ボタン**を数回押すと、表示がオフになります。

メ モ

▼ Video CD のPBC再生中は一部の情報が表示されません。PBC再生を解除してください(上記参照)。

4 いろいろな機能を使う

画質を調整してより見やすくする





項目によって設定画面が異なります。

例 1



例 2



＊ **戻るボタン**を押すと、前の画面に戻ります。

1. メインサブ切り換えスイッチをメイン側に切り換えます

2. ホームメニューボタンを押してホームメニュー画面を表示させます

3. [画質調整]を選択して、決定ボタンを押します

4. ⇧⇩⇦⇨ ボタンと決定ボタンを使って、各項目を設定します

シャープネス
画像の鮮明度を調整します。
• **ファイン、標準** (お買い上げ時の設定)、**ソフト**

ブライトネス
画面の明るさを調整します。
• **− 20 〜＋ 20** (お買い上げ時の設定：**0**)

コントラスト
最も明るい部分と最も暗い部分との明るさの比率を調整します。
• **− 16 〜＋ 16** (お買い上げ時の設定：**0**)

ガンマ
画像の暗い部分の見えかたを強調します。
• **大、中、小、オフ** (お買い上げ時の設定)

色あい
緑色と赤色のバランスを調整します。
• **緑 9 〜赤 9** (お買い上げ時の設定：**0**)

色の濃さ
色の濃さを調整します。色のりの多いアニメなどで効果があります。
• **− 9 〜＋ 9** (お買い上げ時の設定：**0**)

5. ホームメニューボタンを押して、設定画面を終了します

メ モ

▼ ディスクやテレビ（モニター）によっては効果がはっきりしないことがあります。

サラウンド再生を楽しむ

本機で最適なサラウンド再生をお楽しみいただくためのステップは以下のとおりです。

STEP1
スピーカーを設置する

「ワイヤレススピーカーのいろいろな設置」
➡ P.42

こんなスピーカー配置ができます

STEP2
MCACC設定を行う

「サラウンドの自動設定（MCACC）」
➡ P.8

STEP3
ワイヤレスモードを切り換える

「ワイヤレスモードを切り換える」
➡ P.44

STEP4
リスニングモードを選択する

「サラウンド」
➡ P.45
「アドバンスドサラウンド」
➡ P.47

STEP5
リスニングモードの効果を調整する。

「PL II Musicモードに音響効果を加える」
➡ P.49~50
「アドバンスドサラウンドの効果を調整する」
➡ P.49~50

STEP6
音質を調整する。

「セリフやボーカルを強調して再生する」
➡ P.51
「高音と低音を調整する」
➡ P.49
「小さい音でサラウンドを楽しむ」
➡ P.52
「低音を強調する」
➡ P.52

最適な
リスニング環境で
最高のサラウンドを
お楽しみください

STEP4
リスニングモードを選択する

リスニングモードは、サラウンドまたはアドバンスドサラウンドの中から各入力ごとにひとつだけ選択することができます。ワイヤレススピーカーをステレオスピーカーとして使用しているときや、88.2/96kHzリニアPCM信号を再生しているときは、リスニングモードを切り換えることができません。

サラウンド：
ドルビーデジタルやDTSなどの標準的なデコードを行うほか、ステレオダウンミックスモード、入力ソースによって自動で最適なモードにするオートモードがあります。ステレオソースのときはドルビープロロジックIIモードも選べます。

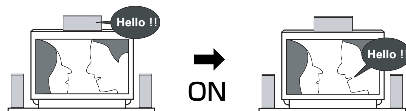
アドバンスドサラウンド：
パイオニアオリジナルのサラウンドモードです。

STEP5
リスニングモードの効果を調整する

PL II Musicモードに音響効果を加える：
ドルビープロロジックIIミュージックモードには3つの音響効果があり、その効果を調整することができます。

アドバンスドサラウンドの効果を調整する:
アドバンスドサラウンドの効果を強くしたり弱くしたりすることができます。アドバンスドサラウンドの各モードごとに調整することができます。

セリフやボーカルを強調する：
通常センタースピーカーから聞こえるセリフをTVから聞こえるように音像を移動したり、セリフやボーカルを明瞭に再生します。



低音を強調する：
低音だけを強調して迫力ある低音で再生します。

高音と低音を調整する：
高域と低域の微調整を行うことができます。

小さい音でサラウンドを楽しむ：
高域と低域を控えめにするマナーモードと音量を下げても高域のクリア感を確保し、聴きとりやすいミッドナイトモードを切り換えることができます。

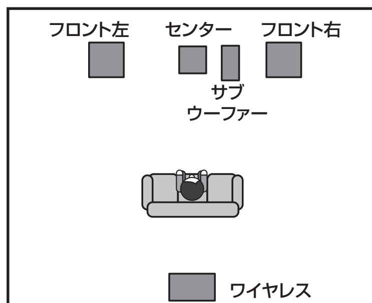
ワイヤレススピーカーのいろいろな設置

ワイヤレススピーカーはお客様のお部屋の形状やスペースに合わせて、リスニングポジション（視聴位置）の後方だけでなく、左右にも置くことができます。それぞれのスピーカー配置に合った「ワイヤレスモード」（44ページ）と「リスニングモード」（45、47ページ）を設定してください。スピーカーを移動したときは、サラウンドの自動設定（MCACC）（8ページ）を行ってください。

ノーマルサラウンド設置

ワイヤレススピーカーをリスニングポジション（視聴位置）の後方に設置する通常の設置方法です。
ノーマルサラウンド設置が最もサラウンド効果の高い設置方法です。

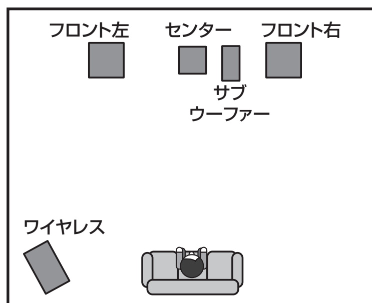
•ワイヤレスモードを切り換える（44ページ）
「**Wide**」または「**Normal**」を選択してください。
•リスニングモードの選択
「**サラウンド**」（45 ページ）または「**アドバンスドサラウンド**」（47 ページ）を選択してください。



ワイヤレス左サイド設置

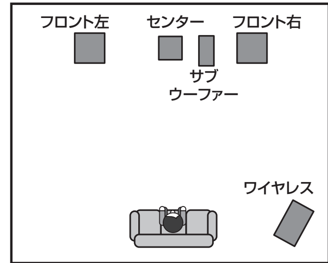
ワイヤレススピーカーをリスニングポジション（視聴位置）の左側に置きます。左右の音場バランスを保ちつつ、広がり感を与えます。

•ワイヤレスモードを切り換える（44ページ）
「**Left**」を選択してください。
•リスニングモードの選択
「**サラウンド**」（45 ページ）または「**アドバンスドサラウンド**」（47 ページ）を選択してください。



ワイヤレス右サイド設置

ワイヤレススピーカーをリスニングポジション(視聴位置)の右側に置きます。左右の音場バランスを保ちつつ、広がり感を与えます。



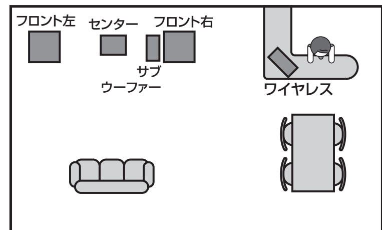
•ワイヤレスモードを切り換える(44ページ)
「**Right**」を選択してください。
•リスニングモードの選択
「**サラウンド**」(45ページ) または「**アドバンスドサラウンド**」(47ページ) を選択してください。

メ モ

▼ ワイヤレススピーカーを視聴位置(リスニングポジション)から極端に離して設置すると、サラウンド効果が十分に発揮されません。サラウンド効果が不十分なときは「スピーカー出力レベルの調整」(67ページ)をご覧になりRS(サラウンド右)、LS(サラウンド左)チャンネルのレベルを調整してください。とくにワイヤレススピーカーを床に設置しているときは、チャンネルレベルの調整が効果的です。
▼ ワイヤレススピーカーは視聴位置(リスニングポジション)の真後ろ(中央)や左右の棚、置き台、または床に設置してください。また、ワイヤレススピーカーは耳の高さよりも下に設置することをお勧めします。耳の高さより上に設置すると、サラウンド効果が十分に発揮されないことがあります。

ワイヤレススピーカーをステレオスピーカーとして使う

ワイヤレススピーカーをダイニングなどに持ち運び、ステレオ音声をお楽しみいただくことができます。
このときはワイヤレススピーカー以外のスピーカーからは音が出ません。



•ワイヤレスモードを切り換える(44ページ)
「Stereo」を選択してください。
•リスニングモードの選択
選択することができません。

注 意

◆ 使用中に電波の状態によって、音が途切れたり出なくなったりすることがありますが故障ではありません。トランスミッターまたはワイヤレススピーカーの位置や方向を変えてみてください。
◆ トランスミッターとワイヤレススピーカーの距離は約 10 mまで使用可能です。この距離は使用環境により異なりますので、10 mを保証するものではありません。
◆ トランスミッターとワイヤレススピーカーが近すぎると受信状態が不安定になる場合があります。このような場合には、トランスミッターとワイヤレススピーカーを 1 m以上離してお使いください。
◆ トランスミッターとワイヤレススピーカーの間に障害物(金属製のドアやコンクリート壁、アルミ箔入りの断熱材など)があると、電波を遮ってしまい音が出なくなるときがあります。その場合はトランスミッターとワイヤレススピーカーを互いに見通しの良い場所に設置してください。

ワイヤレスモードを切り換える

ワイヤレススピーカーをサラウンドスピーカーとしてお使いいただくときは「Normal」、「Wide」、「Left」、「Right」のいずれかを選ぶことができます。ステレオスピーカーとしてお使いいただくときは「Stereo」を選びます。

- **ノーマルサラウンド（Normal）**

ノーマルサラウンド設置をしたときに有効です。最もオーソドックスな音場効果が得られるモードです。

- **ワイドサラウンド（Wide）**

ノーマルサラウンド設置をしたときに有効です。より広がりのある音場効果が得られるモードです。（お買い上げ時の設定）

- **左サイドサラウンド（Left）**

ワイヤレス左サイド設置をしたときに選択します。リスニングポジションの後ろや右側にワイヤレススピーカーを設置できない場合に最適なモードです。左右の音声バランスを改善し、音に広がり感を与えます。

- **右サイドサラウンド（Right）**

ワイヤレス右サイド設置をしたときに選択します。リスニングポジションの後ろや左側にワイヤレススピーカーを設置できない場合に最適なモードです。左右の音声バランスを改善し、音に広がり感を与えます。

- **ステレオ（Stereo）**

ワイヤレススピーカーをステレオスピーカーとして使用するときに選択します。5.1chなどのマルチチャンネルソースを再生しているときはワイヤレススピーカーから2chにダウンミックスされた音が再生されます。ダイニングなどで、通常のステレオとして使用するときに最適なモードです。

- **オフ（Off）**

ワイヤレススピーカーを使用しないときに選択します。表示部のWIRELESSインジケーターも消灯します。

サラウンドスピーカーとして使う

1. ワイヤレス



ワイヤレスボタンを押して、いずれかのモードを選択します

- ノーマルサラウンド

Normal

- ワイドサラウンド（お買い上げ時の設定）

Wide

- 左サイドサラウンド

Left

- 右サイドサラウンド

Right

表示部にWIRELESSインジケーターが点灯します。

ステレオスピーカーとして使う

1. ワイヤレス



ワイヤレスボタンを押して、「Stereo」を選択します

- ステレオ

Stereo

表示部に「WIRELESS」インジケーターが点滅します。

Q&A

Q ： ワイヤレススピーカーから音が出ない！

→ ワイヤレススピーカーの電源がオフになっていませんか？電源ボタンを押して電源をオンにしてください。

→ トランスミッターのACアダプターが抜けていませんか？トランスミッターを本体またはコンセントと正しく接続してください。（システムセットアップガイド）

サラウンド

サラウンドモードは以下の中から選びます。お聴きになるソフトのジャンルに合わせて選択してください。

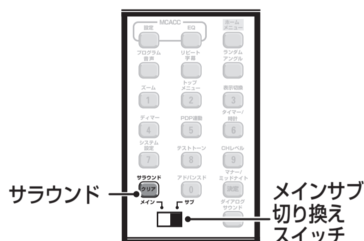
- **オート（Auto）** 2.1ch 5.1ch
  CDなどステレオで収録されている音声はステレオで、DVDなどマルチチャンネルで収録されている音声は、記録されたチャンネルに応じたスピーカーから音を出して再生します。

- **ドルビープロロジック（ProLogic）** 5.1ch
  従来のドルビープロロジックと同等の再生モードです。特にドルビーサラウンドエンコード作品をこのモードで視聴すると効果的です。

- **ドルビープロロジック II ムービー（Movie）** 5.1ch
  5.1ch化します。映画再生に適したモードで、特にドルビーサラウンドエンコード作品をこのモードで視聴するとより効果的です。サラウンドチャンネルへのダイアローグの漏れ込み（クロストーク）を聞こえにくくする処理などもあり、ドルビーデジタル5.1に迫るセパレーションや移動感などが得られます。

- **ドルビープロロジック II ミュージック（Music）** 5.1ch
  5.1ch化します。音楽再生に適したモードで、通常のステレオ録音されたソース（CDなど）を再生するときに効果的です。サラウンドチャンネルは定位よりも包囲感を重視しています。

- **ステレオ（Stereo）** 2.1ch
  あらゆる入力信号についてステレオ再生（左右2つのフロントスピーカーとサブウーファーのみによる再生）します。



1. メイン サブ

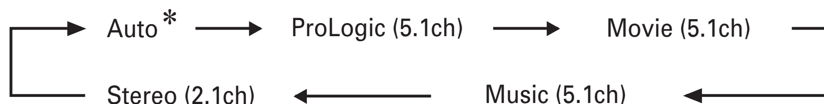
メインサブ切り換えスイッチをサブ側に切り換えます

2. サラウンド クリア

サラウンドボタンを押します

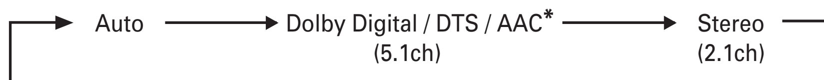
押すたびに、以下のように切り換わります。

■ 2チャンネル信号（PCM(CD音声)など）を再生している場合



* Autoは、音声フォーマットに応じたサラウンドモードに自動で切り換えます。

■ マルチチャンネル信号を再生している場合



* 各音声フォーマット(Dolby Digital/ DTS/ MPEG-2 AAC)に応じて、忠実にデコードして再生します。(Autoも同じ効果になります。)また、本体表示部にデコード名称が表示されます。各音声フォーマットについては、84～85ページを参照してください。

メモ

- ▼ PLII Music モードに音響効果を加えることができます。(➡49～50ページ)
- ▼ ヘッドホンプラグを差しているときは、ステレオ（Stereo）モードになります。
- ▼ サラウンドモード表示中に⇧⇩ **ボタン**を押すことでモードを切り換えることもできます。

Q&A

Q：ワイヤレススピーカーやセンタースピーカーから音が出ない！または、音が小さくて物足りない！

→ **サラウンドボタン**または**アドバンスドボタン**を押して、各モードをお試しください。

→ **CHレベルボタン**で、各スピーカーからの再生音を調整することができます。(67、68ページ)

アドバンスドサラウンド（パイオニアオリジナルのサラウンド効果）

フロントスピーカーに加え、センタースピーカーやサラウンドスピーカーも使い、パイオニアオリジナルのサラウンド効果を加えて再生するときのリスニングモードです。

- ムービー（AdvMovie） 5.1ch
  映画再生に適したモードです。特にドルビー、DTS エンコードの映画作品をこのモードで視聴するとより効果的で、映画館で映画を楽しんでいる雰囲気を味わうことができます。

- ミュージック（AdvMusic） 5.1ch
  音楽再生に適したモードで、通常のステレオ録音されたソース（CDなど）に限らずドルビー、DTS エンコードされた音楽作品を再生するときにも効果的です。コンサートホールのような雰囲気を味わうことができます。

- エキスパンデッド（Expanded） 5.1ch
  ドルビーサラウンドや2チャンネルで録音されているソースに対しては、5.1ｃｈサラウンドのような効果を実現します。また、ドルビーデジタルやDTS などの5.1ch サラウンドソフトを再生しているときも、より広がりのある音場を実現します。

- TVサラウンド（TV Surr.） 5.1ch
  テレビ放送のほとんどの割合を占めるモノラル信号やステレオ信号もマルチチャンネルサラウンドで再生します。モノラル放送の古い映画などをマルチチャンネルサラウンドでお聴きになりたいときに効果的です。

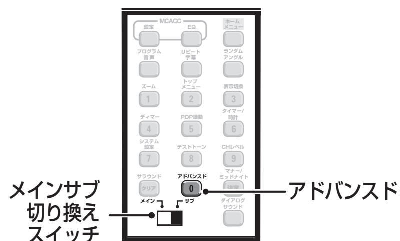
- スポーツ（Sports） 5.1ch
  スポーツ中継の臨場感を体感できるモードです。会場の雰囲気をマルチチャンネルサラウンドで再現します。

- ゲーム（Game） 5.1ch
  ゲームのスピード感、躍動感をよりいっそう高めます。シューティングゲームやレーシングゲームなど、右へ左へ駆け巡るような流れのあるシーンの多いゲームに効果的です。

- バーチャルサラウンド（Virtual） 2.1ch
  フロントスピーカーとサブウーファーのみでマルチチャンネルサラウンドの臨場感をお楽しみいただけます。

- ５チャンネルステレオ（5 Stereo） 5.1ch
  ステレオ（Stereo）モードの音声を5.1chにて再生するので、部屋のどの場所にいてもステレオ感をお楽しみいただけます。

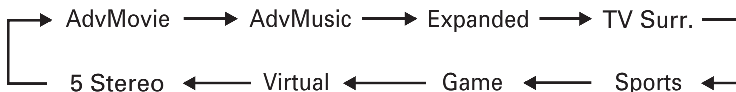
- ヘッドホンサラウンド（Phones Surround） 2 ch
  ヘッドホンで聴くときに、マルチチャンネルサラウンド再生時の臨場感をお楽しみいただけます。



1. **メインサブ切り換えスイッチをサブ側に切り換えます**

2. **アドバンスドボタンを押します**

押すたびに、以下のように切り換わります。



メ モ

- ▼ ヘッドホンプラグを差しているときは、ヘッドホンサラウンド(Phones Surround)が選択できます。
- ▼ アドバンスドサラウンドモードを解除したいときは、**サラウンドボタン**を押してください。
- ▼ アドバンスドサラウンドモード表示中に⇧ ⇩ **ボタン**を押すことでモードを切り換えることもできます。

サウンドモードの調整を行う

1. メイン サブ **メインサブ切り換えスイッチをメイン側に切り換えます**

2. ダイアログサウンド **サウンドボタンを押します**

3. **⇦ ⇨ で各設定項目を選びます**

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

ST− ST+

4. **⇧ ⇩ で、手順３で選択した項目を設定します**

TUNE+ 決定 TUNE−

5. 決定 **決定ボタンを押して設定モードを終了します**

音質を調整する項目は以下の通りです

Bass 0	低音の調整
Treble 0	高音の調整
Effect 70	アドバンスドサラウンド効果の調整

（アドバンスドサラウンドモード選択時のみ設定することができます。）

C Width3	センター幅の調整
Dimen. 0	ディメンション調整
Pnrm. Off	パノラマ調整

（ドルビープロロジックIIミュージックモード選択時のみ設定することができます。）

●：お買い上げ時の設定

設定項目	設定内容

Bass 0

低音の調整

再生する曲の低音（Bass）の音質を調整します。

●0

－３～+3 の間で調整できます。

メ モ

▼ ミッドナイトまたはマナーモードを選択しているときは、低音を調整することはできません。

Treble 0

高音の調整

再生する曲の高音（Treble）の音質を調整します。

●0

－３～+3 の間で調整できます。

メ モ

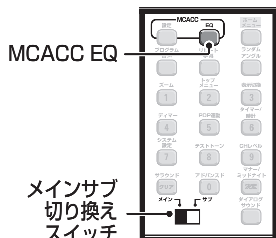
▼ ミッドナイトまたはマナーモードを選択しているときは、高音を調整することはできません。

●：お買い上げ時の設定

設定項目	設定内容
Effect 70	
アドバンスドサラウンド効果の調整 アドバンスドサラウンドモードの効果を調整します。	**● 70 または 90（サラウンドモードによって異なります）** 10 〜 90 の間で調整できます。
C Width3	
センター幅の調整 ドルビープロロジック II ミュージックモード時、センターチャンネルの音声を左右のフロントスピーカーにどの程度振り分けるかを調整します。 この調整によって音色の不一致を緩和させることが可能になり、音楽再生に適した音域を創り出すことができます。	**● 3** 0 〜 7 の間で調整できます。 （0 はセンタースピーカーのみからの出力で 7 はセンターチャンネルの音声をすべて左右のフロントスピーカーに振り分けます。）
Dimen. 0	
ディメンションの調整 ドルビープロロジック II ミュージックモード時、リスニングポジションから前方の音場を強くするか、後方の音場を強くするかを調整します。この調整を行うことで広がりのある音場を創り出すことができます。	**● 0** − 3 〜 +3 の間で調整できます。 （− 3 はリスニングポジションから後方の音場が強くなり、+3 は前方の音場が強くなります。）
Pnrm. Off	
パノラマ調整 ドルビープロロジック II ミュージックモード時、前方の音場を左右に大きく回り込ませ、サラウンド ch につなげるようなサラウンド効果を加えます。正確な定位よりも雰囲気を楽しむための機能です。	**● Off** On または Off のどちらかを選択します。

アコースティックキャリブレーションEQ(周波数特性の補正)

サラウンドの自動設定(MCACC)(8ページ)で設定された周波数特性の補正をオン/オフします。オンにすることでチャンネル間の音色の違いを統一させ、再生音のつながりを良くし、音場バランスを改善します。



1. メイン サブ **メインサブ切り換えスイッチをメイン側に切り換えます**

2. MCACC EQ **MCACC EQ ボタンを押します**

押すたびに、以下のように切り換わります。

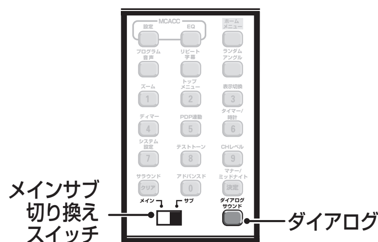
EQ On ←→ EQ Off

メ モ

- ▼ サラウンドの自動設定(MCACC)(8 ページ)を行ったときは自動的にOnになります。
- ▼ ヘッドホン使用時、録音モードがOnのとき(73 ページ)またはワイヤレスモードをステレオに設定しているときはEQを切り換えることはできません。
- ▼ ヘッドホン使用時またはワイヤレスモードをステレオに設定しているときは、EQは自動的にオフになります。

セリフやボーカルを強調して再生する

通常センタースピーカーから聞こえるセリフをTVから聞こえるように音像を移動したり、セリフやボーカルを明瞭に再生します。2種類の中からお好きな効果を選ぶことができます。



1. メイン サブ **メインサブ切り換えスイッチをサブ側に切り換えます**

2. ダイアログ サウンド **ダイアログボタンを押します**

押すたびに、以下のように切り換わります。

- 通常の音質

Off

- ダイアログ効果で再生します。

Mid

- より強いダイアログ効果で再生します。

Max

メ モ

- ▼ 88.2/96kHz リニア PCM 信号を再生しているときは、**ダイアログボタン**で音質を切り換えることはできません。

低音を強調する

低音だけを強調して迫力ある低音で再生します。音楽の低音再生に適したMusicモードと、映画の重低音再生に適したCinemaモードのいずれかを選ぶことができます。

2.1ch と 5.1ch の2つのモードで設定することができます。

1. バス モード  **バスモードボタンを押します**

押すたびに、以下のように切り換わります。

- 通常の音質

Off

- 重低音を補正して、臨場感を増やした設定で、音楽ライブのDVDにおすすめです。

Music

- Musicよりもさらに低音を強調した設定で、アクションシーンや戦闘、爆発音の多い映画ソフトにおすすめです。

Cinema

メ モ

▼ ヘッドホンプラグを差しているときは、バスモードボタンによる音質の変更はできません。

▼ 再生しているソースによっては、バスモードをCinemaやMusicに設定しているとサブウーファーの音が歪んでしまうことがあります。このようなときはOFFに設定してください。

▼ お買い上げ時は 2.1ch では「Off」に、5.1ch では「Cinema」に設定されています。

小さい音でサラウンドを楽しむ

・ **ミッドナイト**

音量を小さくすると、サラウンドサウンドが弱くなったり、微小な音が聴こえにくくなることがあります。この機能は、音量を小さくしても、ほどよい臨場感と高域のクリア感を確保することができるモードです。夜間に音量を小さくして映画を楽しむ場合に適しています。

・ **マナー**

夜間に音楽や映画を楽しむとき、突然の爆発音などが大きく出ることがあり、隣室などへ音もれといった迷惑をかけることがあります。この機能は、低域と高域を抑えることにより隣室などへの音もれを低減しつつ、セリフを聴き取りやすくするモードです。

1. メイン サブ **メインサブ切り換えスイッチをサブ側に切り換えます**

2. マナー/ミッドナイト 決定 **マナー / ミッドナイトボタンを押します**

押すたびに、以下のように切り換わります。

- 通常の音質（お買い上げ時の設定）

Off

- マナーがオンの設定

Manner

- ミッドナイトがオンの設定

Midnight

目覚ましタイマー

本機の時計機能を使うと、毎日同じ時刻に再生を開始して終了させることができます。
たとえば、お気に入りのCDを目覚まし時計の代わりに再生させることができます。

例）午前7時40分に再生がスタートし、午前8時15分に再生が終わるようにタイマーをセットするとき

1. 再生させたい機器の準備をします

ラジオ放送で目覚めるには....



TUNERボタンを押してから、好きな放送局を受信します。

CDやMP3、DVDで目覚めるには....



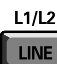
ディスクをセットし、**DVDボタン**を押します。

テレビで目覚めるには....



TVボタンを押して、接続したテレビの準備しておきます。

外部機器で目覚めるには....



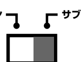
LINEボタンを押して、LINE1かLINE2を選択したあと、外部機器の再生を準備しておきます。

2. 音量の調整を行います

設定した音量でタイマーがオンします。



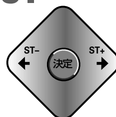
3. メインサブ切り換えスイッチをサブ側に切り換えます



4. タイマー/時計ボタンを2回押します

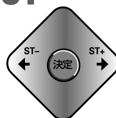


5. ⇦ ⇨ で "Wake－Up"を選んでから、決定ボタンを押します



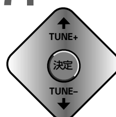
Wake－Up?

6. ⇦ ⇨ で "Edit"を選んでから、決定ボタンを押します



Edit ?

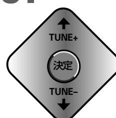
7. ⇧ ⇩ で開始時刻の「時」を合わせてから、決定ボタンを押します



例の場合は、"7 am"にします。

7 : 00 am

8. ⇧ ⇩ で開始時刻の「分」を合わせてから、決定ボタンを押します

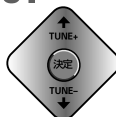


例の場合は、"40"にします。

7 : 40 am

再生開始時刻が設定されます。

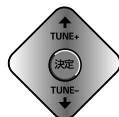
9. ⇧ ⇩ で終了時刻の「時」を合わせてから、決定ボタンを押します



例の場合は、"8 am"にします。

8 : 40 am

10. ⇧⇩で終了時刻の「分」を合わせてから、決定ボタンを押します



例の場合は、"15" にします。

8 : 15 am

決定ボタンを押すと、設定内容を表示したあと、⏲ が点灯します。

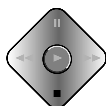
11. ⏻電源ボタンを押して電源をオフにします

電源



本体のタイマーインジケーターが点灯し、⏲ が消灯します。

途中で設定を中止にするには



■ボタンを押します

再度、目覚ましタイマーを設定するときは、始めから設定し直してください。

タイマーの設定内容を確認するには

タイマー/時計



電源がオフの状態でタイマー/時計ボタンを２回押します

設定されている内容がディスプレイに表示されます。

設定を解除 / 再設定するには

1. ⏻電源ボタンを押して電源をオンにします

電源



2. メインサブ切り換えスイッチをサブ側に切り換えます

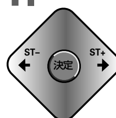


3. タイマー / 時計ボタンを２回押します

タイマー/時計

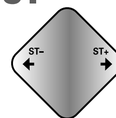


4. ⇦⇨で"Wake－Up"を選んでから、決定ボタンを押します



Wake－Up?

5. ⇦⇨で"Timer Off"にします



目覚ましタイマーが解除されます。

TimerOff

再設定する場合は、⇦ ⇨ で"Timer On" にします

TimerOn

6. 決定ボタンを押します



メ モ

▼ 再生させたい機器や音量ボリュームなどの設定した内容は、解除しない限り毎日同時刻に実行されます。

注 意

◆ 時計を合わせていないと、タイマーの設定はできません。(20 ページ)
◆ 停電したり電源コードを抜いたりすると、時計表示は点滅して動作しません。この場合は目覚ましタイマーの設定も解除されていますので、時刻を合わせてからあらためて目覚ましタイマーを設定し直してください。
◆ 開始時刻と終了時刻を同じにすると、目覚ましタイマーは動作しません。

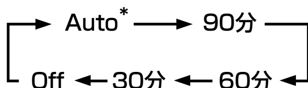
スリープタイマー

設定した時間が経過すると、自動的に電源が切れます。音楽を聞きながら眠ったりするときに便利です。
設定できる時間は、90 分、60 分、30 分の 3 種類と、スリープオートです。

1. **メインサブ切り換えスイッチをサブ側に切り換える**

2. **タイマー / 時計ボタンを 2 回押します**

3. **⇦ ⇨ で "Sleep" を選んでから、決定ボタンを押します**



4. **⇧ ⇩ で終了するまでの時間を設定します**

Auto* → 90分 → 60分 → 30分 → Off → Auto*

* **スリープオート(Auto)**
CD、DivX の再生中または VIDEO CDでPBCをオフで再生中に選ぶことができます。
再生が終了して本機が停止してから約 1 分後に自動的に電源が切れます。

5. **決定ボタンを押します**

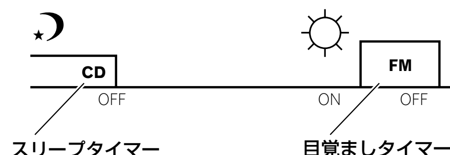
決定ボタンを押すと、⏻ が点灯します。

メ モ

▼ スリープタイマー設定後に、上記手順 1 〜 3 を行うことで、電源が切れるまでの時間を確認することができます。

注 意

◆ スリープ動作中の表示の明るさは、"Dark" の設定になります。(70 ページ)
◆ 目覚ましタイマー、スリープタイマーのタイマー動作が重なったときは、先に動作する方が優先します。
◆ スリープオートはリピートを設定していると選択することができません。
◆ スリープタイマーと目覚ましタイマーを組み合わせて使うことができます。
たとえば、夜はCD を聞きながらスリープタイマーで電源をオフにして寝て、朝はFMで目覚めるといったことができます。





1. **メインサブ切り換えスイッチをメイン側に切り換えます**

2. **ホームメニューボタンを押してホームメニュー画面を表示させます**

3. **[初期設定]を選択して、決定ボタンを押します**

ディスクの再生中に初期設定を選択することはできません。ディスクを停止してから再度選択してください。

4. **⇧⇩⇦⇨ ボタンと決定ボタンを使って、各項目を設定します**

●：お買い上げ時の設定

デジタル音声モード

設定項目	設定内容
□□Digital 出力 接続する外部機器がドルビーデジタル音声に対応していないときに、[Dolby Digital＞PCM]を選択します。	●**□□Digital**：ドルビーデジタル音声のまま出力したいとき。 ○**□□Digital＞PCM**：ドルビーデジタル信号をリニアPCM信号に変換して出力したいとき。[Dolby Digital＞PCM]を選択すると、本システムのスピーカー出力もドルビーデジタル信号をリニアPCM信号に変換して出力します。
DTS 出力 接続する外部機器がDTS音声に対応していないときに、[DTS>PCM]を選択します。	●**DTS:** DTS信号を出力したいとき。 ○**DTS＞PCM**：DTS信号をリニアPCM信号に変換して出力したいとき。 ▼DTSに対応していない外部機器に接続しているときに［DTS］を選択すると、ノイズが発生することがあります。
96kHz PCM 出力 接続する外部機器が96kHz音声に対応していないときに、[96kHz>48kHz]を選択します。	○**96kHz＞48kHz**：96kHzの信号を48kHzに変換して出力したいとき。 ●**96kHz**：96kHzのまま出力したいとき。

メモ

▼ 本機を外部機器と光デジタル接続するときに必要な設定です。ここでの設定は本システムのスピーカー出力に対しても有効になります。

●：お買い上げ時の設定

映像出力

設定項目	設定内容
テレビ画面 お使いのテレビに合わせてテレビ画面の縦横比を設定します。	●**4:3(レターボックス):** 従来サイズのテレビと接続して、16:9 の映像をレターボックス方式(画面の上下に黒い帯を入れて、4:3の画面で16:9の映像を再現する方式)で見たいとき。 ○**4:3（パンスキャン）：**従来サイズのテレビと接続して、16:9の映像をパンスキャン方式(16:9の映像の左右をカットして 4:3 の画面全体に映し出す方式)で見たいとき。**この設定はディスクが対応していないとできません。** ○**16:9：**ワイド（16:9）テレビと接続したとき。

お使いのテレビが従来サイズ(4:3)のとき		お使いのテレビがワイドテレビ(16:9)のとき	
本機の設定	映像の見えかた	本機の設定	映像の見えかた
4:3 (レターボックス)	16:9の映像　4:3の映像	16:9(ワイド)	16:9の映像　4:3の映像
4:3 (パンスキャン)	16:9の映像　4:3の映像		

＊画面の比率（アスペクト比）の切り換えができないディスクもあります。ディスクのジャケットなどで確認してください。

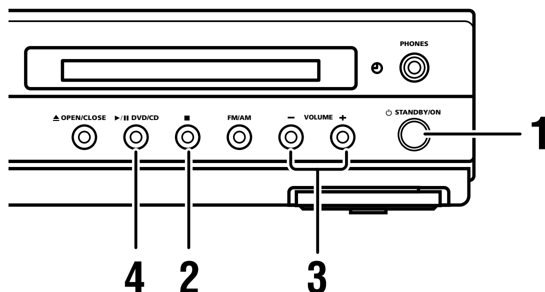
D2 映像出力 D1/D2映像端子に出力される映像をインターレースかプログレッシブに設定します。	○**プログレッシブ：**プログレッシブ映像信号に対応しているテレビまたはプロジェクターのとき。 ●**インターレース：**プログレッシブ映像信号に対応していないテレビまたはプロジェクターのとき。 ➡ **[プログレッシブ]**を選択して決定を押すと確認の画面が出ます。変更を行う場合は、決定ボタンを押してください。変更しない場合は、その他のボタンを押してください。

▼ **[プログレッシブ]**と**[インターレース]**を切り換えるとき、映像が乱れることがあります。

▼ **[プログレッシブ]**と**[インターレース]**を再生中に切り換えることはできません。ディスクを停止させてから切り換えてください。

注 意

◆ プログレッシブ入力に対応していないテレビとD映像接続（71ページ）しているときは、**[プログレッシブ]を選択しないでください。正常な映像が出力されません。選択してしまったときは、下記の方法で[インターレース]に切り換えてください。**



1. 本機を待機（スタンバイ）状態にします

電源が入っているときは、本体の⏻電源ボタンを押します。

2. 本体の■ボタンを8秒間押し続けます

以下のように表示されます。

Mem. Clr?

3. 本体のVOLUME ＋または−ボタンのどちらかを押します

以下のように表示されます。

Interl ?

4. 本体の►/II ボタンを押します

電源がオンになり、映像出力が**[インターレース]**になります。

●：お買い上げ時の設定

言語

設定項目	設定内容
音声言語 DVD ビデオの音声言語を変更します。	●**日本語**：日本語にするとき。 ○**英語**：英語にするとき。 ○**その他の言語**：136 言語の中から任意の音声を選びます。（62 ページ） ▼ ディスクによっては、ディスクで決められている音声の言語になることがあります。 ▼ ディスクによっては、音声の言語をディスクメニューで選択するようになっています。このときは、リモコンの**DVDメニューボタン**を押してディスクメニューを表示させてから音声の言語を選択してください。
字幕言語 DVD ビデオの字幕言語を変更します。	●**日本語**：日本語にするとき。 ○**英語**：英語にするとき。 ○**その他の言語**：136 言語の中から任意の字幕を選びます。（62 ページ） ▼ ディスクによっては、ディスクで決められている言語で字幕が表示されることがあります。 ▼ ディスクによっては、字幕の言語をディスクメニューを使用して選択するようになっています。このときは、リモコンの**DVD メニューボタン**を押してディスクメニューを表示させてから字幕の言語を選択してください。
DVD メニュー言語 DVDビデオのディスクメニューに表示する言語を変更します。	●**字幕言語に連動：[字幕言語]**で選択されている言語でメニュー画面を表示するとき。 ○**日本語**：日本語でメニュー画面を表示するとき。 ○**英語**：英語でメニュー画面を表示するとき。 ○**その他の言語**：136 言語の中から任意の言語を選びます。（62 ページ）
字幕表示 DVD ビデオの字幕を表示する / しないを設定します。	●**オン**：字幕を表示するとき。 ○**オフ**：字幕を表示しないとき。ただし、DVD ビデオの中には強制的に字幕を表示するディスクもあります。

●：お買い上げ時の設定

表示

設定項目	設定内容
画面表示言語 テレビ画面の操作表示言語を設定します。	●**日本語**：操作表示言語を日本語にするとき。 ○ English：操作表示言語を英語にするとき。
アングルマーク表示 アングルマーク（🎥）を表示する / しないを設定します。	●**オン**：テレビ画面に🎥マークを表示するとき。 ○**オフ**：テレビ画面に🎥マークを表示しないとき。

オプション

設定項目	設定内容
視聴制限 暴力シーンなどを含む DVD ビデオには、視聴制限のレベルを設けたものがあります（ディスクのジャケットなどの表示で確認できます）。本機のレベルを小さくしておくと、これらのディスクの視聴を制限することができます。	◆**暗証番号** ◆**レベル変更** ◆**国 / 地区コード** ➡ **暗証番号を登録するには** ①**[暗証番号]を選んで決定ボタンを押します** ②**メインサブ切り換えスイッチをメイン側に切り換えます** ③**数字（0～9）ボタンで４桁の暗証番号を入力して、決定ボタンを押します** ▼ 暗証番号はメモしておくことをお勧めします。 ▼ 暗証番号を忘れてしまったときは、本機を初期化して、再度設定してください（100ページ）。 ▼ ディスクによっては、視聴制限されたシーンのみをとばして再生するものもあります。詳しくはディスクに添付されている操作方法をご覧ください。 ▼ 視聴制限されたディスクを再生すると、暗証番号の入力を求める画面が表示されていることがあります。このときは、暗証番号を入力しないと再生することができません。

➡ 暗証番号を変更するには
①[暗証番号]を選んで決定ボタンを押します
②メインサブ切り換えスイッチをメイン側に切り換えます
③数字（0〜9）ボタンですでに登録してある暗証番号を入力して、決定ボタンを押します
④数字（0〜9）ボタンで新しい暗証番号を入力して、決定ボタンを押します

➡ レベルを変更するには
①[レベル変更]を選んで決定ボタンを押します
②メインサブ切り換えスイッチをメイン側に切り換えます
③数字（0〜9）ボタンで４桁の暗証番号を入力して、決定ボタンを押します
④ レベルを選んでから、決定ボタンを押します

➡ 国 / 地区コードを変更するには
国 / 地区コード表（63 ページ）を見ながら操作してください。

①[国コード]を選んで決定ボタンを押します
②メインサブ切り換えスイッチをメイン側に切り換えます
③数字（0〜9）ボタンですでに登録してある暗証番号を入力して、決定ボタンを押します
④数字（0〜9）ボタンで[コード]、または⇧⇩で[国 / 地区コード表]を入力してから、決定ボタンを押します

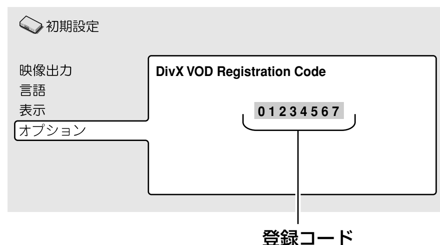
▼ 国/地区コードを変更したときは、ディスクを一度取り出してください。再度ディスクをセットすると変更が有効になります。

DivX VOD

DivX VOD フォーマットで記録されたファイルを本機で再生する場合、その DivX VOD ファイルの配信先に対して本機の登録コードが必要な場合があります。その場合は、Displayで確認した登録コードをお使いください。

◆ Display

➡DivX VOD 登録コードを確認するには
①[DivX VOD]を選択し、⇨ ボタンを押します。
②[Display]を選択して決定ボタンを押します。



登録コード

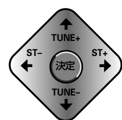
▼ DivX VOD フォーマットで記録されたファイルはDRMコピープロテクションがかかっており、登録されたプレーヤーでのみ再生することができます。
▼ 本機の登録コードが承認されていないDivX VOD ファイルを再生すると「Authorization Error」と表示され再生することができません。

注 意

◆ DivX VOD ファイルには視聴回数が設定されているものがあります。そのようなDivX VOD ファイルを本機で再生すると残りの視聴回数がOSD画面に表示されます。残りの視聴回数が0のファイルを本機が読み込むと「Rental Expired」と表示され再生することができません。また、視聴回数の設定されていないDivX VOD ファイルについては、OSD画面には残りの視聴回数は表示されず、何度でも再生することができます。

言語の設定でその他の言語を選んだとき

言語コード表（63ページ）にある136言語の中から選ぶことができます。DVDに収録されていない言語を設定したときは、収録されているいずれかの言語でメニュー画面が表示されます。





1. [その他の言語]を選択して、決定ボタンを押します

2. ⇧⇩⇦⇨ ボタンまたは数字ボタンを使って（数字ボタンを使うときはメインサブ切り換えスイッチをメイン側に切り換えます）[言語表]または[コード]を選んでから、決定ボタンを押します

言語によってはコード番号しか表示されないものもあります。詳しくは言語コード表（63ページ）をご覧ください。

言語コード表

言語名(言語コード), **入力コード**

Japanese (ja), **1001**
English (en), **0514**
French (fr), **0618**
German (de), **0405**
Italian (it), **0920**
Spanish (es), **0519**
Chinese (zh), **2608**
Dutch (nl), **1412**
Portuguese (pt), **1620**
Swedish (sv), **1922**
Russian (ru), **1821**
Korean (ko), **1115**
Greek (el), **0512**
Afar (aa), **0101**
Abkhazian (ab), **0102**
Afrikaans (af), **0106**
Amharic (am), **0113**
Arabic (ar), **0118**
Assamese (as), **0119**
Aymara (ay), **0125**
Azerbaijani (az), **0126**
Bashkir (ba), **0201**
Byelorussian (be), **0205**
Bulgarian (bg), **0207**
Bihari (bh), **0208**
Bislama (bi), **0209**
Bengali (bn), **0214**
Tibetan (bo), **0215**
Breton (br), **0218**
Catalan (ca), **0301**
Corsican (co), **0315**
Czech (cs), **0319**
Welsh (cy), **0325**
Danish (da), **0401**
Bhutani (dz), **0426**
Esperanto (eo), **0515**
Estonian (et), **0520**
Basque (eu), **0521**
Persian (fa), **0601**
Finnish (fi), **0609**
Fiji (fj), **0610**
Faroese (fo), **0615**
Frisian (fy), **0625**
Irish (ga), **0701**
Scots-Gaelic (gd), **0704**
Galician (gl), **0712**
Guarani (gn), **0714**
Gujarati (gu), **0721**
Hausa (ha), **0801**
Hindi (hi), **0809**
Croatian (hr), **0818**
Hungarian (hu), **0821**
Armenian (hy), **0825**
Interlingua (ia), **0901**
Interlingue (ie), **0905**
Inupiak (ik), **0911**
Indonesian (in), **0914**
Icelandic (is), **0919**
Hebrew (iw), **0923**
Yiddish (ji), **1009**
Javanese (jw), **1023**
Georgian (ka), **1101**
Kazakh (kk), **1111**
Greenlandic (kl), **1112**
Cambodian (km), **1113**
Kannada (kn), **1114**
Kashmiri (ks), **1119**
Kurdish (ku), **1121**
Kirghiz (ky), **1125**
Latin (la), **1201**
Lingala (ln), **1214**
Laothian (lo), **1215**
Lithuanian (lt), **1220**
Latvian (lv), **1222**
Malagasy (mg), **1307**
Maori (mi), **1309**
Macedonian (mk), **1311**
Malayalam (ml), **1312**
Mongolian (mn), **1314**
Moldavian (mo), **1315**
Marathi (mr), **1318**
Malay (ms), **1319**
Maltese (mt), **1320**
Burmese (my), **1325**
Nauru (na), **1401**
Nepali (ne), **1405**
Norwegian (no), **1415**
Occitan (oc), **1503**
Oromo (om), **1513**
Oriya (or), **1518**
Panjabi (pa), **1601**
Polish (pl), **1612**
Pashto, Pushto (ps), **1619**
Quechua (qu), **1721**
Rhaeto-Romance (rm), **1813**
Kirundi (rn), **1814**
Romanian (ro), **1815**
Kinyarwanda (rw), **1823**
Sanskrit (sa), **1901**
Sindhi (sd), **1904**
Sangho (sg), **1907**
Serbo-Croatian (sh), **1908**
Sinhalese (si), **1909**
Slovak (sk), **1911**
Slovenian (sl), **1912**
Samoan (sm), **1913**
Shona (sn), **1914**
Somali (so), **1915**
Albanian (sq), **1917**
Serbian (sr), **1918**
Siswati (ss), **1919**
Sesotho (st), **1920**
Sundanese (su), **1921**
Swahili (sw), **1923**
Tamil (ta), **2001**
Telugu (te), **2005**
Tajik (tg), **2007**
Thai (th), **2008**
Tigrinya (ti), **2009**
Turkmen (tk), **2011**
Tagalog (tl), **2012**
Setswana (tn), **2014**
Tonga (to), **2015**
Turkish (tr), **2018**
Tsonga (ts), **2019**
Tatar (tt), **2020**
Twi (tw), **2023**
Ukrainian (uk), **2111**
Urdu (ur), **2118**
Uzbek (uz), **2126**
Vietnamese (vi), **2209**
Volapük (vo), **2215**
Wolof (wo), **2315**
Xhosa (xh), **2408**
Yoruba (yo), **2515**
Zulu (zu), **2621**

国／地区コード表

国名／地区名 , **入力コード , 国／地区コード**

アメリカ, **2119, us**
アルゼンチン, **0118, ar**
イギリス, **0702, gb**
イタリア, **0920, it**
インド, **0914, in**
インドネシア, **0904, id**
オーストラリア, **0121, au**
オーストリア, **0120, at**
オランダ, **1412, nl**
カナダ, **0301, ca**
韓国, **1118, kr**
シンガポール, **1907, sg**
スイス, **0308, ch**
スウェーデン, **1905, se**
スペイン, **0519, es**
タイ, **2008, th**
台湾, **2023, tw**
中国, **0314, cn**
チリ, **0312, cl**
デンマーク, **0411, dk**
ドイツ, **0405, de**
日本, **1016, jp**
ニュージーランド, **1426, nz**
ノルウェー, **1415, no**
パキスタン, **1611, pk**
フィリピン, **1608, ph**
フィンランド, **0609, fi**
ブラジル, **0218, br**
フランス, **0618, fr**
ベルギー, **0205, be**
ポルトガル, **1620, pt**
香港, **0811, hk**
マレーシア, **1325, my**
メキシコ, **1324, mx**
ロシア, **1821, ru**

サラウンドの設定を行う

- サラウンドの自動設定（MCACC）を行った場合、「各スピーカーまでの距離」は自動で高精度に測定／設定されているので、ここでの設定は必要ありません。
- 録音モード（73 ページ）が ON のときは、以下の「設定項目」を変更することはできません。

1. メインサブ切り換えスイッチをサブ側に切り換えます

メイン サブ

2. システム設定ボタンを押します

システム設定 7

3. ⇦ ⇨ で各設定項目を選びます

ST– 決定 ST+

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

各スピーカーまでの距離の設定のみ

決定 ボタンを押してから⇦ ⇨ ボタンで設定したいチャンネルを選びます。

CD タイプの選択のみ

決定 ボタンを押します。

選択できる項目は以下のとおりです

- Dist.? 各スピーカーまでの距離の設定
  - 決定
    - L フロント左スピーカー
    - C センタースピーカー
    - R フロント右スピーカー
    - RS サラウンド右スピーカー
    - LS サラウンド左スピーカー
    - SW サブウーファー
- DRC Off ダイナミックレンジコントロールの設定
- LFEATT 0 LFEアッテネーターの設定
- CD Type? CDタイプの選択
  - 決定
    - NormalCD ノーマルCD
    - DTS-CD DTS-CD

4. ⇧ ⇩ で、手順３で選択された項目を設定します

TUNE+ 決定 TUNE–

5. 決定ボタンを押して設定モードを終了します

●：お買い上げ時の設定

設定項目	設定内容
L　3.0m **フロント左スピーカーまでの距離の設定** C　3.0m **センタースピーカーまでの距離の設定** R　3.0m **フロント右スピーカーまでの距離の設定** RS　3.0m **サラウンド右スピーカーまでの距離の設定** LS　3.0m **サラウンド左スピーカーまでの距離の設定** SW　3.0m **サブウーファーまでの距離の設定** リスニングポジションから各スピーカーまでの距離を設定します。それぞれのスピーカーまでの距離を入力することによって、その差に生じる音のタイミングのズレが自動的に補正され、リスニングポジションで適切な音場効果を得ることができます。	● 3m 0.3m～9.0mの間を0.3m間隔で設定できます。
DRC Off **ダイナミックレンジコントロールの設定** ダイナミックレンジとは再生能力を表す用語で、どのくらい小さな音からどのくらい大きな音までをきちんと（小さな音はノイズに埋もれずに、大きな音は歪まずに）再生できるかを数値（dB）で表したものです。ダイナミックレンジコントロールとは、このダイナッミックレンジを圧縮する機能です。音量を下げて映画を楽しむときなどは、ダイナミックレンジを圧縮すると微小な音も聞きやすくなり、映画をより一層楽しむことができます。	● DRC Off： ダイナミックレンジを圧縮せずにソフトに収録されたまま再生します。 ○ DRC Mid： ダイナミックレンジを少し圧縮します。 ○ DRC High： ダイナミックレンジを最も圧縮します。 **メモ** ▼ 小さい音量で楽しむ場合は、Highに設定することをお勧めします。 ▼ ダイナミックレンジコントロールに対応しているドルビーデジタル音声やDTS音声にのみ効果があります。

●：お買い上げ時の設定

設定項目	設定内容
LFEATT 0 **LFE アッテネーターの設定** ドルビーデジタル信号やDTS信号に含まれるLFE成分（超低域信号成分）の信号レベルが大きすぎて、スピーカーから出る音に歪みが生じてしまう場合に、その信号レベルをアッテネート（減衰）する量を設定することができます。	● **LFE ATT 0：** 収録されているレベルのまま再生します。 ○ **LFE ATT 10：** レベルを10dBアッテネート（減衰）します。 ○ **LFE Off：** LFE成分の音が出なくなります。 **メモ** ▼ ドルビーデジタルやDTSのように、再生するソフトにLFEの専用のチャンネルがある場合にのみ効果があります。
CD Type? **CD タイプの設定**	● **Normal CD：** DTS-CDを再生すると曲頭部分でノイズが聞こえることがありますが、通常のCDの再生ではノイズが聞こえるようなことはありません。 ○ **DTS-CD：** DTS-CDを再生してもノイズが聞こえることはありませんが、通常のCDを再生すると曲頭部分が欠けて聞こえることがあります。

・サラウンドの自動設定（MCACC）を行った場合、「スピーカー出力レベルの調整」は自動で高精度に測定／設定されているので、ここでの設定は必要ありませんが、お好みに応じて調整することもできます。

あるスピーカーからの音のみを大きくしたり小さくしたいときに、そのチャンネルのレベルを調整することができます。出力レベルはサラウンドモードのときは 2.1ch と 5.1ch に、アドバンスドサラウンドモードのときは、各モードごとに設定することができます。

テストトーンで調整する

1. メイン／サブ

メインサブ切り換えスイッチをサブ側に切り換えます

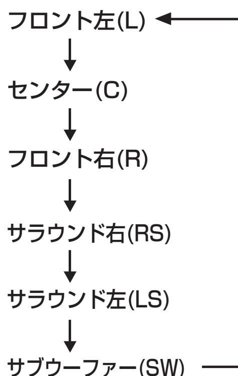
2. サラウンド クリア または アドバンスド 0

調整したいリスニングモードを選択します(45、47 ページ)

3. テストトーン 8

テストトーンボタンを押します

以下の順番で、各チャンネルのテストトーン(ザーという音)が、自動的に切り換わって出力されます。



4. **お好みの音量に調整します**

「Volume 40」以下に設定してください。



5. TUNE+ TUNE−

⇧⇩ で、テストトーンが出力されているスピーカーの出力レベルを調整します

各スピーカーからの音が同じ大きさに聞こえるように調整してください。チャンネルレベルは±10dBの範囲で調整できます。

6. テストトーン 8

すべてのスピーカーの調整が終了したら、テストトーンボタンを押します

テストトーンが止まり、出力レベル調整を終了します。

メモ

▼ サブウーファーのテストトーンは、周波数が低いので実際のレベルより小さく聞こえます。
▼ サブウーファーの調整は音楽や映画ソースなどを実際に使って適切な値に調整してください。
▼ オートモードでテストトーンを出力したときは、再生しているソースによらず、5.1ch 用の設定値が表示され、調整することができます。
▼ リスニングモードが 2.1ch モードのときは、センターおよびサラウンドスピーカーからはテストトーンが出力されません。

注意

◆ この設定は、ヘッドホン出力には反映されません。
◆ ワイヤレススピーカーをステレオスピーカーとして使用しているときやヘッドホンを挿入しているときは出力レベルを調整することはできません。

再生しているディスクで調整する

1. お好みのディスクを再生します

2. メイン サブ メインサブ切り換えスイッチをサブ側に切り換えます

3. CHレベル 9 CH レベルボタンを押します

4. ⇦ ⇨ で、出力レベルを調整するチャンネルを選びます

ST− ST+

フロント左(L)
↕
センター(C)
↕
フロント右(R)
↕
サラウンド右(RS)
↕
サラウンド左(LS)
↕
サブウーファー(SW)

リスニングモードが 2.1ch モードのときは、センターおよびサラウンドチャンネルの出力レベルを調整することはできません。

5. ⇧ ⇩ で、各チャンネルの出力レベルを調整します

TUNE+ TUNE−

チャンネルレベルは、±10dBの範囲で調整できます。

6. 手順４から５を繰り返して各スピーカーのレベルを調整します

7. 決定 決定ボタンを押します

注 意

- ◆ この設定は、ヘッドホン出力には反映されません。
- ◆ ワイヤレススピーカーをステレオスピーカーとして使用しているときや、ヘッドホンを挿入しているときは出力レベルを調整することはできません。

キーロック機能を使う

この機能をオンにすると、本体の操作ボタンがすべて使用できなくなります。
小さなお子さまのいる家庭でのいたずら防止に便利な機能です。
お買い上げ時は、キーロック機能はOffに設定されています。

1. 電源
⏻電源ボタンを押して電源をオフにします

2. メイン サブ
メインサブ切り換えスイッチをサブ側に切り換えます

3. システム設定 7
システム設定ボタンを押します

4. ST− 決定 ST+
⇦ ⇨ で "KeyLock" を選んでから、決定ボタンを押します

KeyLock?

5. TUNE+ TUNE−
⇧ ⇩ で、キーロック機能のオン / オフを選びます

キーロック機能の On のとき

Lock On?

キーロック機能の Off のとき

LockOff?

6. 決定
決定ボタンを押します

時計の表示モードをかえる

時計の表示を、12時間表示と24時間表示とに切り換えることができます。
お買い上げ時は、12時間表示になっています。

1. 電源
⏻電源ボタンを押して電源をオフにします

2. メイン サブ
メインサブ切り換えスイッチをサブ側に切り換えます

3. システム設定 7
システム設定ボタンを押します

4. ST− 決定 ST+
⇦ ⇨ で "12/24 Hr" を選んでから、決定ボタンを押します

12/24 Hr?

5. TUNE+ TUNE−
⇧ ⇩ でお好きな表示を選択します

24 時間表示

24−Hour?

12 時間表示

12−Hour?

6. 決定
決定ボタンを押します

表示全体の明るさをかえる

部屋の明るさに応じて、表示の明るさを暗くすることができます。ディマー機能といいます。お買い上げ時は、通常の明るさに設定されています。

1. メイン サブ

メインサブ切り換えスイッチをサブ側に切り換えます

2. ディマー 4

ディマーボタンを押します

押すたびに、表示の明るさが2段階で切り換わります。

暗い設定

Dark

通常の明るさの設定

Light

より鮮明な映像でテレビを見るための接続

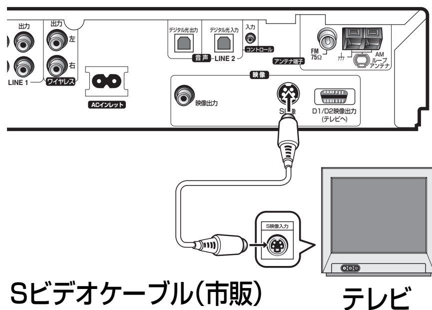
別紙の「システムセットアップガイド」では、付属の映像ケーブルを使用した接続方法でしたが、以下の接続を行うと、より鮮明な画像でDVDを楽しむことができます。

メ モ

▼ 映像出力端子、またはS映像出力端子に接続しているときや、プログレッシブ入力に対応していないテレビとD映像接続しているときは、映像の出力方式を**[インターレース]**（57ページ）に設定してください。**[プログレッシブ]**に設定してしまうと映像が何も出なくなります（58ページ）。接続しているテレビがプログレッシブ入力に対応しているかテレビの取扱説明書をご覧ください。

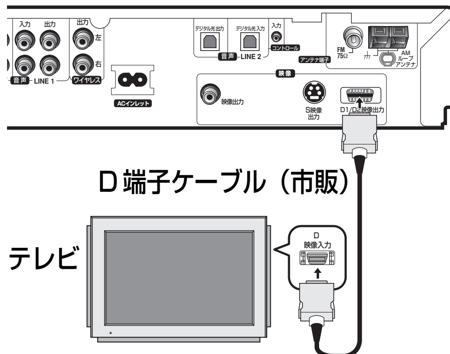
S映像入力端子付きテレビの場合

S映像入力端子を持っているテレビと、本機の**S映像出力**とを市販のSビデオケーブルで接続すると、映像入力端子につなぐより鮮明な映像になります。



D端子対応のテレビの場合

市販のD映像ケーブルで接続します。本機の高品位な映像品質を楽しむときに最も適した接続です。本機の**D1/D2映像出力端子**は、接続するテレビのD1、D2、D3、またはD4のいずれの入力端子にも接続することができます。



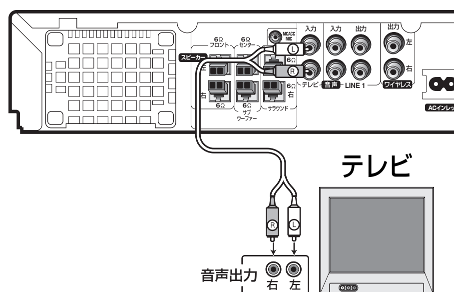
テレビの音声を本機で聞くための接続

本機に接続したテレビの音声を、本機のスピーカーで楽しむことができます。

接続のしかた

本機の**音声 / テレビ入力端子**と、接続したテレビの出力端子とを、市販のオーディオコード（ピンプラグ付接続コード）で接続します。

- 詳しくは、接続したテレビの取扱説明書をご覧ください。



本機で聞くには



TVボタンを押して、TV ATTにします

TV ATTと表示されTV入力になります。

メ モ

▼ マルチチャンネル (5.1ch) 再生にしたいときは、リスニングモードを**5.1ch**に切り換えてください。（45、47 ページ）

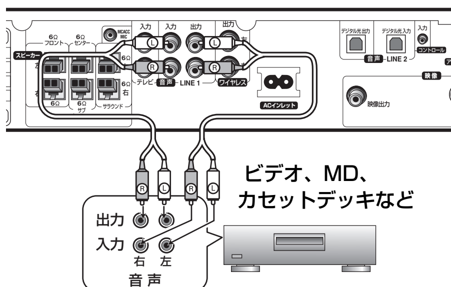
ビデオやカセットデッキなどを本機で聞くための接続

CD-R、MD、カセットデッキなどのアナログ入出力端子のある機器を、本機に接続することができます。これにより、接続した機器で本機の音声を録音したり、接続した機器を本機のスピーカーから聞いたりすることができます。

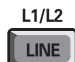
接続のしかた

本機の**LINE1 入力端子**と接続機器の出力端子、本機の **LINE1 出力端子**と接続機器の入力端子とを、それぞれ市販のオーディオコード（ピンプラグ付接続コード）で接続します。

- 詳しくはそれぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。



本機で聞くには（アナログにする）



LINE ボタンを押して、L1 ATT にします

押すたびに、L1 ATT とLINE2の入力が切り換わります。

メ モ

▼ マルチチャンネル (5.1ch) 再生にしたいときは、リスニングモードを**5.1ch**に切り換えてください。（45、47 ページ）

外部機器音声の歪みを減らす

本機の音声入力端子**「LINE1 入力」**または**「テレビ入力」**にアナログ接続した外部機器の音声を本機で再生していると、歪んでいるように感じられる場合があります。これは入力信号が大きすぎることが考えられ、アッテネーター（減衰器）をオンにセットすると改善されることがあります。
アッテネーターの設定は、**「テレビ入力」**または**「LINE1 入力」**の各端子ごとに設定することができます。

1. 電源
⏻電源ボタンを押して電源をオフにします

2. メイン サブ
メインサブ切り換えスイッチをサブ側に切り換えます

3. システム設定 7
システム設定ボタンを押します

4. **⇦ ⇨ で設定したい入力を選んで、決定ボタンを押します**

ST− 決定 ST+

TV 入力を選んだとき

TV ATT?

LINE1 入力を選びます。

L1 ATT?

5. **⇧ ⇩ で最適な減衰値を選んでから、決定ボタンを押します**

TUNE+ 決定 TUNE−

ATT 6dB

ATT 6dB?

ATT 10dB

ATT 10dB?

ATT なし

ATT Off?

カセットなどのアナログ機で本機の音声を録音するには

本機の **LINE1 出力端子**から出力される音声を録音する場合は下記の手順に従って録音モードを On に設定してください。
Off に設定されていると、本機を操作したときにLINE1出力音声が途切れてしまい、途切れたまま録音されてしまいます。
録音モードが On のときは以下のボタン操作を行うことはできません。

・サラウンド　・アドバンスド　・ダイアログ
・バスモード　・マナー / ミッドナイト
・テストトーン　・システム設定
・システム設定・MCACC 設定
・MCACC EQ　・ワイヤレス

1. メイン サブ
メインサブ切り換えスイッチをメイン側に切り換えます

2. ダイアログ サウンド
サウンドボタンを押します

3. **⇦ ⇨ で "Rec Mode" を選択して、決定ボタンを押します**

ST− 決定 ST+

Rec Mode?

4. **⇧ ⇩ で "RMode On" または "RMode Off" にします**

TUNE+ TUNE−

On にするとき

RMode On

Off にするとき

RMode Off

5. 決定
決定ボタンを押します

メ モ

▼ ドルビーデジタルのマルチチャンネル音声を再生しているときに録音モードをOnに設定するとLINE出力端子からはサラウンドエンコード（Lt/Rt）ダウンミックスされた音声が出力されます。その音声をドルビープロロジックデコーダを搭載した機器で再生する場合に適しています。

▼ 電源をオフにしたり、本機の入力を切り換えると録音モードは自動的に「Off」になります。

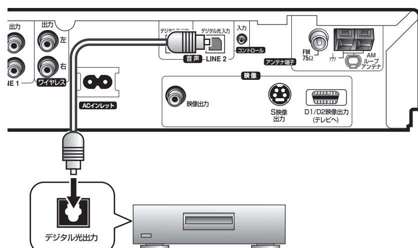
BSチューナーやゲーム機などの音声を本機で聞くには

BSチューナー、CSチューナー、ゲーム機などの機器を本機にデジタルで接続し、本機で聞くことができます。これにより、5.1ch対応のゲームを、立体音場で楽しむことができます。

接続のしかた

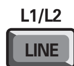
市販の光ケーブルで、本機の**LINE2デジタル光入力端子**と接続する機器のデジタル光出力端子とを接続します。

● 詳しくはそれぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。



BSチューナー、ゲーム機など

本機で聞くには（デジタル入力にする）



LINEボタンを押して、LINE2にします

押すたびに、L1 ATTとLINE2の入力が切り換わります。

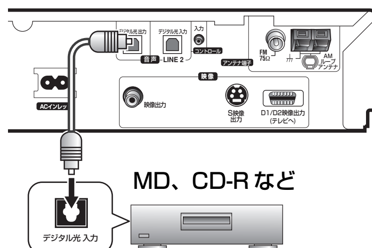
MDやCD-Rなどのデジタル機器で本機の音声を録音するには

MDやCD-Rなどの機器にデジタルで接続し、本機の音声をデジタル録音することができます。

接続のしかた

別売りの光ケーブルで、本機の**デジタル光出力端子**と接続する機器のデジタル光入力端子とを接続します。

● 詳しくはそれぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。



MD、CD-Rなど

注 意

◆ TUNERの音声や、テレビ入力、LINE1入力端子から入力した音声を**デジタル光出力端子**から出力させることはできません。

Q&A

Q1: 外部接続したデジタル機器にデジタル録音ができない！

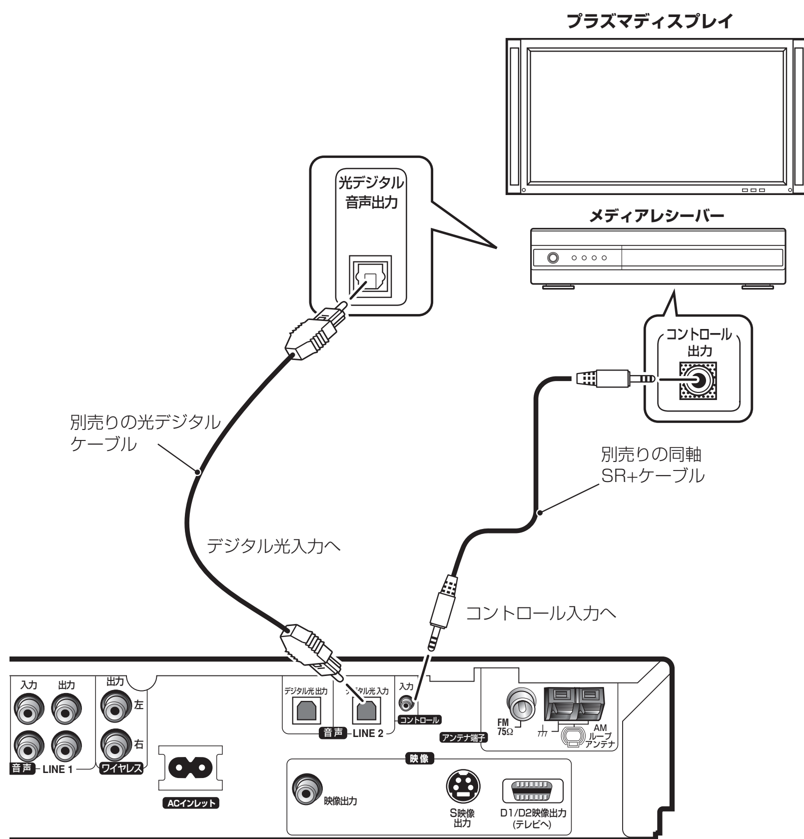
→ デジタル録音されたCD-Rを、さらに別のデジタル機器に録音することはできません。

→ ラジオ放送は、デジタル録音ができません。

→ DVDなど、デジタル録音が禁止されているソフトを録音することはできません。

パイオニアプラズマディスプレイと連動させるための接続

このシステム動作を実現するためには専用のSR＋ケーブル（パイオニア部品番号：ADE7095）が必要となります。詳しくはパイオニア部品受注センターへご連絡ください（裏表紙参照）。市販の4極ミニジャック（両端とも）付コードでも使用できます。
SR+に対応したプラズマディスプレイ（2003年以降に発売されたモデル）をSR+ケーブルで接続することでシステム動作を実現します。本機とプラズマディスプレイの入力を連動させて切り換えることができます。本機とプラズマディスプレイをシステム動作させるには、以下の接続および設定（76ページ）が必要になります。



注 意

◆ SR+ケーブルを接続した状態でプラズマディスプレイの電源が切れているときは、リモコンで本機の操作ができません。
◆ SR+ケーブルを本機のコントロール入力端子に接続すると、本機のリモコン受光部は信号を受け付けません。リモコン操作をするときはリモコンをプラズマディスプレイのリモコン受光部に向けてください。

接続したプラズマディスプレイとの連動設定

SR＋ケーブルで接続することでシステム動作を実現します。「音量連動モードの設定」と「入力連動モードの設定」を設定します。本機とプラズマディスプレイをシステム連動させるには、接続（75ページ）および以下の設定が必要となります。

メモ

▼ 以下の設定をする前に本機とプラズマディスプレイをSR＋ケーブルで接続して（75ページ）、本機とプラズマディスプレイの電源を入れてください。

音量連動モードの設定

連動モードを実行したとき（77ページ）にプラズマディスプレイの音量を下げるかどうか設定します。
「On」に設定すると連動モードを実行したとき瞬時にプラズマディスプレイの音量が0になり本機の音に切り換わります。

1. メイン　サブ
メインサブ切り換えスイッチをサブ側に切り換えます

2. PDP連動 5
PDP連動ボタンを押します

3. ST－ 決定 ST＋
⇦ ⇨で“Setup?”を選んで決定ボタンを押します

Setup?

4. ST－ ST＋
⇦ ⇨で、音量連動モードの設定モードを選びます

押すたびに各項目の設定モードが切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

Vol　COff

5. TUNE＋ TUNE－
⇧ ⇩で、ONまたはOFFを選びます

押すたびに以下のように切り換わります。

Vol C On ←→ Vol COff

6. 決定
決定ボタンを押して設定モードを終了します

メモ

▼ 再度プラズマディスプレイの音を出したいときはプラズマディスプレイの音量を上げてください。

入力連動モードの設定

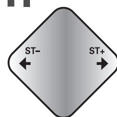
本機の音声とプラズマディスプレイの映像入力を自動で選択させるための設定です。本機の音声入力（DVD、TV、LINE1、LINE2）とプラズマディスプレイの映像入力（ビデオ1、2、3、など）をこの設定で合わせると、本機の入力を切り換えたときに、プラズマディスプレイの映像入力も自動で切り換わります。

1. メイン　サブ
メインサブ切り換えスイッチをサブ側に切り換えます

2. PDP連動 5
PDP連動ボタンを押します

3. ST－ 決定 ST＋
⇦ ⇨で“Setup”を選んで決定ボタンを押します

4. ⇦ ⇨で、各入力の連動モードを選びます

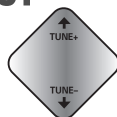


押すたびに各入力の設定モードが切り換わり、現在の設定内容が表示されます。



（PDP3はプラズマディスプレイの映像入力３（ビデオ３）を表しています）

5. ⇧ ⇩で、接続に合わせてプラズマディスプレイの映像入力を切り換えます



押すたびにプラズマディスプレイの入力が以下のように切り換わります。

PDPTV → PDP 1 → PDP 2 → PDP 3 → PDP 4 → PDP 5(PC) → None → PDPTV

Noneのときは入力切換は連動しません。

たとえば、本機の映像出力端子をプラズマディスプレイのビデオ入力 1 端子に接続したときは、「DVD▶None」を「DVD▶PDP1」に切り換えます。
工場出荷時の本機の入力とプラズマディスプレイの入力はすべて None に設定されています。
メディアレシーバーの光デジタル音声出力を本機の LINE2 デジタル光入力端子に接続したとき（75ページ）にプラズマディスプレイ（PDP）の BS デジタル放送を選ぶときは、本機の入力をLINE2に切り換えてからPDPの入力を切り換えてください。

6. 

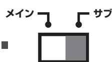
決定ボタンを押して設定モードを終了します。

連動モード実行

本機とプラズマディスプレイが SR+ ケーブルで接続されていることを確認してください。

1. プラズマディスプレイの電源を入れます

2. 電源  本機の電源を入れます

3. 

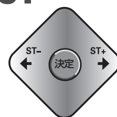
メインサブ切り換えスイッチをサブ側に切り換えます

4. PDP連動 

PDP 連動ボタンを押します

連動モードを解除したいときは再度 PDP 連動ボタンを押します。

5. ⇦ ⇨で "SR + On?" を選んで決定ボタンを押します



連動モードが実行されます。

SR+　　On?

6. システム動作を確認します

以下の操作を行うと本機とプラズマディスプレイが連動して動作します。
・本機の入力を切り換えるとプラズマディスプレイの入力が切り換わります。

注 意

◆ SR+ケーブルを本機のコントロール入力端子に接続すると、本機のリモコン受光部は信号を受け付けません。リモコン操作をするときはリモコンをプラズマディスプレイに向けてください。

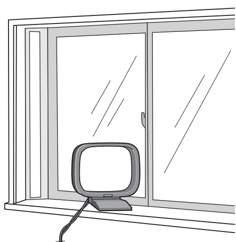
メ モ

- ▼ プラズマディスプレイの電源がOFFのときまたは正しく接続されていないときは連動モードは働きません。
- ▼ 入力連動モードを設定していない入力のときは、プラズマディスプレイの画面は切り換わりません。
- ▼ SR+ ケーブルを接続した状態でプラズマディスプレイの電源が切れているときはリモコンで本機の操作ができません。

アンテナ端子のアースマーク(⏚)はアンテナを接続した場合の雑音低減をはかるためのものです。安全アースではありません。

AM ループアンテナ：

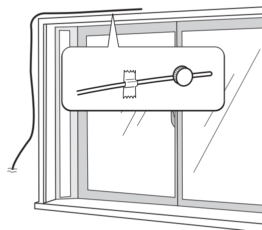
- 平らな面に置き、受信状態の最も良い方向に向けてください。
- アンテナは、本機から離して金属物と接触しない場所に置いてください。また、パソコン、テレビなどからもできるだけ離してください。ノイズの原因となります。
- 壁などに取り付ける場合は、AM放送の受信状態が最も良い方向を見つけ、取り付け位置を決めてください。



- できるだけ窓の近くに置くなど、置く位置や向きを変えて受信しやすい状態を探してください。

FM 簡易アンテナ：

- 付属のFM簡易アンテナは、たらしておいたり、丸めたままにしないでピンと張ってください。
- 受信状態の良い方向が決まったら、画びょうやテープで貼り付けます。

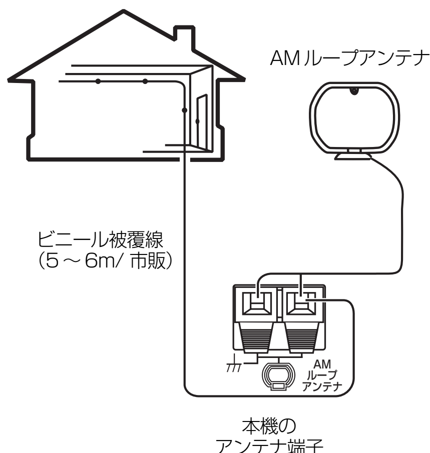


- 付属のFM簡易アンテナは、FM放送を手軽に受信するためのものです。より良い受信のためには、市販の屋外アンテナの使用をお勧めします。

付属アンテナでよく聞こえないとき

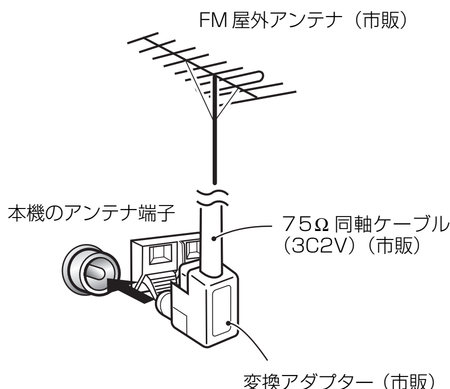
AM 外部アンテナをつなぐ

- AM 外部アンテナ（市販のビニール被覆線）を下図のように接続してください。



FM 屋外アンテナをつなぐ

- 市販のFM屋外アンテナを接続するには、市販の同軸ケーブルと変換アダプターを使って、下図のように接続してください。



DVD-R ディスクの再生について

- 本機はDVDビデオフォーマットで記録されたDVD-R ディスクを再生することができます。
- MP3/WMA/JPEG が記録された DVD-R を再生することはできません。
- ファイナライズしていないDVD-Rディスクを再生することはできません。

DVD-RW ディスクの再生について

- 本機は DVD ビデオフォーマット、または VR モードで記録されたDVD-RWディスクを再生することができます。
- 本機は再生専用機です。DVD-RWディスクに録画することはできません。
- MP3/WMA/JPEG が記録された DVD-RW を再生することはできません。
- ファイナライズしていない DVD ビデオフォーマットの DVD-RW ディスクを再生することはできません。
- DVD レコーダーで編集(シーン消去など)をした箇所を再生すると、そのつなぎ目で一瞬映像が止まります。これは故障ではありません。

※ 詳しくはレコーダーの取扱説明書をご覧ください。また、DVD ビデオフォーマット記録、および VR モードでの記録については89 ページもあわせてご覧ください。
VR モードで記録できるディスクは DVD-RW だけです。また、VR モードで記録された DVD-RW を本機にセットすると「DVD-RW」と表示されます。

CD-R/CD-RW ディスクの再生について

- 本機は音楽 CD フォーマット、ビデオ CD フォーマット、MP3やWMAの音楽データ、または JPEG の静止画像が記録された CD-R/CD-RW ディスクを再生することができます。ただし、ディスクによっては「再生できない」、「ノイズが出る」、または「音が歪む」などが起きることがあります。
- 本機は再生専用機です。CD-R/CD-RWディスクに録音することはできません。
- ファイナライズしていない CD-R/CD-RW ディスクを再生することはできません。

※ 詳しくはレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

MP3 の再生について

- ISO9660 レベル 1/ レベル 2 の CD-ROM ファイルシステム、および拡張フォーマット(Joliet、Romeo)に準拠して記録したディスクを使用してください。
- MPEG1 オーディオレイヤー 3 のサンプリング周波数 32kHz、44.1kHz、または48kHzで記録されたファイルに対応しています。それ以外で記録されたファイルは**[このフォーマットは再生できません]**と表示され、再生することができません。
- 可変ビットレート(VBR: Variable Bit Rate)には対応していません(再生できる場合、表示窓の時間表示が速くなったり、遅くなったりします)。
- 「.mp3」、または「.MP3」という拡張子がついたMP3ファイルのみ再生することができます。
- マルチセッション(87 ページ)には対応していません。マルチセッションディスクのときは、最初のセッションのみ再生します。
- 1 枚のディスクに最大 299 フォルダーまで、各フォルダーごとにフォルダーとトラックの数の合計で 648 まで認識・再生することができます。ただし、フォルダーの構成によっては、すべてのフォルダー、トラックが認識・再生できない場合があります。
- 音質的には、記録ビットレート128kbpsを推奨します。

WMA の再生について

- 外装箱に印刷された、Windows Media™ のロゴは、本機がWMAデータの再生に対応していることを示しています。
WMA とは、「Windows Media Audio」の略で、米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。



- Windows Media、Windowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- WMAとは、「Windows Media Audio」の略で、米国Microsoft Corporationによって開発された音声圧縮技術です。WMAデータは、Windows Media Player Ver.7, 7.1, Windows Media Player for Windows XP、またはWindows Media 9 Seriesを使用してエンコードすることができます。
- ISO9660レベル1/レベル2のCD-ROMファイルシステム、および拡張フォーマット(Joliet、Romeo)に準拠して記録したディスクを使用してください。
- サンプリング周波数32kHz、44.1kHz、または48kHzで記録されたファイルに対応しています。それ以外で記録されたファイルは**[このフォーマットは再生できません]**と表示され、再生することができません。
- 可変ビットレート(VBR: Variable Bit Rate)、またはロスレスエンコーディング(loss-less encoding)には対応していません。
- DRMコピープロテクト(保護)のかかったWMAファイルは再生できません。
- 「.wma」、または「.WMA」という拡張子がついたWMAファイルのみ再生することができます。
- マルチセッション(87ページ)には対応していません。マルチセッションディスクのときは、最初のセッションのみ再生します。
- 1枚のディスクに最大299フォルダーまで、各フォルダーごとにフォルダーとトラックの数の合計で648まで認識・再生することができます。ただし、フォルダーの構成によっては、すべてのフォルダー、トラックが認識・再生できない場合があります。
- WMAファイルは、米国Microsoft Corporationの認証を受けたアプリケーションを使用してエンコードしてください。もし、認証されていないアプリケーションを使用すると、正常に動作しないことがあります。

JPEGの再生について

- JPEGとは、写真やイラストなどの画像ファイルを保存する形式(画像フォーマット)のひとつです。
- ISO9660レベル1/レベル2のCD-ROMファイルシステム、および拡張フォーマット(Joliet、Romeo)に準拠して記録したディスクを使用してください。
- 本機では、フジカラーCD、コダックピクチャーCD、またはCD-R/CD-RW/CD-ROMに記録されているJPEGファイルを再生することができます(記録方法などによって再生できないこともあります)。
- 総ピクセル数が3072×2048ピクセル以下のベースラインJPEGファイル、およびExif 2.2 *4 (88ページ)に準拠したJPEGファイルの静止画再生に対応しています。
- 「.jpg」、または「.JPG」という拡張子がついたJPEGファイルの静止画像を表示することができます。
- フォルダー名、ファイル名のアルファベット順に、1枚のディスクに最大299フォルダーまで、各フォルダーごとにフォルダーとトラックの数の合計で648まで認識・再生することができます。ただし、フォルダーの構成によっては、すべてのフォルダー、トラックが認識・再生できない場合があります。
- プログレッシブJPEGには対応していません。
- ファイルサイズが大きいファイルは画像の再生に時間がかかることがあります。

*4 *デジタルスチルカメラ用画像ファイルフォーマット規格(Exif)Ver2.2、JEIDA-49-1998 (社)電子情報技術産業協会 JEITA*

DivXの再生について

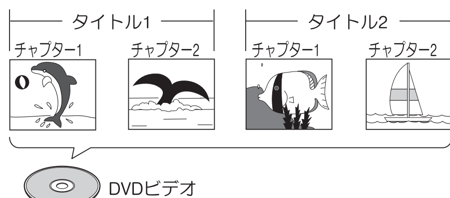
- 本機はDivX® に正式認証された製品です。
- DivXとはDivXNetworks, Inc.のDivX® ビデオコーディング方式によるデジタルビデオ圧縮技術です。
- 本機ではCD-R/RW/ROMディスクに記録されたDivXファイルを再生することができます。
- DivXファイルはDVDビデオのようにファイルを「タイトル」と呼びます。DivXファイルはタイトルのアルファベット順に再生されますので、CD-R/RWに記録する際はタイトル名のつけ方にご注意ください。
- DivX® 規格に準拠したDivX® 5、DivX® 4、DivX® 3、DivX® VODビデオフォーマット(コンテンツ)を本機で再生することができます。
- 「.avi」または「.divx」という拡張子がついたDivXファイルのみ再生することができます。「.avi」という拡張子はMPEG4に準拠していますが、MPEG4の中でもDivXファイルでない場合があります。その場合は本機では再生することができませんのでご注意ください。
- DivX、DivX Certified、およびそれらの関連ロゴはDivXNetworks, Inc.の登録商標であり、ライセンス契約に基づく使用許可を受けています。

注 意

- ◆ レコーダー、またはパソコンで記録したDVD-R/DVD-RW ディスク、CD-R/CD-RWディスクを再生できないことがあります(原因：ディスクの特性、傷、汚れ、プレーヤーのレンズの汚れ、または結露など)。
- ◆ パソコンで記録したディスクは、アプリケーションの設定、および環境によって再生できないことがあります。正しいフォーマットで記録してください(詳細はアプリケーションの発売元にお問い合わせください)。
- ◆ パケットライト方式で記録されたディスクは再生できません。
- ◆ ファイナライズしていないDVD-R/DVD-RW/CD-R/CD-RW ディスクを再生することはできません。
- ◆ 詳しいCD-R/CD-RW ディスクの取り扱いについては、ディスクの使用上の注意をご覧ください。

タイトルとチャプターについて

DVDではディスクをタイトルという単位で分け、さらにタイトルをチャプターという単位で分けています(DVDビデオにはメニュー映像が記録されているソフトがありますが、このメニュー映像はどのタイトルにも属していません)。
DVDビデオの映画ソフトなどでは、ふつう1つの映画が1つのタイトルに対応し、複数のチャプターで構成されています。また、カラオケソフトのように1曲が1タイトルとなっているディスクもありますし、このような区切りになっていないディスクもあります。

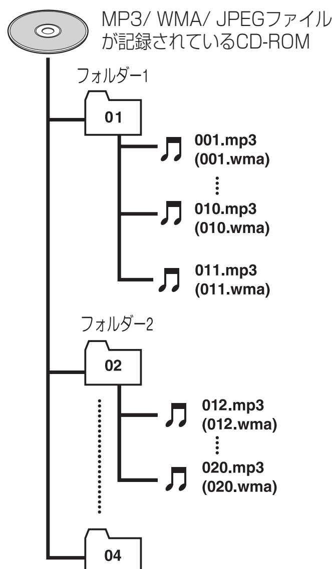


トラックについて

CDやビデオCDでは、ディスクをトラックという単位で分けています（一般的には、1曲が1つのトラックに対応しています。またさらに、トラックがインデックスという単位で分けられている場合もあります)。

WMA/MP3/JPEG について

WMA/MP3のフォルダー/トラックの名前や、JPEGのフォルダー/ファイルの名前を表示することができます(半角英数字で入力された文字のみ)。半角英数字以外で入力されているフォルダー/トラック/ファイルの名前は[F_001]/[T_001]/[FL_001]のように表示されることがあります。



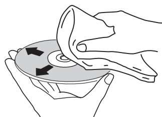
DVD/CD ディスクの取り扱いかた

保管

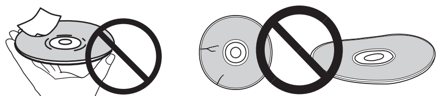
- 必ずケースに入れ、高温多湿の場所や直射日光の当たる場所・極端に温度の低い場所を避けて垂直に保管してください。
- ディスクに付いている注意書は必ずお読みください。

ディスクの取り扱い

- ディスクに指紋やホコリが付くと、再生ができなくなることがあります。このようなときは、クリーニングクロスなどで内周から外周方向へ軽く拭いてください。そのとき、汚れたクリーニングクロスは使用しないでください。

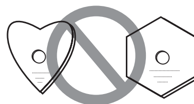


- ベンジン、シンナーなどの揮発性の薬品は使用しないでください。また、レコードスプレー・帯電防止剤などは使用できません。
- 汚れがひどいときは、柔らかい布を水に浸してよく絞ってから汚れを拭き取り、そのあと乾いた布で水気を拭き取ってください。
- 損傷のあるディスク(ひびやそりのあるディスク)は使用しないでください。
- ディスクの信号面にキズや汚れを付けないでください。
- ディスクに紙やシールなどを貼り付けないでください。ディスクにそりが発生し、再生ができなくなる恐れがあります。また、レンタルディスクはラベルが貼ってある場合が多く、のりなどがはみ出している恐れがありますので、のりなどのはみ出しがないことを確認してからご使用ください。
- ディスクを 2 枚重ねて再生しないでください。



特殊な形のディスクについて

本機では、特殊な形のディスク（ハート型や六角形など）は再生できません。故障の原因になりますので、そのようなディスクはご使用にならないでください。



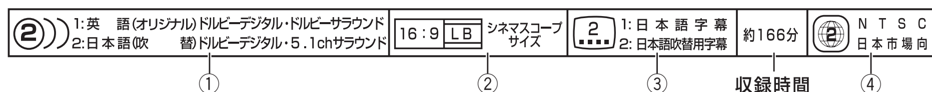
レンズのクリーニングについて

レンズにゴミやホコリがたまると、音飛びしたり画像が乱れたりすることがあります。このような場合は、**「保証とアフターサービス」**（101 ページ）をお読みのうえ、清掃をご依頼ください。市販されているクリーニングディスクを使用するとレンズを破損する恐れがありますので、ご使用にならないでください。

DVDのディスクジャケットについて

DVDビデオのディスクレーベルやディスクジャケットにはいろいろなマークが表記されています。これらのマークの意味を知っておくと、そのディスクがどのように記録されているかを読みとることができます。また、そのマークによって、本機で再生中に利用できる機能も異なります。
ここでは、DVD ビデオのディスクジャケットに表記されているおもなマークをご紹介します。

DVD ビデオ（DVD-VIDEO）のディスクジャケットの例



① ディスクに記録されている**音声の数と種類・音声トラック方式**を示しています(音声の切り換えは、38、59 ページをご覧ください)。
上記の場合、英語音声はドルビーサラウンド（ドルビープロロジックサラウンド）で、日本語音声は5.1ch のドルビーデジタルサラウンドで再生されます。

② 再生可能な**テレビ画面サイズや見えかた**を示しています。このディスクの場合、16：9の画面サイズの映像の左右が圧縮されて記録されおり、テレビの種類に合わせて本機の設定を合わせておくと、シネマスコープサイズの映像を楽しむことができます(57 ページ)。

③ ディスクに記録されている字幕の数と言語などの種類を示しています(字幕の切り換えは、37、59 ページをご覧ください)。
DVD ビデオでは最大 32 種類の字幕を記録することができます。

④ ディスクの**地域番号（リージョンナンバー）**です。
DVDプレーヤーとDVDビデオディスクには、発売地域ごとに地域番号（リージョンナンバー）が設定されています。再生するディスクに記載された地域番号がプレーヤーに設定された番号を含まない場合、そのディスクを再生することはできません。本機（日本向け）の再生可能地域番号は２番で、ディスクに記載された地域番号が２番を含むか「ALL」となっている場合に再生が可能です。

その他のマーク



舞台中継やスポーツ中継などでは、複数台のカメラで撮影している場合がほとんどです。DVDビデオでは、最大9つのカメラアングルで撮影された映像を同時に収録することができます。このマークが付いたDVDビデオでは、同一場面を複数のアングルから見て楽しむことができます（38 ページ）。

メ モ

▼ DVD ビデオの音声タイプは、「ドルビーデジタル」、「DTS」、「リニア PCM」の３つが現在主流となっています。

ドルビーデジタルとは. .

DVDの標準音声タイプのことです。モノラルやステレオで記録されているソフトもあれば、現在最も主流となっている5.1ch サラウンドで記録されているソフトもあります。ドルビーデジタル(5.1ch サラウンド) で記録されているソフトとは、5つのチャンネルの個別にそれぞれのシーンに合った音声が記録されていて、サブウーファーから出力される低音も記録されているソフトのことを言います。

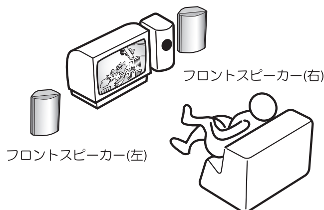
DTS* とは. . 

DTSとはデジタルシアターシステム(Digital Theater System)の略で、5.1chのデジタル･サラウンド録音再生方式です。DTSデジタル･サラウンドで記録されたDVDソフトも、ドルビーデジタル(5.1ch サラウンド)で記録されているソフトと同様に5.1chで音声を楽しむことができます。

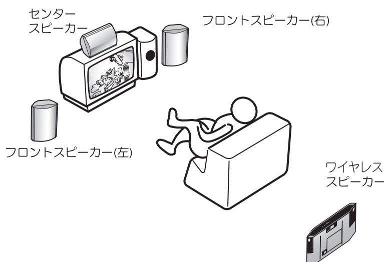
リニア PCM

音声の圧縮を行わない方式です。ミュージカルや音楽コンサートライブなどを収録したDVD ビデオの場合によく使われます。48kHz/16bit、96kHz などの表示があることもあります。

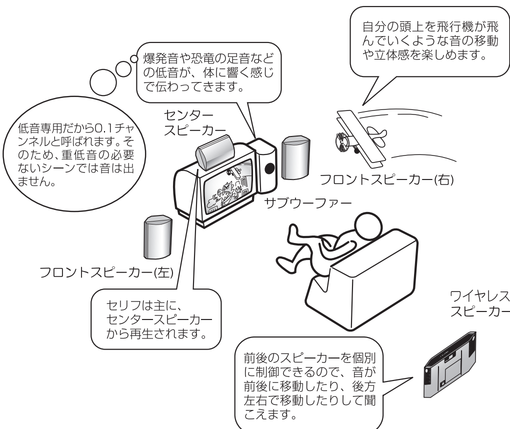
- **ステレオ再生とは. .**
  左右 2 つのスピーカーとサブウーファーから別々の音声を再生することです。DVD ビデオのステレオ音声や通常の音楽用CD（ステレオ 2ch で録音されています）は、5 本のスピーカーとサブウーファーが接続されていても､音はフロントスピーカーとサブウーファーからしか再生されません。



- **ドルビープロロジックサラウンド再生とは. .**
  ソフトのパッケージにドルビーサラウンド(DOLBY SURROUND)と表記されているソフトを､5本(本システムはワイヤレススピーカーがサラウンドスピーカー2本分の働きをするため4本)のスピーカーとサブウーファーで再生することです｡ただし､サラウンドスピーカーは左右同じ音(モノラル)で再生されます｡(ドルビープロロジックIIの場合は､ステレオで再生されます｡)



- **ドルビーデジタル 5.1ch または DTS サラウンド再生とは. .**
  ドルビーデジタル（5.1ch サラウンド）または DTS サラウンドで記録されているソフトを、5 本（本システムはワイヤレススピーカーがサラウンドスピーカー２本分の働きをするため４本）のスピーカーとサブウーファーから、それぞれ別々の音で再生することです。5.1ch 独立で音声が記録されているため、立体感のある音場で臨場感あふれる音声が楽しめます。



* *ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています｡Dolby､ドルビー､Pro Logic､ダブルD記号及びAACロゴはドルビーラボラトリーズの商標です｡*

** *“DTS” および “DTS Digital Surround” は米国Digital Theater Systems, Inc. の登録商標です。米国 Digital Theater Systems, Inc. からの実施権に基づき製造されています。*

アスペクト比
テレビ画面の横と縦の比率をいいます。従来サイズのテレビでは4:3ですが、ハイビジョンテレビやワイドテレビは16:9の比率となっています。臨場感あふれる映像が楽しめるようになっています。

アッテネーター
「減衰器」とも呼ばれ、外部機器から入力した信号を正確に減衰させるための回路です。出力音声が歪んでいる場合、改善することができます。

インターレース（飛び越し走査）
映像の１画面を半分ずつ２回に分けて描きます。最初に奇数番目の走査線を描き、目の残像を利用して、次に偶数番目の走査線を描いて１画面(フレーム)を表示します。従来のテレビの走査方式として採用されています。通常、解像度の数字の後ろに「i」を付けて（525iなど）表記します。

映像出力（コンポジット）
輝度信号(Y)と色信号(C)を混合して１本のコードで伝送できるようにした信号です。ただし、入力機器側で混合された輝度信号(Y)と色信号(C)を分離しなければなりません。この輝度信号(Y)と色信号(C)を分離するときの精度で画質の良さが決まります。

視聴制限
暴力シーンなどを含むDVDの中には、視聴制限のレベル（大小）が設けられたものがあります。ディスクのレベルよりも小さいレベルに本機の視聴制限レベルを設定すると、暗証番号を入力しない限り再生ができなくなります。

ダイナミックレンジ
ダイナミックレンジとは、ディスクに記録されている音声レベルの最大値と最小値の差異のことです。ダイナミックレンジは、デシベル（dB）単位で測定されます。
ダイナミックレンジを圧縮する（オーディオDRC）と、最小の信号レベルが上がり、最大の信号レベルが下がります。これにより、破裂音のような強い音声信号が低減される一方、人の声などの低いレベルの音声信号がはっきりと聞こえるようになります。

デコード
ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AACなどの圧縮されたデジタル信号を解凍して再生することです。

ドルビープロロジックサラウンド再生
2chサラウンド信号や2chステレオ信号をドルビープロロジック回路を通し、マルチチャンネルサラウンドで再生することです。2chサラウンド信号については圧縮された信号を忠実にデコード（再生）し、2chステレオ信号については２チャンネル分の信号からセンター、サラウンドチャンネルの信号を作り出します。ただし、この再生方式ではサラウンドチャンネルはモノラルであるため、左右のサラウンドスピーカーからは同じ音声が出力されます。

ドルビープロロジックⅡサラウンド再生
ドルビープロロジックⅡは、ドルビープロロジックをさらに改良し、ステレオ音声を5.1chに拡張して再生するためのマトリックスデコード技術です。ステアリングロジック回路により、全可聴帯域のメイン5chを作り出します。CDのような通常のステレオ音楽素材に対してもより優れた立体音場効果、包囲感、より明確な定位をもたらし、ドルビーサラウンドエンコードされた素材はディスクリート5.1chに匹敵する移動感をも実現できるものです。

■プロロジックとプロロジックⅡの違い

	プロロジック	プロロジックⅡ
効果的なソース	ドルビーサラウンドエンコード処理されたステレオ音声	すべてのステレオ音声
デコードチャンネル数	4.1ch (サラウンド モノラル)	5.1ch (サラウンド ステレオ)
周波数特性	サラウンド 7kHz帯域制限	全チャンネル フルバンド

光デジタル出力
音声は通常、電気信号に変えて電線でプレーヤーからアンプなどの他の機器に伝達しますが、これをデジタル信号に変えて、光ファイバーで伝達できるようにしたものが光デジタル出力です（アンプなど、受け取り側は光デジタル入力になります）。

プレイバックコントロール（PBC）
ビデオCD（バージョン2.0）に記録されている、再生をコントロールするための信号です。PBC付きビデオCDに記録されているメニュー画面を使って、簡単な対話形式のディスクや検索機能のあるディスクの再生が楽しめます。また、高/標準解像度の静止画も楽しむことができます。

プログレッシブ(順次走査)
映像の1画面を2回に分けずに1画面ずつ描きます。特に静止画の文字やグラフィックス、横線などの多い画像で、チラツキを抑えた美しい画像がご覧になれます。通常、解像度の数字の後ろに「p」を付けて（525pなど）表記します。

マルチアングル
通常のテレビ番組などはテレビカメラからの映像を見ていますので、画像は撮影しているカメラの位置の視点でテレビ画面に表示されます。テレビスタジオなどでは数台のカメラで同時に撮影した映像の1つを番組ディレクターが選んで電波にのせて各家庭のテレビに送っていますので、視聴者側で視点(カメラ)を選ぶことはできません。DVDビデオには同時に複数のカメラで撮影したすべての映像が記録されているものがあり、プレーヤー側で自由に選ぶことができます。DVDビデオではアングルを最大9つまで記録することができます。

マルチ音声言語
DVDビデオの中には、1枚のディスクの中に複数の音声を持っているものがあります。DVDビデオでは音声を最大8言語(8ストリーム)まで記録することができ、その中からお好きな言語を選んで楽しめる機能です。

マルチ字幕言語（サブタイトル）
映画などでおなじみの字幕の言語です。DVDビデオでは字幕の言語を最大32カ国語まで記録することができ、その中からお好きな言語を選んで楽しめる機能です。

マルチセッション
CD-RやCD-RWにデータを記録するとき、その記録の始めから記録の終わりまでをひとまとめにした単位をセッションといいます。マルチセッションとは、1枚のディスクに2つ以上のセッションデータを記録する方法のことです。

マルチチャンネルサラウンド再生
3本以上のスピーカーでサラウンド再生することです。音声信号が3チャンネル以上の録音方式で記録されているソフトについてはソフトに忠実に再生します。なかでも5.1chサラウンド信号の再生については、左右のサラウンドスピーカーからもそれぞれ異なる音声が出力されるので、ドルビープロロジックサラウンド再生に比べ、より立体感のある音場で迫力のある臨場感がお楽しみいただけます。

リージョンNo. [2] [ALL]
DVDプレーヤーとDVDビデオディスクは発売地域ごとに地域番号（リージョンNo.）が設けられており、再生するディスクに記載されている番号にプレーヤーの地域番号が含まれていない場合は再生できません。本機のリージョンNo.は「2」です（本体後面部に表記されています）。

D端子
デジタル放送に対応したテレビなどの機器に装備されている映像信号（Y、CB/PB、CR/PR）と映像信号のフォーマットを識別する制御信号を1つのコネクタで接続する端子です。

DivX
DivXとはDivXNetworks, Inc.のDivX® ビデオコーディング方式によるデジタルビデオ圧縮技術です。「.avi」または「.divx」という拡張子のついたファイルをDivXファイルとよびます。

DRMコピープロテクト
DRM（Digital Rights Management）コピープロテクトは著作権保護のための技術で、無許可の複製を防止するため録音時に使用したPCなどの機器以外での再生を制限するなどの機能です。詳しくは、録音に使用した機器・アプリケーションの取扱説明書やヘルプなどをご覧ください。

DVDビデオフォーマット記録
DVD VIDEO、またはDVD VIDEOマークの付いている市販のDVDビデオディスクと同じ方式(フォーマット)でDVD-R/DVD-RWディスクに一筆書きのように記録することをいいます。
パイオニアのDVDレコーダーではこれをビデオモード記録といいます。ビデオモードには、高画質に録画するモードと、長時間録画するモードがあります。

Exif
Exchangeable Image File Formatの略でエグジフと読みます。富士写真フイルムが開発したデジタルスチールカメラ用のファイルフォーマットです(JEIDA規格)。撮影日などの撮影や画像に関する情報とサムネイル画像が収録できるように拡張されているファイルフォーマットです。

F-Disc（エフディスク）
8mm フィルムで撮った映像をDVDディスクに記録したものです。

お問い合わせ先：
(株) フジカラーサービス
コンシューマーフォト部
電話：03-5571-5333

GUI
Graphical User Interfaceの略です。画面にメニューを表示し、それを操作することでより使いやすい環境を提供します。

JPEG
JPEGとは、ITU-TS（国際電気通信連合: 旧CCITT）とISO（国際標準化機構）で定められた、写真やイラストなどの画像ファイルを保存する形式（画像フォーマット）のひとつです。JPEG形式の画像ファイルには「.jpg」という拡張子が付きます。デジタルカメラで撮った写真などもほとんどJPEG形式で保存されています。

MP3
MP3とは、MPEG1オーディオレイヤー３というファイル形式で圧縮した音楽データです。「.ｍｐ３」という拡張子の付いたファイルをMP3ファイルと呼びます。拡張子とは、OSやアプリケーションソフトで管理されているファイルの種類を表す文字符号です。ピリオドと３文字のアルファベットで構成されています。

MPEG
Moving Picture Experts Groupの略でエムペグと読みます。これは動画音声圧縮方法の国際標準です。
DVDビデオの映像やビデオCDの映像/音声は、この方式で記録されています。DVDビデオの中には、この方式でデジタル音声を圧縮して記録しているものもあります。

MPEG-2 AAC（Advanced Audio Coding）
MPEG-2オーディオの標準方式のひとつで、BSデジタル放送や地上デジタル放送で採用されている音声符号化規格です。低ビットレートでかつ高音質を確保できる点が特長で、番組内容によりマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。以下が米国パテントナンバーです。

08/937,950	5,481,614
5848391	5,592,584
5,291,557	5,781,888
5,451,954	08/039,478
5 400 433	08/211,547
5,222,189	5,703,999
5,357,594	08/557,046
5 752 225	08/894,844
5,394,473	5,299,238
5,583,962	5,299,239
5,274,740	5,299,240
5,633,981	5,197,087
5 297 236	5,490,170
4,914,701	5,264,846
5,235,671	5,268,685
07/640,550	5,375,189
5,579,430	5,581,654
08/678,666	05-183,988
98/03037	5,548,574
97/02875	08/506,729
97/02874	08/576,495
98/03036	5,717,821
5,227,788	08/392,756
5,285,498	

PCM
Pulse Code Modulationの略で、圧縮していない２チャンネルステレオデジタル音声です。CDのデジタル音声はほとんどこの方式です。DVDの音声記録方式のひとつでもありますが、CDのサンプリング周波数が44.1kHzであるのに対し、ＤＶＤのサンプリング周波数は48kHzや96kHzと高いので、DVDの方がより高音質の音声を楽しめます。

VRモード(ビデオレコーディングフォーマット)記録

映像、および音声信号をDVD-RWレコーダーでDVD-RWディスクの不特定な位置に即時書き込み*することをいいます。(*即時書き込み＝パソコンでは、入力されたデータをすぐにハードディスク(リムーバブルメディア)に書き込まず、一度メモリーに記憶します。その後、CPU(OS)が順番を整理してハードディスクに書き込みます。これに対して、データが入力された順にハードディスクに書き込んでいくことを即時書き込みといいます。)
パイオニアのDVDレコーダーではこれをVRモード記録といいます。VRモードには、標準な画質で録画するモードと画質、および録画時間を自由に設定して録画するモードがあります。

WMA

「Windows Media™ Audio」の略で、米国Microsoft Corporationによって開発された音声圧縮技術です。WMAデータは、7, 7.1, Windows Media Player for Windows XP、またはWindows Media 9 Seriesを使用してエンコードすることができます。
Windows Media、Windowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
WMAファイルは、米国Microsoft Corporationより認証を受けたアプリケーションを使用してエンコードしてください。もし、認証されていないアプリケーションを使用すると、正常に動作しないことがあります。

3/2.1CH

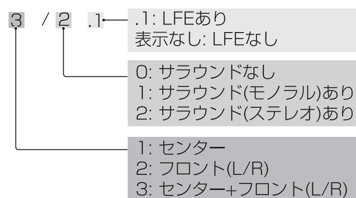
3/2.1はディスクに記録されているチャンネル数を表しています。

例）5.1CHの場合

- フロントチャンネル[L(1CH)/R(1CH)]
- センターチャンネル[(1CH)]
- サラウンドチャンネル[L(1CH)/R(1CH)]
- LFE*1 チャンネル[1CH × 0.1*2 = 0.1CH]

*1: 重低音強調効果の意
*2: 音声全体に対して低音が占める割合

GUI画面には下記のように表示されます。



(本体表示部) **RMode On**

73ページで録音モードがオンに設定されているときに、以下のボタン操作を行うと表示されます。録音モードをオフにしてから操作してください。

・サラウンド　・アドバンスド
・ダイアログ　・バスモード
・マナー／ミッドナイト　・テストトーン
・システム設定　・ワイヤレス
・MCACC 設定　・MCACC EQ

(本体表示部) **Key Lock**

69ページのキーロック機能がセットされているときに、本機の操作ボタンを使用すると、表示されます。キーロック機能がセットされているときは、本体の操作ボタンは使用することはできません。解除してから操作してください。

(本体表示部) **PhonesIn**

ヘッドホンを挿入しているときに、以下のボタン操作を行うと表示されます。

・バスモード　・テストトーン
・CH レベル　・MCACC 設定
・MCACC EQ　・ワイヤレス

(本体表示部) **96k**

88.2/96kHzリニアPCM信号を入力しているときに、以下のボタン操作を行うと表示されます。

・サラウンド　・アドバンスド
・ダイアログ

(本体表示部) **Muting**

ミューティング中にテストトーンボタンまたはMCACC 設定ボタンを押すと表示されます。

(本体表示部) **Exit**

各種メニューを表示中に、そのメニューを表示することが禁止されている信号が入力されたときに表示され、通常表示に戻ります。

(本体表示部) **TrayLock**

▲OPEN/CLOSE ボタンを８秒以上押して、「LOCK Off」を表示させせると、ディスクテーブルを開閉することができます。

(本体表示部) **Snd. Demo**

本体の**■ボタン**を５秒間押し続けてください。ディスクテーブルが自動的に開いてサウンドデモモードが解除されます。

(本体表示部) **W. Stereo**

ワイヤレスモードが「Stereo」に設定されているときに、以下のボタン操作を行うと表示されます。

・サラウンド　・アドバンスド
・ダイアログ　・バスモード
・マナー／ミッドナイト　・テストトーン
・CH レベル　・MCACC 設定
・MCACC EQ

サラウンドの自動設定(MCACC)でこんな表示が出たときは

(本体表示部) **Noisy!**

部屋の騒音レベルが大きいときに表示されます。部屋を静かにしてからやり直してください。

(本体表示部) **Err MIC!**

セットアップ用マイクが接続されていません。セットアップ用マイクを接続してからやり直してください。

(本体表示部) **Err SP!**

接続されていないスピーカーがあります。すべてのスピーカーを接続し、配置してからやり直してください。

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったらチェックしてみてください。ちょっとした操作ミスが故障と思われがちです。また、本機以外の原因も考えられます。ご使用のテレビなどもあわせてお調べください。下記の項目に従って再度点検されても直らないときは、お買い上げの販売店またはお近くのサービスステーションにお問い合わせください。

症状	原因 / 対策	参照ページ
すべてに共通		
音が出ない。	• すべてのコードが完全に接続されていますか？接続のしかたを参照して、正しく接続してください。 • スピーカーコードがショート（接触）していませんか？スピーカーコードの芯線をしっかりとねじり、もう一度スピーカー端子に接続し直してください。 • ミューティング状態になっていませんか？リモコンの消音ボタンを押してください。 • 音量がゼロになっていませんか？音量を調整してください。 • ディスクが汚れていませんか？ディスクをクリーニングしてください。 • 一時停止、コマ送り、またはスローなどの再生をしていませんか？ • ヘッドホンが挿入されていませんか?ヘッドホンを抜いてください。	セットアップガイド セットアップガイド 16 ページ 16 ページ 83 ページ 21~22 ページ 13 ページ
ワイヤレススピーカーまたはセンタースピーカーから音が出ない。	• スピーカーは正しく接続されていますか？もう一度接続を確認してください。 • ステレオ再生になっていませんか？リスニングモードを切り換えてマルチチャンネル再生**5.1ch**にしてください。 • デジタル音声モードの[**Dolby Digital 出力**]設定が[**Dolby Digital>PCM**]になっていませんか？[**Dolby Digital**]にしてください。 • ワイヤレススピーカーのTUNEDインジケーターは点灯していますか？トランスミッターのチャンネル選択ボタンを押してチャンネルを切り換えるかトランスミッターの位置を動かしてみてください。 • 本体の音量が０になっていませんか？ワイヤレススピーカーの音量は本体側で調節します。 • デジタル音声モードの[**DTS 出力**]設定が[**DTS > PCM**]になっていませんか？「**DTS**」にしてください。	セットアップガイド 45 ページ 56 ページ 56 ページ
テストトーンが出てこないスピーカーがある。	• スピーカーの接続が外れていませんか？ 確認してください。 • **2.1ch**のモードを選択していませんか？すべてのスピーカーからテストトーンを出力したいときは**5.1ch**のモードを選択してからもう一度やり直してください。 • ワイヤレスモードが「Stereo」になっていませんか？「Normal」「Wide」「Left」「Right」のいずれかに設定してください。	セットアップガイド 45, 67ページ 44 ページ

症状	原因 / 対策	参照ページ
テストトーンがまったく出ない。	• スピーカーの接続が外れていませんか？ 確認してください。 • ミューティング状態になっていませんか？リモコンの消音ボタンを押してください。 • ヘッドホンが挿入されていませんか？ヘッドホンを抜いてください。	**セットアップガイド** **16 ページ** **13 ページ**
設定した内容が消えてしまった。	• 本体の電源が入っているとき、強制的に電源コードを抜く、または停電などが起きると、設定した内容が消えてしまうことがあります。電源コードは、必ず本体のSTANDBY/ON ボタン、またはリモコンの電源ボタンを押して、表示窓の**[Good Bye]**表示が消えてから抜いてください。特に他機器のACアウトレットから電源コードを接続しているときはご注意ください。	
本体の操作ボタンを押しても動作しない。	• キーロック機能が、オンに設定されていませんか？キーロック機能をオフに設定してください。	**69 ページ**
DVD/CD 関係		
画面が止まり、操作ボタンを受け付けない。	• 本体の内部が結露していませんか?しばらく放置してください。 • 一度、■ボタンを押してから、もう一度再生してください。	**96 ページ**
ディスクテーブルを閉めても出てきたり、再生ができない。	• ディスクが極端に汚れていませんか?ディスクをクリーニングしてください。 • ディスクはディスクテーブルに正しくセットされていますか？ディスクを正しくセットしてください。 • リージョンNO.は一致していますか？リージョン「2」か「ALL」のディスクを使用してください。 • ディスクを表裏逆に入れていませんか?ディスクを正しくセットしてください。	**83 ページ** **10 ページ** **84, 87 ページ** **10 ページ**
映像が映らない。	• プログレッシブ入力に対応していないテレビとD映像接続(71ページ)しているときに**[プログレッシブ]**を選択していると映像が正常に出力されません。映像出力方式を**[プログレッシブ]**から**[インターレース]**に変更してください。映像が何も表示されなくなった場合は58ページの注意をご覧になりインターレースに切り換えてください。 • ビデオコードは十分差し込まれていますか？しっかりと差し込んでください。 • 接続しているビデオコードが断線していませんか？ビデオコードを変えて接続してみてください。	**57~58 ページ**
DVD の音声や字幕が切り換わらない。	• ディスクには複数の字幕や音声が記録されていますか？DVD ディスクのジャケットを確認してください。 • リモコンの音声ボタンや字幕ボタンで切り換わらないDVDディスクがあります。そのときは、DVDのメニュー画面で切り換えてください。	**84 ページ** **59 ページ**
画面が縦または横に伸びる、またはアスペクトが切り換わらない。	• テレビ画面とのアスペクト比の設定は合っていますか？テレビ画面のアスペクト比の設定をしてください。	**57 ページ**

症状	原因 / 対策	参照ページ
DVD 再生中に画像が乱れる、または暗い。	• 本機はアナログコピープロテクト方式のコピーガードに対応しています。ディスクによってはコピー禁止信号が入っているものがあり、そのようなディスクを再生した場合、テレビによっては一部画像に横縞が入るなどの症状が出るものもありますが、故障ではありません。	
DVD 映像をＶＴＲに録画したり、VTRを通して再生すると再生画像が乱れる。	• 本機はアナログコピープロテクト方式のコピーガードに対応しています。ディスクによってはコピー禁止信号が入っているものがあり、そのようなディスクを VTR を通して再生したり、VTR に録画して再生するとコピーガードシステムにより正常に再生されません。	
WMA/MP3、DivX ファイルを記録したディスクを再生することができない。	• 本機に対応したフォーマットのディスクを再生していますか？「再生できるディスクについて」をご確認ください。	80 ページ
DVD と CD で音量差を感じる。	• これはディスクの記録方式の違いによるものです。故障ではありません。	
本機をビデオ内蔵テレビに接続してDVDを再生すると映像が乱れる。	• ビデオ内蔵テレビの機種によっては、コピーガードの働きにより正常に再生されないことがあります。詳しくは、お使いのテレビメーカーにお問い合わせください。	
ディスクに記録されているトラック(ＭＰ３ファイル)を選択することができない。	• 本機に対応したフォーマットのディスクを再生していますか？「再生できるディスクについて」をご確認ください。	80 ページ
９６kHz のデジタルオーディオが出力されない。	• コピー保護など、いくつかの DVD では 96kHz オーディオは出力しません。この場合 96kHz が選択されていても出力は自動的に 48kHz になります。これは故障ではありません。 • [96kHzPCM出力]の設定で[96kHz>48kHz]が選択されていないか確認してください。 • 著作権保護がされているディスクでは96kHz音声のデジタル出力が禁止されています。	 56 ページ
放送関係		
放送が聞こえない、聞き苦しい。	• アンテナは接続されていますか？アンテナを正しく接続してください。 • アンテナの向き、位置は悪くなっていませんか？アンテナの向きや位置を調整してください。 • 電気器具（蛍光灯、ドライヤーなど）を使用していませんか？雑音を発生させる機器の使用をやめてください。 • トランスミッターとアンテナの距離が近いと受信状態に影響することがあります。距離を離してみてください。	セットアップガイド セットアップガイド
FM 放送がステレオなのにステレオにならない。	• 表示部のモノインジケーターが点灯していませんか？ "FM Mode" の設定を Auto にしてください。	25 ページ

症状	原因 / 対策	参照ページ
	外部機器関係	
ＢＳ デジタルチューナーからの音が、マルチチャンネル再生にならない。	• 表示部のAACインジケーターが点灯していますか？BSデジタルチューナー（またはBSデジタルチューナー内蔵テレビ）の音声出力設定で、MPEG-2 AAC信号を出力するように設定してください。 • 放送がマルチチャンネル放送（5.1ch）ですか？ステレオ放送やモノラル放送のときは、リスニングモードを 5.1ch のモードに切り換えて、マルチチャンネル再生にしてください。	**14 ページ** **45 ページ**
LINE1、テレビに接続した機器からの音がひずむ。	• 接続した機器からの出力レベルが大きくなっていませんか？入力アッテネーターを「ATT 6dB」または「ATT 10dB」にしてください。	**73 ページ**
LINE1 に接続した機器からの音が出ない。	• 正しく接続されているか、もう一度確認してください。 • LINE ボタンを押して、LINE1 にしてください。	**72 ページ** **72 ページ**
テレビに接続した機器からの音が出ない。	• 正しく接続されているか、もう一度確認してください。 • TV ボタンを押してください。	**72 ページ** **72 ページ**
	ワイヤレススピーカー関係	
ワイヤレススピーカーの音声が途切れる。	• 本機の使用する電波は、高い周波数を使用しているため、光と同じように直進、反射、屈折、回折、干渉などの性質を持っています。そのため、場所により電波の強弱が起こり、音声が止まったりすることがあります。設置場所を変えてみてください。 • トランスミッターとワイヤレススピーカーの距離が離れ過ぎていませんか？電波の届く範囲でご使用ください。 • 電気雑音の発生しやすいところで使用していませんか？設置場所を変えてみてください。	
ワイヤレススピーカーの音声が突然途切れるようになった。	• 近くに同じ周波数帯（2.4GHz）を利用する無線通信機器である、コードレスフォン、Bluetooth、無線LAN、また電子レンジなどの機器が作動していませんか？設置場所を変えてみてください。	
トランスミッターから出力された音声をワイヤレススピーカーが受信できない。	• 障害物と反射物の影響で電波状態の良い位置と悪い位置があります。トランスミッターまたはワイヤレススピーカーの位置を少し動かしてみてください。 • トランスミッターとワイヤレススピーカーは対になっており、お互いに識別しています。別に購入されたトランスミッターとワイヤレススピーカーでは通信できない仕組みになっています。	
トランスミッター周辺に設置されたテレビの画像が乱れることがある。	• トランスミッター周辺にアンテナが取り付けられているAV機器がありませんか？トランスミッターをAV機器のアンテナ入力端子から遠ざけてください。	

その他		
症状	**原因 / 対策**	**参照ページ**
タイマーが作動しない。	• 現在時刻の設定はされていますか？現在時刻を設定してください。	**20 ページ**
リモコンがきかない。	• リモコンの電池はなくなっていませんか？新しい電池に換えてください。 • 蛍光灯がリモコン受光部の近くにありませんか？蛍光灯をリモコン受光部から離してください。 • 7m以内、左右30°以内で、リモコンを本機に向けて操作してください。 • 本機とリモコンとの間に、信号を遮る障害物がありませんか?障害物を取り除くか、操作する場所を移動してください。 • SR+ケーブルを本機のコントロール入力端子に接続すると、本機のリモコン受光部は信号を受け付けません。リモコン操作をするときはリモコンをプラズマディスプレイのリモコン受光部に向けてください。	**セットアップガイド** **13 ページ** **13 ページ**
タイマーインジケーターが緑色に点滅して、電源が入らず何の操作もできない。	• 電源コードを抜いてから、スピーカーコードがスピーカー端子からはみ出してリアパネルとショートしていないか、リアにあるファンに異物がはさまっていないか確認してみてください。再び電源コードを差し込んでから 1 分後に ⏻ 電源ボタンを押して電源を入れてみてください。それでも本機の電源が入らず何の動作もしないときは、最寄りの弊社サービスステーションに連絡してください。	
「Snd. Demo」と表示され本機の操作ができない。	• 本体の ■ ボタンを５秒間押し続けてください。ディスクテーブルが自動的に開いてサウンドデモモードが解除されます。	
設定した内容が、すべてクリアされている。	• 2、3日、電源コードを抜いたままにしておくと、設定した内容はクリアされてしまいます。再設定してください。	
動作しない。	• 電源コードが外れていませんか？電源コードを正しく接続してください。	**セットアップガイド**

• 静電気など、外部からの影響により本機が正常に動作しない場合があります。このようなときは、電源コードを一度抜いて再度差し込むことにより正常に動作します。

マルチチャンネル再生にならないときは

マルチチャンネル（5.1ch）再生にならないときは、以下を確認してみてください。案外簡単なミスや勘違いをしていることもあります。

1. **サラウンドボタンを押して、オートモードを選ぶ（45 ページ）**

再生している音声に応じたサウンドモードに自動で切り換わります。

2. **ワイヤレスボタンを押して「Sereo」または「Off」以外を選ぶ**

WIRELESSインジケーターが点灯します。

3. **テストトーンを出力してみる（67 ページ）**

すべてのスピーカーからテストトーン（ザーという音）が出力されていることを確認してください。テストトーンが出力されないスピーカーがあるときは、接続をもう一度確かめてから、もう一度テストトーンを出力してみてください。

4. **5.1ch のリスニングモードを選択する（45、47 ページ）**

ステレオソースもマルチチャンネルにして再生します。

メ モ

▼ 複数の音声が収録されているDVDディスクの場合、再生している音声によって、ステレオ再生またはマルチチャンネル再生になります。（84 ページ）

結露について

● 冬期などに本機を寒いところから暖かい室内に持ち込んだり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部(動作部やレンズ)に水滴が付きます(結露)。結露したままでは本機は正常に動作せず、再生ができません。結露の状態にもよりますが、本機の電源を入れて1～2時間放置し、本機の温度を室温に保てば水滴が消え、再生できるようになります。
夏でもエアコンなどの風が、本機に直接あたると結露が起こることがあります。その場合は本機の設置場所を変えてください。

使用上のご注意

注　意

この製品はJIS C 6802規格の基で評価されたクラス1レーザ製品ですが、内部にはクラス1のレベルを超える危険なレーザ放射があります。
分解や改造などは絶対に行わないでください。

クラス1
レーザ製品

危険なレーザ放射に接する恐れのある部分には、以下の注意文表示があります。

注意　ここを開くと CLASS 3B の可視レーザ光及び不可視レーザ光が出ます。ビームを直接見たり、触れたりしないこと。
ARW7316–A

D3-7-12-5-5_Ja

設置する場所

- 組み合わせて使用するテレビやステレオシステムの近くの安定した場所を選んでください。
- テレビやカラーモニターの上に本機を設置しないでください。カセットデッキなど、磁気の影響を受けやすい機器とは離して設置してください。

次のような場所は避けてください

- 直射日光のあたる所
- 湿気の多い所や風通しの悪い所
- 極端に暑い所や寒い所
- 振動のある所
- ホコリの多い所
- 油煙、蒸気、熱があたる所（台所など）

上に物をのせない

本機の上に物をのせないでください。

熱を受けないように

本機をアンプなど、熱を発生する機器の上にのせないでください。ラックに入れる場合はアンプや他のオーディオ機器から出る熱を避けるため、アンプよりできるだけ下の棚に入れてください。

本機を使わないときは電源を切る

テレビ放送の電波状態により、本機の電源を入れたままテレビをつけると画面にしま模様が出る場合がありますが、本機やテレビの故障ではありません。このような場合は本機の電源を切ってください。ラジオの音声の場合も同様にノイズが入ることがあります。

本機を移動する場合

本機を移動する場合は、必ずディスクを取り出しディスクテーブルを閉じてください。さらに本体の⏻**STANDBY/ON ボタン**(またはリモコンの⏻**電源ボタン**)を押し、表示窓の[Good Bye]表示が消えてから電源コードを抜いてください。ディスクを内部に入れたまま移動すると、故障の原因となります。

製品のお手入れについて

- 本体は通常、柔らかい布で空拭きしてください。汚れがひどい場合は水で5～6倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞り、汚れを拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。
- アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、ゴムやビニール製品を長時間触れさせせることも、キャビネットを傷めますので避けてください。
- 化学ぞうきんなどをお使いの場合は、化学ぞうきんなどに添付の注意事項をよくお読みください。
- お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

電波に関するご注意

- 本機は盗聴防止機能を搭載しておりますが、傍受(無線通信内容を第三者が別の受信機で故意または偶然に受信すること)にご注意ください。本機は電波を使用している関係上、第三者が故意に傍受するケースも考えられます。機密を要する重要な通信や人命にかかわる通信には使用しないでください。
- 本機は電波法に基づく小電力データ通信システム無線局設備として、技術基準適合証明を受けています。したがって本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。また、本機は日本国内のみで使用できます。

本機は、2.4 GHz の周波数帯の電波を利用しています。この周波数の電波は、下記①に示すようにいろいろな機器が使用しています。また、お客様に存在がわかりにくい機器として下記 ② に示すような機器もあります。

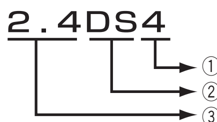
① 2.4 GHz を使用する主な機器の例
- コードレスフォン
- コードレスファクシミリ
- 電子レンジ
- 無線ルーター
- ワイヤレス AV 機器
- ゲーム機のワイヤレスコントローラー
- マイクロ波治療機器類
- Bluetooth 対応機器

② 存在がわかりにくい2.4 GHzを使用する主な機器の例
- 万引き防止システム
- アマチュア無線局
- 工場や倉庫などの物流管理システム
- 鉄道車両や緊急車両の識別システム

これらの機器と本システムを同時に使用すると、電波の干渉により、音が途切れて雑音のように聞こえたり、音が出なくなることがあります。このようなときは、本機のTUNEDインジケーターが点滅または消灯しますが、電波干渉によるもので本機の故障ではありません。
受信状況の改善方法としては以下の方法があります。
- 電波を発生している相手機器の電源を切る
- 干渉している機器の距離を離して設置する
- トランスミッターのチャンネル選択ボタンで干渉されない他のチャンネルを選択する

次の場所では本機を使用しないでください。ノイズが出たり、送信 / 受信ができなくなる場合があります
- 同じ周波数帯(2.4 GHz)を利用する無線通信機器である Bluetooth、無線 LAN、また電子レンジなどの機器の磁場、静電気、電波障害が発生するところ。(環境により電波が届かない場合があります)
- ラジオから離してお使いください。(ノイズが出る場合があります)
- テレビにノイズが出た場合、トランスミッターがテレビ、ビデオ、BS チューナー、CS チューナーなどのアンテナ入力端子に影響を及ぼしている可能性があります。トランスミッターをアンテナ入力端子から遠ざけて設置してください。

- 本機は、技術基準適合証明を受けていますので、以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
- 分解 / 改造すること。
- 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと。



①「4」 想定される与干渉距離(約40m)を表します
②「DS」 変調方式を表します
③「2.4」 GHz帯を使用する無線設備を表します

- 本機の使用する周波数帯域(2.4GHz)では、無線通信機器であるBluetooth、無線LAN、また電子レンジなどの機器の他、工場、製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する)及び、特定小電力無線局が同じように利用して運用されています。
  本機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
  万一、本機から移動体識別用の構内無線局に対して電波障害の事例が発生した場合、すみやかにその場での本機の使用を中断してください。

使用範囲について

- ご家庭内での使用に限ります。
  (通信の環境により伝送距離が短くなることがあります)

次のような場合、電波状態が悪くなったり電波が届かなくなることが原因で、音声が途切れたり停止したりします

- 鉄筋コンクリートや金属の使われている壁や床を通して使用する場合。
- 大型の金属製家具の近くなど。
- 人混みの中や、建物障害物の近くなど。
- 同じ周波数帯（2.4GHz）を利用する無線通信機器であるBluetooth、無線LAN、また電子レンジなどの機器の磁場、静電気、電波障害が発生するところ。
- 集合住宅（アパート・マンションなど）にお住まいで、お隣で使用している電子レンジ設置場所が本機に近い場合。尚、電子レンジは、使用していなければ電波干渉はおこりません。

電波の反射について

- ワイヤレススピーカーに届く電波には、トランスミッターから直接届く電波（直接波）と、壁や家具、建物などに反射してさまざまな方向から届く電波（反射波）があります。これにより、障害物と反射物とのさまざまな反射波が発生し、電波状態の良い位置と悪い位置が生じ、音声がうまく受信できなくなることがあります。このようなときは、ワイヤレススピーカーの場所を少し動かしてみてください。トランスミッターとワイヤレススピーカーの間を人間が横切ったり、近づいたりすることによっても、反射波の影響で音声が途切れたりすることがあります。

注 意

◆ お客さま、または第三者使用によるこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

安全にお使いいただくために

- 高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは使用しない。
  電子機器に誤動作するなどの影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。

ご注意いただきたい電子機器の例

補聴器、ペースメーカー、その他医療用電気機器、火災報知器、自動ドア、その他自動制御機器など。
ペースメーカー、その他医療用電気機器をご使用される方は、該当の各医療用電気機器メーカーもしくは販売業者に電波による影響についてご確認ください。

- 航空機器や病院など、使用を禁止された場所では使用しないでください。
  電子機器や医療用電気機器に影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。医療機関の指示に従ってください。

本製品は家庭用オーディオ機器（オーディオ・ビデオ機器）です。下記の注意事項を守ってご使用ください。

1. 一般家庭用以外での使用（例：店舗などにおけるBGMを目的とした長時間使用、車両・船舶への搭載、屋外での使用など）はしないでください。
2. 音楽信号の再生を目的として設計されていますので、測定器の信号（連続波）などの増幅用には使用しないでください。
3. ハウリングで製品が故障する恐れがありますので、マイクロフォンを接続する場合はマイクロフォンをスピーカーに向けたり、音が歪むような大音量では使用しないでください。
4. スピーカーの許容入力を超えるような大音量で再生しないでください。

S26_Ja

初期設定一覧

初期設定

メニュー	項目	設定	参照
デジタル音声モード	DDDigital出力	■DDDigital DDDigital > PCM	P.56
	DTS出力	■DTS DTS > PCM	P.56
	96 kHz PCM出力	96 kHz > 48kHz ■ 96 kHz	P.56

初期設定

メニュー	項目	設定	参照
映像出力	テレビ画面	■ 4:3(レターボックス) 4:3(パンスキャン) 16:9(ワイド)	P.57
	D2映像出力	プログレッシブ ■ インターレース	P.57

初期設定

メニュー	項目	設定	参照
言 語	音声言語	■日本語 英語 その他の言語	P.59
	字幕言語	■日本語 英語 その他の言語	P.59
	DVDメニュー言語	■字幕言語に連動 日本語 英語 その他の言語	P.59
	字幕表示	■オン オフ	P.59

初期設定

メニュー	項目	設定	参照
表 示	画面表示言語	■日本語 English	P.60
	アングルマーク表示	■オン オフ	P.60

初期設定

メニュー	項目	設定	参照
オプション	視聴制限	暗証番号 レベル変更 国コード	P.60
	DivX VOD	登録番号	P.61

視聴制限のお買い上げ時の設定は、暗証番号未設定、レベル変更オフ、国 / 地区コードは日本の設定となっています。

本機では、画面表示にＮＥＣのフォント「Font Avenue」を使用しています。
Font Avenue は NEC の登録商標です。

設定した内容をお買い上げ時の状態に戻す

1. **電源をオフにして、スタンバイ状態にします**

電源が入っているときは、⏻電源ボタンを押します。

2. **本体の■ボタンを8 秒間押します**

以下のように表示されます。

Mem. Clr?

3. **本体の▶/❚❚ボタンを押します**

▶/❚❚ DVD/CD

電源がオンになり、設定した内容がすべてお買い上げ時の状態に戻ります。

注 意

◆ 初期化すると、記憶していたすべてのメモリーが同時に消去されます。初期化するときは十分にご注意ください。

保証とアフターサービス

保証書（別添）について

保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から１年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

ステレオの補修用性能部品の最低保有期間は製造打ち切り後８年です。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談

お買い上げの販売店へご依頼ください。また、ご転居されたりご贈答品などでお買い求めの販売店に修理のご依頼ができない場合は、別添の修理受付センターにご相談ください。
所在地、電話番号は裏表紙の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

修理を依頼されるとき

91～96ページに従って調べていただき、なお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

トランスミッターまたはワイヤレススピーカーの修理を依頼されるときは、トランスミッターとワイヤレススピーカーを２つ１組としてご依頼ください。

連絡していただきたい内容

- ご住所
- お名前
- お電話番号
- 製品名：DVD 5.1ch サラウンドシステム
- 型番：HTZ-535DV
- お買い上げ日
- 故障の状況（できるだけ詳しく）
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標（建物、公園など）

■ 保証期間中は：

修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

■ 保証期間が過ぎているときは：

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

■ お願い：

修理のために本機をお持ち込みいただく際は、部分的な故障と思われる場合でもシステム全体での動作確認が必要となるため、全機器をお持ち込み願います。

愛情点検



長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。
こんな症状はありませんか？

- 電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。
- 電源コードにさけめやひび割れがある。
- 電気が入ったり切れたりする。
- 本体から異常な音、熱、臭いがする。



すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜いて、故障や事故防止のため電気店またはお近くのパイオニアサービスステーションに点検(有料)をご依頼ください。

DVD/CD チューナー部 (XV-DV535)

■ アンプ部

実用最大出力（JEITA）
フロント（1 kHz、10 %、6 Ω）
.... 100 W x 2
サラウンド（1 kHz、10 %、6 Ω）
.... 100 W x 2
センター（1 kHz、10 %、6 Ω）.. 100 W
サブウーファー（100 Hz、10 %、6 Ω）
.... 100 W

■ DVD 部（音声）

周波数特性
48 kHz サンプリング ...... 4 Hz ～ 22 kHz
96 kHz サンプリング ...... 4 Hz ～ 44 kHz
ワウ・フラッター .... 測定限界以下
（± 0.001 % W.PEAK)

■ DVD 部（映像）

映像出力
出力レベル ... 1 Vp-p（75 Ω負荷時、同期負）
出力端子 .... RCA 端子
S 映像出力
映像 Y 出力レベル .... 1 Vp-p（75 Ω）
映像 C 出力レベル .... 286 mVp-p（75 Ω）
出力端子 .... S 端子
D1/D2 映像出力（Y、C_B/P_B、C_R/P_R）
映像 Y 出力レベル .... 1 Vp-p（75 Ω）
映像 C_B/P_B、C_R/P_R 出力レベル
.... 0.7 Vp-p（75 Ω）
出力端子 .... D 端子

■ DVD 部（その他の端子）

光デジタル入力（PCM/DD/DTS）
.... 光入力コネクター
光デジタル出力（PCM/DD/DTS）
.... 光出力コネクター

■ チューナ部

FM チューナ部
受信周波数 .... 76.0 ～ 90.0 MHz
アンテナ .... 75 Ω不平衡型
AM チューナ部
受信周波数 .... 522 kHz ～ 1,629 kHz
アンテナ .... ループアンテナ（付属）

■ 電源部

電源電圧 .... AC100 V、50/60 Hz
消費電力 .... 175 W
スタンバイ消費電力 .... 0.5 W

■ その他

外形寸法 .... 420 X 70 X 399.5mm
（幅）X（高さ）X（奥行）
質量 .... 7.0 kg
許容動作温度 .... ＋ 5 ℃～＋ 35 ℃
許容動作湿度 .. 5 %～ 85 %(結露のないこと)

スピーカーシステム部 (S-DV535)

フロントスピーカー
型式 .... 密閉式ブックシェルフ型
防磁設計（JEITA）
使用スピーカー
フルレンジ .... 7.7cm（コーン型）
公称インピーダンス .... 6 Ω
再生周波数帯域 .... 85 ～ 20,000 Hz
最大入力 .... 100 W（JEITA）
外形寸法 .... 105 X 118X 114 mm
（幅）X（高さ）X（奥行）
質量 .... 0.6 kg

センタースピーカー
型式 .... 密閉式ブックシェルフ型
防磁設計（JEITA）
使用スピーカー
フルレンジ .... 7.7cm（コーン型）
公称インピーダンス .... 6 Ω
再生周波数帯域 .... 75 ～ 20,000 Hz
最大入力 .... 100 W（JEITA）
外形寸法 .... 270 X 90 X 100 mm
（幅）X（高さ）X（奥行）

質量 .... 0.8 kg

サブウーファー

型式 .... バスレフ式フロア型
使用スピーカー
　ウーファー .... 16 cm（コーン型）
公称インピーダンス .... 6 Ω
再生周波数帯域 .... 30 ～ 2000 Hz
最大入力 .... 100 W（JEITA）
外形寸法 .... 116 X 420 X 390 mm
（幅）X（高さ）X（奥行）
質量 .... 4.4 kg

ワイヤレススピーカーシステム部 (XW-DV535)

一般

型式 . デジタルワイヤレススピーカーシステム
（トランスミッター / ワイヤレススピーカー）

ワイヤレススピーカー

電源 .... AC 100 V、50/60 Hz
消費電力 30W
アンプ
　実用最大出力（JEITA）............... 10W/ch
　.........................（1 kHz, THD 10 %, 4 Ω）
スピーカーユニット .... 7cm（コーン型）X 2
質量 .... 2.9 kg
外形寸法 .... 461.5 X 176.5 X 95 mm
（幅）X（高さ）X（奥行）

トランスミッター

AC アダプター
　電源 .... AC 100 V、50/60 Hz
　定格 .... 9 VA
　定格出力 .... DC12 V/300 mA
消費電力（本体のみ）................................. 2W
入力 .... RCA ジャック
質量 .... 0.3 kg
外形寸法 .... 166 X 56 X 112 mm
（幅）X（高さ）X（奥行）

■ 付属品

DVD レシーバー部

リモコン 1
AM ループアンテナ 1
FM 簡易アンテナ 1
ビデオコード （1.5 m）.................................. 1
単 3 形乾電池（AA/R6）.................................. 2
MCACC セットアップ用マイク 1
電源コード 1
取扱説明書
　本編（本書）.. 1
　システムセットアップガイド 1
保証書 1

スピーカー部

スピーカーコード
　（4 m / フロントスピーカー用）................ 2
　（4 m / センタースピーカー用）................ 1
　（4 m / サブウーファー用）........................ 1
滑り止めパッド（小）.................................. 12
滑り止めパッド（大）.................................... 4

ワイヤレススピーカー部

オーディオコード 1
AC アダプター 1
電源コード 1
コーションラベル 1

●仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

本機は一般家庭用機器として作られたものです。一般家庭用以外（たとえば飲食店等での営業用の長時間使用、車輌、船舶への搭載使用）で使用し、故障した場合は、保証期間内でも有償修理を承ります。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所へのおもいやりを十分にいたしましょう。ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。
特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉めたり、ヘッドホンで聞くのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。



サービスステーションリスト

サービスステーションへの電話は、本取扱説明書の裏表紙の修理受付センターでお受けします。(沖縄県の方は沖縄サービスステーションでお受けします。)
記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。
また、認定店は不在の場合もございますので、持ち込み希望のお客様は、修理受付センターにご確認ください。

北海道地区
受付 月～金 9:30～18:00 (土･日･祝･弊社休業日は除く) 太字の拠点は、土曜も受付 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)

札幌サービスセンター	**FAX 011-611-5694**	**〒064-0822**	**札幌市中央区北2条西20-1-3クワザワビル**
旭川サービス認定店	FAX 0166-55-7207	〒070-0831	旭川市旭町１条１丁目438-89
帯広サービス認定店	FAX 0155-23-7757	〒080-0015	帯広市西5条南28丁目1-1
函館サービス認定店	FAX 0138-40-6473	〒041-0811	函館市富岡町2-18-7

東北地区
受付 月～金 9:30～18:00 (土･日･祝･弊社休業日は除く) 太字の拠点は、土曜も受付 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)

仙台サービスステーション	**FAX 022-375-4996**	**〒981-3121**	**仙台市泉区上谷刈石田20**
山形サービス認定店	FAX 023-615-1627	〒990-0023	山形市松波1-8-17
盛岡サービスステーション	FAX 019-659-1895	〒020-0051	盛岡市下太田下川原153-1
青森サービス認定店	FAX 017-735-2438	〒030-0821	青森市勝田2-16-10
八戸サービス認定店	FAX 0178-44-3351	〒031-0802	八戸市小中野4-3-34
秋田サービス認定店	FAX 018-869-7401	〒010-0802	秋田市外旭川字梶の目346-1
郡山サービスステーション	FAX 024-934-6566	〒963-8861	郡山市鶴見坦1-9-25 クレールアヴェニュー伊藤第2ビル

関東･甲信越地区 (1)
受付 月～土 9:30～18:00 (日･祝･弊社休業日は除く)

世田谷サービスステーション	FAX 03-3419-4234	〒155-0032	世田谷区代沢4-25-9
墨田サービスステーション	FAX 03-3621-7610	〒130-0011	墨田区石原4-27-9中島ICハイツ1F
城北サービスステーション	FAX 03-3550-3625	〒175-0083	板橋区徳丸4-11-4
多摩サービスステーション	FAX 042-524-5947	〒190-0003	立川市栄町4-18-1エクセル立川１Ｆ

関東･甲信越地区 (2)
受付 月～金 9:30～18:00 (土･日･祝･弊社休業日は除く) **太字**の拠点は、土曜も受付 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)

新潟サービスステーション	FAX 025-241-1879	〒950-0913	新潟市鐙1-5-23
佐渡サービス指定店 横山電機商会	FAX 0259-63-3400	〒952-1209	佐渡市金井町千種1158-1
千葉サービスセンター	**FAX 043-207-2555**	**〒263-0014**	**千葉市稲毛区作草部町1369-1椎の実ハイツ1F**
つくばサービス認定店	FAX 0298-58-1369	〒305-0045	つくば市梅園2-2-6
水戸サービス認定店	FAX 029-248-1306	〒310-0844	水戸市住吉町307-4
埼玉サービスセンター	**FAX 048-651-8030**	**〒331-0812**	**さいたま市北区宮原町1-310-1**
川越サービス認定店	FAX 049-233-6581	〒350-0804	川越市下広谷1128-11
宇都宮サービス認定店	FAX 028-657-5882	〒321-0912	宇都宮市石井町3373-1
群馬サービス認定店	FAX 0270-22-1859	〒372-0801	伊勢崎市宮子町1191-17パサージュ808伊勢崎101号
神奈川サービスセンター	**FAX 045-943-3788**	**〒224-0037**	**横浜市都筑区茅ヶ崎南2-18-1ベルデユール茅ヶ崎**
横浜北サービス認定店	FAX 045-943-3155	〒224-0036	横浜市都筑区勝田南1-19-17
厚木サービス認定店	FAX 046-224-7724	〒243-0807	厚木市金田339-1金田コーポフロンテア201
三宅島サービス指定店 勝見電機	TEL 04994-6-1246	〒100-1211	三宅村大字坪田
松本サービスステーション	FAX 0263-48-2768	〒390-0852	松本市大字島立180-5
長野サービス認定店	FAX 026-229-5250	〒380-0935	長野市中御所1-24
甲府サービス認定店	FAX 055-228-8003	〒400-0035	甲府市飯田4-9-14

中部地区
受付 月～金 9:30～18:00 (土･日･祝･弊社休業日は除く) **太字**の拠点は、土曜も受付 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)

名古屋サービスセンター	**FAX 052-532-1148**	**〒451-0063**	**名古屋市西区押切2-8-18**
津サービス認定店	FAX 059-213-6712	〒514-0821	津市垂水522-5
岡崎サービス認定店	FAX 0564-33-7080	〒444-0931	岡崎市大和町字荒田36-1大和ビレッジ B-1
岐阜サービス認定店	FAX 058-274-5256	〒500-8356	岐阜市六条江東1-1-3
静岡サービスステーション	FAX 054-237-5691	〒422-8034	静岡市高松1-6-5
沼津サービス認定店	FAX 055-967-8455	〒410-0876	沼津市北今沢12-7
浜松サービス認定店	FAX 053-422-1401	〒435-0042	浜松市篠ヶ瀬町415ビラモデルナ5号
金沢サービスステーション	FAX 076-269-4758	〒920-0362	金沢市古府1丁目178
富山サービス認定店	FAX 076-425-3027	〒939-8211	富山市二口町1-7-1
福井サービス認定店	FAX 0776-27-1768	〒910-0001	福井市大願寺3-5-9

関西地区
受付 月～金 9:30～18:00 (土･日･祝･弊社休業日は除く) **太字**の拠点は、土曜も受付 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)

大阪サービスセンター	**FAX 06-6310-9120**	**〒564-0052**	**吹田市広芝町5-8**
大阪南サービス認定店	FAX 0722-75-2625	〒593-8322	堺市津久野町1-8-15 ローズマンション1F
大阪北サービス認定店	FAX 06-6453-5666	〒531-0076	大阪市北区大淀中3-9-4
奈良サービス認定店	FAX 0742-36-8713	〒630-8132	奈良市大森西町21-26
和歌山サービス認定店	FAX 0734-46-3026	〒641-0021	和歌山市和歌浦東3-1-25
京都サービスステーション	FAX 075-352-2588	〒600-8322	京都市下京区西洞院通五条東南角小柳町513-2五条久保田ビル1F
福知山サービス認定店	FAX 0773-24-5375	〒620-0055	福知山市篠尾新町2-74カマハチマンション
神戸サービスステーション	FAX 078-251-7173	〒651-0086	神戸市中央区磯上通り5-1-13
姫路サービス認定店	FAX 0792-51-2656	〒671-0224	姫路市別所町佐土4-2

中国地区
受付 月～金 9:30～18:00 (土･日･祝･弊社休業日は除く) **太字**の拠点は、土曜も受付 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)

広島サービスステーション	**FAX 082-248-9939**	**〒730-0041**	**広島市中区小町2-30第二有楽ビル1F**
徳山サービス認定店	FAX 0834-33-5759	〒745-0006	徳山市花畠町3-11森広事務所1F
福山サービス認定店	FAX 0849-31-2791	〒720-0815	福山市野上町3-12-9
岡山サービスステーション	FAX 086-244-8748	〒700-0975	岡山市今8-15-21
松江サービス認定店	FAX 0852-22-7779	〒690-0017	松江市西津田4-5-40 (有)テクピット内
鳥取サービス認定店	FAX 0857-29-1290	〒680-0061	鳥取市立川町5-240-1

四国地区
受付 月～金 9:30～18:00 (土･日･祝･弊社休業日は除く)

高松サービスステーション	FAX 087-861-4841	〒760-0078	高松市今里町1-16-1
徳島サービス認定店	FAX 088-669-6076	〒770-8023	徳島市勝占町中須92-1大松ジョリカ地下1階103号
高知サービス認定店	FAX 088-802-3321	〒780-0051	高知市愛宕町3-12-13晃栄ビル1 F
松山サービス認定店	FAX 089-951-6270	〒791-8067	松山市古三津5-10-35商船ビル1 F

九州地区
受付 月～金 9:30～18:00 (土･日･祝･弊社休業日は除く) **太字**の拠点は、土曜も受付 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)

福岡サービスステーション	**FAX 092-412-7460**	**〒812-0016**	**福岡市博多区博多駅南2-12-3**
博多サービス認定店	FAX 092-461-1643	〒812-0006	福岡市博多区上牟田2-6-7
長崎サービス認定店	FAX 095-849-4606	〒852-8145	長崎市昭和1丁目12-10 クリスタルハイツ平野
熊本サービス認定店	FAX 096-331-3323	〒862-0918	熊本市花立5丁目14-17
大分サービス認定店	FAX 097-549-2420	〒870-0851	大分市大石町5丁目1-1
北九州サービスステーション	FAX 093-951-1748	〒802-0011	北九州市小倉北区重住3-1-20
鹿児島サービスステーション	FAX 099-224-7692	〒892-0841	鹿児島市照国町3-21 第二大見ビル2 F
宮崎サービス認定店	FAX 0985-27-3136	〒880-0821	宮崎市浮城町98-1

沖縄地区(沖縄県のみ)
受付　月～金　9:30～18:00 (土･日･祝･弊社休業日は除く)

沖縄サービスステーション	TEL　098-879-1910 FAX　098-879-1352	〒901-2122	浦添市勢理客4-18-1トヨタマイカーセンター3F

平成17年1月現在

この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要さない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに使用周波数を変更するか又は電波の発射を停止したうえ、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置など（例えば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
3. その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先）カスタマーサポートセンター：フリーフォン 0070-800-8181-22

http://www.pioneer.co.jp/support/

ご相談窓口　・　修理窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。
なお、修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、① 型名 ②ご購入日 ③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

●パイオニアホームページ　：お客様サポート　http://www.pioneer.co.jp/support/index.html
（商品についてよくあるお問い合わせ・カタログの請求・メールマガジン登録のご案内など）

<下記窓口へのお問い合わせの時のご注意>市外局番「0070」で始まるフリーフォン及び「0120」で始まるフリーダイヤルは、ＰＨＳ、携帯電話などからは、ご使用になれません。
また、【一般電話】は、携帯電話・PHS などからご利用可能ですが、通話料がかかります。

商品のご購入や取り扱いについてのご相談窓口

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーフォン）
受付　月曜～金曜 ９：３０～１７：００、土曜・日曜・祝日 ９：３０～１２：００、１３：００～１７：００（弊社休業日は除く）

●家庭用オーディオ／ビジュアル商品のご相談窓口およびカタログのご請求窓口　フリーフォン ００７０－８００－８１８１－２２
一般電話　【一般電話】０３－５４９６－２９８６
●ファックス受付　０３－３４９０－５７１８

部品のご購入についてのご相談窓口

●部品（付属品、リモコン、取扱説明書など）のご購入については、部品受注センターへお問い合わせください。

部品受注センター
受付　月曜～金曜 ９：３０～１８：００、土曜・日曜・祝日 ９：３０～１２：００、１３：００～１７：００（弊社休業日は除く）
電話（ﾌﾘｰﾀﾞｲﾔﾙ）０１２０－５－８１０９５　ファックス（ﾌﾘｰﾀﾞｲﾔﾙ）０１２０－５－８１０９６
一般電話　０５３８－４３－１１６１

修理についてのご相談窓口

●お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合は、修理受付センターへ（沖縄の方は、沖縄サービスステーションへ）

修理受付センター（沖縄県を除く全国）
受付　月曜～金曜 ９：３０～１９：００、土曜・日曜・祝日 ９：３０～１２：００、１３：００～１８：００（弊社休業日は除く）
電話（ﾌﾘｰﾀﾞｲﾔﾙ）０１２０－５－８１０２８（ゴーパイオニア）　ファックス（ﾌﾘｰﾀﾞｲﾔﾙ）０１２０－５－８１０２９
一般電話　０３－５４９６－２０２３

沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）
受付　月曜～金曜 ９：３０～１８：００（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）
一般電話　０９８－８７９－１９１０　ファックス　０９８－８７９－１３５２

VOL.012

JIS C 61000-3-2適合品　D50-5-10-1_A_Ja

JIS C 61000-3-2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第3-2部：限度値－高調波電流発生限度値(1相当たりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

パイオニア株式会社　〒153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

<05B000001>　<XRA3028-A>